

第116回 日本精神神経学会学術総会

The 116th Annual Meeting of the Japanese Society of Psychiatry and Neurology

Critique on psychiatry today

今日の精神医学の検証

10

年後への
道標として

as a signpost for the next 10 years

ライブ配信：2020年9月28日(月)－30日(水)

オンデマンド配信：2020年9月28日(月)－10月31日(土)

会場：WEB開催

会長 矢部 博興 福島県立医科大学医学部 神経精神医学講座 教授

副会長 大谷 浩一 山形大学医学部医学科 精神医学講座 教授

副会長 星野 修三 福島県精神科病院協会 会長
一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 副院長

目 次

ご挨拶	2
第 116 回日本精神神経学会学術総会 ご案内	4
日程表	6
参加者の皆様へ	12
精神科専門医資格の更新単位取得方法について	13
司会および演者・発表者の皆様へ	15
日本精神神経学会関連各賞	16
日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞/ 精神科専門医研修中・初期臨床研修中の医師、学部学生による演題/ 精神神経学雑誌投稿奨励賞	18
特別企画	19
世界各国の若手精神科医との国際的ネットワーク構築に向けたミーティングのご案内	20
第 116 回日本精神神経学会学術総会 プログラム委員	21
セッション一覧	23
プログラム	31
ワークショップのご案内	175
日本精神神経学会学術総会 会長一覧	190
広告掲載企業	194
受講記録表	巻末

ご挨拶

第116回日本精神神経学会学術総会

会長：矢部 博興

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座



第116回日本精神神経学会学術総会を2020年6月18日～20日の3日間にわたり仙台市の仙台国際センターおよび東北大学川内萩ホールで開催させていただく予定でありましたが、ご存知のように、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大と「緊急事態宣言」の発令に伴って、開催延期を余儀なくされました。開催場所は、同じ仙台国際センターを主会場とし、2020年9月28日(月)～9月30日(水)の日程で開催させていただくことになりました。急な変更にも関わらず、皆さまにご了承いただきましたことに感謝申し上げます。またプログラムは、当初予定されていた構成を出来る限り維持したまま日程のみ移動する方針といたしました。しかし、全ての会場を確保出来ず、部分的に設営にあてざるを得ない会場もあるため、変更を余儀なくされましたこともご理解ください。さて、COVID-19感染流行の現状を踏まえますと、その余波がいつまで続くかは予断を許さない状況です。そのため、まずは通常の現地開催を目指しますが、それが難しい場合を想定して、様々な形式でのWEB講演ハイブリッドでの現地開催を予定しております。感染状況に応じて、現地での講演、ビデオ録画やパワーポイント録音を用いたオンデマンド配信、WEBライブ配信を組み合わせ、来場できない場合でも専門医単位の取得などに支障が無いようにするつもりです(このご挨拶の記載時点では、方式の確定は出来ませんことをご容赦ください)。また、最悪の事態に備えるこれらの体制強化のために、限界まで経済性を追求しても例年以上の支出が必要となります。本学会は従来から企業との共催セミナーを行わず、主に参加費で運営されますことから、参加費の値上げにご理解を頂きましたことにも感謝申し上げます。

本学会の東北での開催は6回目となりますが、1929年に第28回総会(仙台)を丸井清泰先生、1953年に第50回総会(仙台)を石橋俊実先生、1964年に第61回総会(盛岡)を三浦信之先生、1986年に第82回総会(盛岡)を切替辰哉先生、そして最後に2000年に第96回総会(仙台)を佐藤光源先生が開催されてから実に20年ぶりとなります。

本学術総会のテーマは、「今日の精神医学の検証—10年後への道標として— Critique on psychiatry today as a signpost for the next 10 years」といたしました。臨床、教育、研究、そして災害医学・医療の各分野における精神医学の検証を行って将来への道標となる学会となることを目指します。2011年3月11日に発生した東日本大震災は、岩手、宮城、福島の3県を中心に東北地方に地震・津波による甚大な被害をもたらしました。しかし、福島県における最大の災厄は、東京電力福島第一原子力発電所の事故であったと言えます。原発事故後の住民に沈滞した心の傷は深く、心理社会的問題は継続し複雑化しています。事故直後には内閣府による居住制限のため12万人を越える住民が避難を余儀なくされ、県内外で長期的な避難生活を送ることとなりました。平成27年の檜葉町、平成29年には川俣町、浪江町、飯舘村、富岡町の居住制限区域及び避難指示解除準備区域の避難指示が解除されましたが、今なお3万1千人を超える県外避難者がいます。これは、県外避難が非常に少ない岩手県や宮城県の状況とはかなり異なります。また、精神科病床の大量喪失、大規模な住民避難や健康不安、風評被害と差別の多重苦によってメンタルヘルスの危機に陥った東北の精神医療は、日本の精神医療福祉の将来を占う試金石です。つまり、精神科救急医療、アウトリーチと地域精神医療、児童精神医療、触法精神障がい者の医療、身体合併症を伴う精神障がい者の医療確保、自殺予防、アルコール依存症対策、認知症の医療福祉の充実、不足する精神科医療機関・精神科医師の確保など、日本全体の精神医療の課題が切迫しているのが東北なのです。この様な課題を抱える東北で本学会を開催することは大変意義があります。一方、国は2011年に省令改正

により「5 疾病・5 事業および在宅医療」として精神疾患と在宅医療を医療計画に加え、精神保健福祉法も改正しました。2020 年はこれらの成果を評価する重要な年でもあります。また教育面では、新専門医制度の導入が曲折浮沈の末に 2018 年から始まり、現行の臨床研修制度と並んで 2020 年はその振り返りをすべき年です。さらに、学部教育も新カリキュラムが導入され、2020 年はその成果が試されます。これは、精神医学の基幹学会としての本学会の重要な役割の一つです。研究面においては、2020 年は Nature 誌が 2010 年の新年号巻頭言に「精神疾患のための 10 年」を発表してからちょうど 10 年目の総括の年にあたります。この 10 年で得られた精神疾患の解明につながる新しい知見や可能性のあるバイオマーカーについても議論する必要があります。昨今、精神医療の臨床の現場からは、確固としたバイオマーカーを持たない EBM 精神医学の限界を問う声も少なくなく、世界と協調して歩んできた日本の精神医学を検証すべき時であります。以上のように、2020 年は現行の精神医療・医学の検証と将来への変革が求められる重要な年であります。

東北は自然に恵まれて風光明媚なところですが、トラウマティックな歴史の舞台でもあります。中でも東日本大震災と福島第一原発事故の心理的負荷は人々の心に大きな影響を与えました。会員の皆様と共に、日本の精神医療・医学の未来にとっての道標となる学術総会を目指して参りたいと存じます。誠に残念ですが COVID-19 の感染状況によっては、会場にお出で頂くことが出来ない可能性もあります。しかしこの非常事態においてさえ、災いを転じて例年以上の成果や利便性を追求したいと考えております。2011 年の東北の人々に学び、しなやかに逞しく、むしろこれを機に総会内容・構成・方式などの向上さえも実現する不屈の精神を持って、会員の皆さまと歩んで行きたいと考えております。加えて、ウィルス対策はもちろん、情報管理など、開催にあたっては細心の注意を払う所存です。今後 10 年の精神医学・医療・保健・福祉の道標となる学術総会を目指して、準備に邁進して参りますので、ご理解・ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染が一日も早く収束し、皆様に仙台でお会いできることを切に願っております。



第 116 回日本精神神経学会学術総会 ご 案 内

会 長：矢部 博興（福島県立医科大学医学部 神経精神医学講座 教授）
副 会 長：大谷 浩一（山形大学医学部医学科 精神医学講座 教授）
星野 修三（福島県精神科病院協会会長、一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 副院長）
会 期：ライブ配信 2020 年 9 月 28 日（月）～30 日（水）
オンデマンド配信 2020 年 9 月 28 日（月）～10 月 31 日（土）
総会テーマ：今日の精神医学の検証—10 年後への道標として—

	ライブ配信①	ライブ配信② ※Zoom 上でオンデマンド動画を再生後、 そのまま討論・質疑をライブで実施	オンデマンド配信
会長講演	●		●
特別講演	●		●
教育講演	●		●
先達に聴く	●		●
特別企画	●		●
会長企画シンポジウム	●		●
委員会シンポジウム		●	●
シンポジウム		●	●
ワークショップ		●	●
Fellowship Award Symposium		●	●
受賞者報告会		●	●
一般演題（口演）		●	●
一般演題（ポスター）			●

総会事務局：福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
〒960-1295 福島県福島市光が丘 1 番地
三浦 至（事務局長）

運営事務局：株式会社コンベンションリンケージ内
〒980-6020 仙台市青葉区中央 4-6-1SS30 ビル 20 階
TEL：022-722-1657 FAX：022-722-1658
E-mail：jssp116@c-linkage.co.jp

総会ホームページ：<http://www.c-linkage.co.jp/jssp116/>

2020年9月28日(月) 1日目

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
8:00									
8:30	8:20~8:30 開会式								
9:00	8:30~10:50 会長企画 シンポジウム 今日の精神医学の検証—バイオマーカーを持たない精神医学の望ましい航路とは— PS1-1~PS1-4	8:30~9:30 特別講演1 The Treatment of Early Phase Schizophrenia SL1			8:30~10:10 ワークショップ1 映像で学ぶ初診面接—社交不安症編— WS1 (精神療法委員会)	8:30~10:30 シンポジウム1 児童虐待とエビジェネティクス S1-1~S1-4		8:30~9:30 一般演題(口演)1 統合失調症1 1-O1-1~1-O1-5	8:30~9:30 一般演題(口演)2 気分障害1 1-O2-1~1-O2-5
9:30		9:40~10:40 教育講演1 摂食障害への初期対応：心身両面から EL1						9:40~10:40 一般演題(口演)3 統合失調症2 1-O3-1~1-O3-4	9:40~10:40 一般演題(口演)4 気分障害2 1-O4-1~1-O4-5
10:00									
10:30			10:40~12:40 シンポジウム3 総合病院における認知症対応 S3-1~S3-4	10:40~12:40 委員会 シンポジウム3 さまざまな領域における公認心理師の現状と今後の展望 CS3-1~CS3-5 (心理職に関する委員会)		10:40~12:40 Fellowship Award Symposium 1 Mental health and work life balance of psychiatrists FAS1-1~FAS1-4		10:50~11:50 一般演題(口演)5 神経症性障害1 1-O5-1~1-O5-5	10:50~11:50 一般演題(口演)6 認知症 1-O6-1~1-O6-5
11:00	11:00~12:00 教育講演2 エビデンスに基づく実践(EBP)とパーソナリティカバリーの時代 EL2	10:50~11:50 教育講演3 統合失調症薬物治療の現状と課題 EL3			11:00~13:00 シンポジウム4 心のケアセンターの現状と展望 S4-1~S4-4				
11:30									
12:00	12:10~13:10 特別講演2 MMN as a promising translational neurophysiological biomarker in schizophrenia SL2	12:00~13:00 教育講演4 成人期発達障害の就労と社会復帰 EL4						12:00~13:00 一般演題(口演)7 研修生・医学部生演題1 1-O7-1~1-O7-5	12:00~13:00 一般演題(口演)8 老年期精神障害 1-O8-1~1-O8-5
12:30									
13:00									
13:30	13:30~14:30 会長講演 今日の精神医学の検証—10年後への道標として— PL1	13:30~14:30 教育講演5 ドメスティック・バイオレンスと子ども虐待の現状と対応 EL5	13:30~15:30 委員会 シンポジウム4 重症認知症の人にとどのような終末期対応を提供するのか—「認知症診療医」認定更新のために— CS4-1~CS4-4 (認知症委員会)	13:30~15:30 シンポジウム14 難治性トゥレット症に対する脳深部刺激療法のエビデンスと今後の課題 S14-1~S14-5	13:30~15:30 委員会 シンポジウム5 発達障害と精神保健 CS5-1~CS5-4 (精神保健に関する委員会)	13:30~15:30 Fellowship Award Symposium 2 Case Vignette (Obsessive Compulsive Disorder) FAS2-1~FAS2-4	13:30~15:10 ワークショップ6 小児精神医療入門：新シリーズ(3) 子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について WS6 (小児精神医療委員会)	13:30~14:30 一般演題(口演)9 摂食障害等 1-O9-1~1-O9-5	13:30~14:30 一般演題(口演)10 てんかん 1-O10-1~1-O10-5
14:00									
14:30	14:40~15:40 特別講演3 統合失調症モデル動物研究とその展望；幻聴の再現可能性 SL3	14:40~15:40 教育講演6 精神病理学の基本問題 EL6						14:40~15:40 一般演題(口演)11 依存・行動嗜癖1 1-O11-1~1-O11-5	14:40~15:40 一般演題(口演)12 児童・思春期・発達障害1 1-O12-1~1-O12-4
15:00									
15:30									
16:00	15:50~17:50 委員会 シンポジウム7 地域包括ケアシステムと多職種連携：それを阻むものとの対応 CS7-1~CS7-5 (多職種協働委員会)	15:50~17:50 委員会 シンポジウム8 同意取得が困難な事例を対象とした症例報告や研究における問題点と課題 CS8-1~CS8-5 (倫理委員会)★	15:50~17:50 委員会 シンポジウム9 COVID-19(新型コロナウイルス感染症)がもたらす精神医療保健福祉への影響を考える CS9-1~CS9-5		15:50~17:50 委員会 シンポジウム10 外国人労働者/難民のメンタルヘルス CS10-1~CS10-4 (国際委員会)	15:50~17:50 委員会 シンポジウム11 精神科医療におけるタスク・シフティングに関する諸問題 CS11-1~CS11-5 (精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会)	15:50~17:50 シンポジウム23 メンタライゼーション、新しくも普遍的な精神療法—その治療理論と臨床実践— S23-1~S23-5	15:50~16:50 一般演題(口演)13 依存・行動嗜癖2 1-O13-1~1-O13-5	15:50~16:50 一般演題(口演)14 児童・思春期・発達障害2 1-O14-1~1-O14-5
16:30									
17:00									
17:30									
18:00									
18:30									
19:00									
19:30									

J会場	K会場	L会場	M会場	N会場	O会場	P会場	Q会場	R会場	会場名
									8:00
									8:30
		8:30～10:30 委員会 シンポジウム1 措置入院制度を見直す―告知の視点から CS1-1～CS1-5 (精神医療・保健福祉システム委員会)					8:30～10:10 ワークショップ4 ICD-11を適切に使うための知識 WS4 (ICD-11委員会)	8:30～10:10 ワークショップ5 様々な場所で働く女性精神科医の仕事を知ろう WS5 (男女共同参画推進委員会)	9:00
									9:30
									10:00
									10:30
10:40～12:40 シンポジウム5 精神科薬物療法の出口戦略に資する実践マニュアル S5-1～S5-5	10:40～12:40 シンポジウム6 てんかん専門精神科医の現在・これから S6-1～S6-6	10:40～12:40 シンポジウム7 精神科医のための臨床脳画像「読影入門」―各論編― S7-1～S7-4	11:00～13:00 シンポジウム8 現代精神医学に病因論はありえるか？ ―疾患、特質(特性)、生活史(物語)― S8-1～S8-5	10:40～12:40 シンポジウム9 精神疾患・神経疾患におけるニューロモジュレーション治療への期待と課題 S9-1～S9-4	10:40～12:40 シンポジウム10 自治体による寄附講座による児童青年期精神科プログラムの意義 S10-1～S10-4	11:00～13:00 シンポジウム11 難治性疼痛―身体部位別にみた対応の差と共通点― S11-1～S11-4	10:40～12:40 シンポジウム12 今、求められている精神科医の認知症医療への参画 S12-1～S12-5	10:40～12:40 シンポジウム13 個別化精神医療確立に向けたバイオバンク整備の展望 S13-1～S13-5	11:00
									11:30
									12:00
									12:30
									13:00
									13:30
13:30～15:30 シンポジウム15 認知症非専門医のための認知症診療の基本 S15-1～S15-5	13:30～15:30 シンポジウム16 日常診療・こんなときどうしたらいい？ S16-1～S16-4		13:30～15:30 シンポジウム18 緊張病症候群と身体～生物学的基盤・合併する身体疾患・治療法～ S18-1～S18-4	13:30～15:30 シンポジウム19 フロイト、ユング、森田の人間観とその精神療法が目指すもの S19-1～S19-4	13:30～15:30 シンポジウム20 統合失調症薬物治療ガイドラインの普及：SDMを用いた利活用への期待 S20-1～S20-7	13:30～15:30 委員会 シンポジウム6 精神医療におけるECTの役割 CS6-1～CS6-4 (ECT・rTMS等検討委員会)	13:30～15:30 シンポジウム21 主体性(Agency)の精神医学におけるトランスレーショナルリサーチ：ニューラルネットワークの統合的理解 S21-1～S21-5	13:30～15:30 シンポジウム22 事例で理解する複雑性PTSD治療の流れ―実臨床に明日から役立つリソース― S22-1～S22-4	14:00
									14:30
									15:00
									15:30
15:50～17:50 シンポジウム24 日伊精神保健医療福祉の到達点と今後の展望 S24-1～S24-5	15:50～17:50 シンポジウム25 統合失調症とはどういうことか S25-1～S25-5	15:50～17:50 委員会 シンポジウム12 精神科入院におけるアドボケイト制度に求められるもの CS12-1～CS12-4 (精神保健福祉法委員会)	15:50～17:50 シンポジウム26 アカデミアからフロンティアを目指したrTMS臨床研究の挑戦 S26-1～S26-5	15:50～17:50 シンポジウム27 強度行動障害の医療と福祉・教育をつなぐ S27-1～S27-6	15:50～17:50 シンポジウム28 ポジティブ精神医学の活用 医療から教育分野への応用へ S28-1～S28-5	15:50～17:50 シンポジウム29 気質とメンタルヘルス S29-1～S29-4	15:50～17:50 シンポジウム30 Mismatch negativity (MMN)：統合失調症バイオマーカー S30-1～S30-3		16:00
									16:30
									17:00
									17:30
									18:00
									18:30
									19:00
									19:30

2020年9月29日(火) 2日目

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
8:00									
8:30	8:30～9:30 教育講演7 精神障害の労災認定評価や労災医療の動向～特に産業精神保健の動向を含めて～ EL7	8:30～10:30 委員会 シンポジウム13 アカデミアによるわが国発の精神神経領域の新たな治療薬開発 CS13-1～CS13-4 (PCN編集委員会)	8:30～10:30 シンポジウム32 精神科分野における経頭蓋直流刺激 (tDCS) の実用性と今後の展望一本邦におけるtDCS臨床研究の進捗 S32-1～S32-5	8:30～10:30 シンポジウム33 自閉スペクトラム症者へのヒューマノイドロボット研究の今後の展望 S33-1～S33-8	8:30～10:30 シンポジウム34 子どもの同意能力と児童精神科臨床 S34-1～S34-4	8:30～10:30 シンポジウム35 若手リエゾン精神科医による10年後への道標 S35-1～S35-5		8:30～9:30 一般演題 (口演) 15 統合失調症3 2-O15-1～2-O15-5	8:30～9:30 一般演題 (口演) 16 気分障害3 2-O16-1～2-O16-5
9:00									
9:30	9:40～10:40 特別講演4 New diagnostic models of gender identity, sexual orientation, and atypical sexual behaviour in the ICD-11: Implications for psychiatric practice SL4							9:40～10:40 一般演題 (口演) 17 統合失調症4 2-O17-1～2-O17-5	9:40～10:40 一般演題 (口演) 18 気分障害4 2-O18-1～2-O18-5
10:00									
10:30									
11:00		10:40～12:40 シンポジウム42 児童相談所に精神科医師はどんな協力ができるかー児童福祉法一部改正による児童相談所の医師配置に対してー S42-1～S42-5	10:40～12:20 ワークショップ10 ＜脳波の応用コース＞脳波検査とその解釈 脳波検査をどう臨床にいかしていくのか WS10	10:40～12:40 委員会 シンポジウム14 精神科領域におけるオンライン診療：保険診療3年目の現状と課題 CS14-1～CS14-4 (オンライン精神科医療検討作業班)	10:40～12:40 シンポジウム43 少年法適用年齢引き下げについて考える S43-1～S43-4	10:40～12:40 Fellowship Award Symposium 3 Mental health and work life balance of psychiatrists FAS3-1～FAS3-4		10:50～11:50 一般演題 (口演) 19 脳器質性・症状性精神障害 2-O19-1～2-O19-5	10:50～11:50 一般演題 (口演) 20 児童・思春期・発達障害3・その他 2-O20-1～2-O20-5
11:30	11:10～12:10 受賞報告会								
12:00								12:00～13:00 一般演題 (口演) 21 依存・行動嗜癖3 2-O21-1～2-O21-5	12:00～13:00 一般演題 (口演) 22 司法精神医学 2-O22-1～2-O22-5
12:30	12:30～13:30 先達に聴く 精神科医Hans Bergerの生涯と脳波の発見 先達に聴く								
13:00									
13:30									
14:00	13:40～15:40 シンポジウム50 主治医・産業医としての精神疾患患者の両立支援(＝治療+就労)をめぐる S50-1～S50-6	13:40～14:40 教育講演9 認知症高齢者の意思決定支援 EL9	13:40～15:40 シンポジウム51 精神医学は心の医学か、脳の医学か？ー精神医学の哲学から切り込む心身問題 S51-1～S51-5	13:40～15:40 シンポジウム52 わが国における大規模調査からわかる双極性障害治療におけるヒント S52-1～S52-5	13:40～15:40 委員会 シンポジウム17 精神療法の教え方、伝え方 CS17-1～CS17-5 (精神療法委員会)	13:40～15:40 Fellowship Award Symposium 4 Case Vignette (Obsessive Compulsive Disorder) FAS4-1～FAS4-4	13:40～15:20 ワークショップ12 最近の自殺問題の動向と自殺予防医療 WS12 (精神保健に関する委員会)	13:40～14:40 一般演題 (口演) 23 神経症性障害2 2-O23-1～2-O23-4	13:40～14:40 一般演題 (口演) 24 研修生・医学部生演題2 2-O24-1～2-O24-4
14:30									
15:00		14:50～15:50 教育講演10 脳波ーこれから学ぶ人のために EL10						14:50～15:50 一般演題 (口演) 25 睡眠障害 2-O25-1～2-O25-5	14:50～15:50 一般演題 (口演) 26 精神医学教育 2-O26-1～2-O26-5
15:30									
16:00	16:00～18:00 委員会 シンポジウム19 働き方改革と労働者のメンタルヘルス CS19-1～CS19-4 (精神保健に関する委員会)	16:00～17:00 教育講演11 臨床研究の倫理と利益相反 EL11	16:00～18:00 シンポジウム60 全国の精神保健福祉センターにおける自殺対策の取り組み S60-1～S60-6	16:00～18:00 委員会 シンポジウム20 本邦における処方レギュレーションのあり方に関する検討 CS20-1～CS20-4 (薬事委員会)	16:00～18:00 シンポジウム61 福島のリジリエンス、震災・原発事故からの10年を振り返り、これからの10年を考える S61-1～S61-6			16:00～17:00 一般演題 (口演) 27 コンサルテーション・リエゾン 2-O27-1～2-O27-5	16:00～17:00 一般演題 (口演) 28 薬物療法 2-O28-1～2-O28-5
16:30									
17:00									
17:30									
18:00									
18:30									
19:00									
19:30									

J会場	K会場	L会場	M会場	N会場	O会場	P会場	Q会場	R会場	会場名
									8:00
									8:30
8:30～10:30 シンポジウム36 神経免疫学と精神医学の狭間で S36-1～S36-4	8:30～10:30 シンポジウム37 急性精神病の診断と治療の現状と今後の課題 S37-1～S37-6	8:30～10:30 シンポジウム38 不安症・強迫症の診療ガイドライン S38-1～S38-4	8:30～10:10 ワークショップ7 ＜脳波の基礎コース＞精神科医が脳波を学ぶ意義と研修方法 WS7	8:30～10:30 シンポジウム39 認知症の人の生活を支える地域の取り組みに精神科医ができること—Community based Psychiatry S39-1～S39-4	8:30～10:10 ワークショップ8 精神神経誌に掲載される論文の書き方 WS8 (精神神経学雑誌編集委員会)	8:30～10:30 シンポジウム40 周産期における母親のメンタルヘルスと子どもの養育支援 S40-1～S40-5	8:30～10:10 ワークショップ9 不安の精神療法—日常診療でどう進めるか WS9		9:00
									9:30
									10:00
									10:30
10:40～12:40 シンポジウム44 ノルアドレナリン制御と難治性気分障害 S44-1～S44-4		10:40～12:40 シンポジウム46 医療観察法対象者の逸脱行動の病態理解と治療戦略—措置入院への応用を視野に入れて— S46-1～S46-5	10:20～12:00 ワークショップ11 現役エディターによる論文の書き方指導の講義と論文投稿の個別相談会 WS11 (PCN編集委員会)	10:40～12:40 シンポジウム47 物質使用障害対策の予防介入、早期介入、地域保健 S47-1～S47-7		10:40～12:40 シンポジウム48 認知症の人に対して医師に求められる態度と言葉 S48-1～S48-5	10:40～12:40 委員会 シンポジウム16 子供の自殺を防ぐために精神科医ができること CS16-1～CS16-4 (精神保健に関する委員会)	10:40～12:40 シンポジウム49 災害メンタルヘルスを中心とする自然災害への学際的アプローチ—東日本大震災から10年の節目に向けて S49-1～S49-5	11:00
									11:30
									12:00
									12:30
			12:20～13:20 教育講演8 精神科臨床での神経心理・神経画像検査の意義 EL8						13:00
									13:30
									14:00
13:40～15:40 シンポジウム53 これからの発達障害医療の展望と児童精神保健に期待されるもの S53-1～S53-5	13:40～15:40 シンポジウム54 再考：統合失調症急性期治療—リアルワールドエビデンスとRCTとの対比 S54-1～S54-4	13:40～15:40 シンポジウム55 ADHDの診断と治療～最近の知見 S55-1～S55-5	13:40～15:40 委員会 シンポジウム18 自然災害への備えと対応～BCPと受援・支援～ CS18-1～CS18-5 (災害支援委員会)	13:40～15:40 シンポジウム56 日常精神科臨床で遭遇する対処困難な過眠の見立てと対応 S56-1～S56-6		13:40～15:40 シンポジウム57 精神医療化の必然と薬物療法化の弊害 S57-1～S57-4	13:40～15:40 シンポジウム58 「内因性うつ病」を多面的に把握する S58-1～S58-4	13:40～15:40 シンポジウム59 日本と中国における内観療法の発展と展望 S59-1～S59-5	14:00
									14:30
									15:00
									15:30
									16:00
16:00～18:00 シンポジウム62 激動するわが国の薬物乱用・依存問題：最近のトピックス S62-1～S62-5	16:00～18:00 シンポジウム63 精神科ブレインバンク各拠点からの成果と今後の臨床への展望—精神科ブレインバンクへの期待 その4— S63-1～S63-6	16:00～18:00 シンポジウム64 アルツハイマー病における神経精神症状の生物学的研究の新たな展開 S64-1～S64-5	16:00～18:00 委員会 シンポジウム21 保険診療としてのrTMS療法の均てん化 CS21-1～CS21-5 (ECT・rTMS等検討委員会)		16:00～17:40 ワークショップ14 日常診療に診療ガイドラインは役に立つのか？ WS14	16:00～18:00 シンポジウム66 不安症と心的外傷性ストレス障害—類似点と差異点— S66-1～S66-4	16:00～18:00 シンポジウム67 医学生と研修医と専攻医に精神医学・医療の魅力を伝える S67-1～S67-4	16:00～18:00 シンポジウム68 当事者の持つ力を引き出し、伸ばしていくためにできること S68-1～S68-6	16:30
									17:00
									17:30
									18:00
									18:30
									19:00
									19:30

2020年9月30日(水) 3日目

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
8:00									
8:30	8:30～10:30 委員会 シンポジウム22 トランスジェンダー、性別不適合gender incongruence/性別違和の就労問題 CS22-1～CS22-5 (性同一性障害に関する委員会)	8:30～9:30 特別講演5 The Rewards and Risks of Disaster Psychiatry SL5	8:30～10:30 シンポジウム69 精神科医からみた口腔領域の身体症状—難しく避けられがちな病態に立ち向かう— S69-1～S69-4	8:30～10:30 委員会 シンポジウム23 ともに働きやすい社会へ—女性精神科医のさらなる活躍をめざす CS23-1～CS23-6 (男女共同参画推進委員会)		8:30～10:30 シンポジウム71 児童虐待を予防する—産婦人科医、小児科医、精神科医のコーポレーション— S71-1～S71-4		8:30～9:30 一般演題(口演)29 統合失調症5 3-O29-1～3-O29-4	8:30～9:30 一般演題(口演)30 精神保健福祉 3-O30-1～3-O30-5
9:00									
9:30		9:40～11:40 特別企画 9.11同時多発テロ事件、3.11東日本大震災、被災者同士の歩み						9:40～10:40 一般演題(口演)31 統合失調症6 3-O31-1～3-O31-5	9:40～10:40 一般演題(口演)32 疫学 3-O32-1～3-O32-5
10:00									
10:30									
11:00	10:40～12:40 シンポジウム79 精神科産業医養成プログラムの必須アイテムをめぐって S79-1～S79-6		10:40～12:40 委員会 シンポジウム26 統合失調症に合併する肥満・糖尿病ガイドをどのように臨床に適用するのか CS26-1～CS26-5 (ガイドライン検討委員会)	10:40～12:40 シンポジウム80 患者の自動車運転に関するガイドライン再考—患者にとって良いアドバイスとは— S80-1～S80-4	10:40～12:40 シンポジウム81 精神医学における精神療法の専門性(サブスペシャリティ) S81-1～S81-5	10:40～12:40 シンポジウム82 被災地でのアウトリーチを中心とした精神保健活動の現状と課題 * * * * * S82-1～S82-3		10:50～11:50 一般演題(口演)33 地域精神医療・精神科救急1 3-O33-1～3-O33-5	10:50～11:50 一般演題(口演)34 精神療法・心理社会療法1 3-O34-1～3-O34-5
11:30									
12:00		11:50～12:50 教育講演13 精神医学に睡眠学はいかに貢献するか EL13							
12:30								12:00～13:00 一般演題(口演)35 地域精神医療・精神科救急2/その他 3-O35-1～3-O35-4	12:00～13:00 一般演題(口演)36 精神療法・心理社会療法2 3-O36-1～3-O36-5
13:00									
13:30	13:10～15:10 シンポジウム89 双極症(双極性障害)の薬物療法を安全に行うために S89-1～S89-4	13:10～15:10 シンポジウム90 光トポグラフィー(NIRS)検査の有用性と問題点 S90-1～S90-3	13:10～15:10 シンポジウム91 明日から出来る摂食障害の外来治療—中堅医師からコツを伝授します— S91-1～S91-4	13:10～15:10 シンポジウム92 ベンゾジアゼピン系睡眠薬代替療法の可能性 S92-1～S92-5	13:10～15:10 シンポジウム93 多機能型精神科診療所における包括的地域ケアの実践 S93-1～S93-5	13:10～15:10 シンポジウム94 仮想症例から学ぶアルコール依存症の新ガイドラインと治療 ゴール—断酒と減酒の実践的治療を考える— S94-1～S94-5		13:10～14:10 一般演題(口演)37 ECT・ニューロモデレーション 3-O37-1～3-O37-5	13:10～14:10 一般演題(口演)38 社会精神医学・多文化精神医学 3-O38-1～3-O38-5
14:00									
14:30									
15:00									
15:10～15:20	閉会式								
15:30									
16:00									
16:30									
17:00									
17:30									
18:00									
18:30									
19:00									
19:30									

J会場	K会場	L会場	M会場	N会場	O会場	P会場	Q会場	R会場	会場名
									8:00
									8:30
8:30～10:30 シンポジウム72 自閉スペクトラム 症の感覚特性と は何なのか？ S72-1～S72-6	8:30～10:30 シンポジウム73 認知症の病態メ カニズム～グリ ア、炎症、タン パク伝播の観点 から～ S73-1～S73-4	8:30～10:30 シンポジウム74 質の高い精神医 療を担う多職種 人材育成の最前 線：課題解決型 高度医療人材養 成プログラム選 定機関の試み S74-1～S74-7	8:30～10:30 シンポジウム75 統合失調症薬物 療法の様々な課 題にどう対応す るか S75-1～S75-4	8:30～10:30 シンポジウム76 クロザピンTDM の有用性と今後 の課題 S76-1～S76-6	8:30～10:30 委員会 シンポジウム24 当事者・家族の 望む精神医学研 究とは：Patient and Public Involvement CS24-1～CS24-6 (精神医学研究推 進委員会)	8:30～10:30 シンポジウム77 精神科入院治療 再考―「重度か つ慢性」患者へ の包括支援実践 ガイドをもとに S77-1～S77-7	8:30～10:30 委員会 シンポジウム25 旧優生保護法と 精神科医療を検 証する CS25-1～CS25-4 (法委員会)	8:30～10:30 シンポジウム78 不登校のまっとう な臨床をめぐって S78-1～S78-5	9:00
									9:30
									10:00
									10:30
10:40～12:40 シンポジウム83 オープンダイア ログ実践にお ける治療的要素 S83-1～S83-6	10:40～12:40 シンポジウム84 精神・一般救急 医療連携～地域 における実践か らその先を考え る～ S84-1～S84-5	10:40～12:40 シンポジウム85 不安症治療ガイ ドラインをいか に臨床に活か すか S85-1～S85-5			10:40～12:40 委員会 シンポジウム28 人為災害におけ る精神保健医療 上の課題：東京 オリンピック・パ ラリンピックに向 けて CS28-1～CS28-4 (災害支援委員会)	10:40～12:40 委員会 シンポジウム29 精神疾患を抱え る人が利用する 施設建設に対す るスティグマ CS29-1～CS29-8 (アンチスティグマ 委員会)	10:40～12:40 シンポジウム87 地域に根差した 精神保健医療早 期相談・介入シ ステムの構築 ―MEICISプロ ジェクト S87-1～S87-6	10:40～12:40 シンポジウム88 「精神障害にも対 応した地域包括 ケアシステム」の 構築・実践のた め精神医療従事 者のなまじること はなにか S88-1～S88-5	11:00
									11:30
									12:00
									12:30
									13:00
13:10～15:10 シンポジウム95 精神科臨床にお ける身体拘束と 肺塞栓予防 S95-1～S95-4	13:10～15:10 シンポジウム96 福島県における 震災後の子ども たちのこころの 支援 S96-1～S96-5	13:10～15:10 シンポジウム97 周産期メンタル ヘルスの最前線 S97-1～S97-5	13:10～15:10 シンポジウム98 過食と行動嗜 癖：どこまで嗜 癖として治療可 能か S98-1～S98-5	13:10～15:10 シンポジウム99 大学病院におけ る精神科診療の 役割 S99-1～S99-5	13:10～15:10 シンポジウム100 我が国の月経前 不快気分障害 (PMDD)の現状 S100-1～S100-4	13:10～15:10 シンポジウム101 血中濃度をもっ と活かそう S101-1～S101-4	13:10～15:10 委員会 シンポジウム30 東日本大震災復 興期の精神保健 活動の展開と発 展 CS30-1～CS30-3 (災害支援委員会)	13:10～15:10 シンポジウム102 抗ADHD薬の依 存・乱用のリス クとADHDの鑑 別・併存を含め た適切な使用の あり方について S102-1～S102-4	13:30
									14:00
									14:30
									15:00
									15:30
									16:00
									16:30
									17:00
									17:30
									18:00
									18:30
									19:00
									19:30



参加者の皆様へ

1. 参加受付

本年は WEB 開催への変更に伴い、総会ホームページ上のオンラインシステムでの受付のみとなります。
(原則として、クレジットカードによるオンライン決済のみの受付となります。)

※ご利用いただけるカード：



参加区分	早期登録	通常登録
会 員	18,000 円	19,000 円
初期臨床研修医 (= 前期研修医) ^{※1※2} 、学生 (大学院生を除く)	2,000 円	

※1 会期当日 (2020 年 9 月 28 日(月)～30 日(水)) の時点で、初期臨床研修医 (= 前期研修医) であることが条件となります。

※2 一般演題を応募いただいた学生、初期臨床研修医 (演題応募時) は参加費が無料となります。

参加登録期間 早期登録：2020 年 8 月 17 日 (月) 正午～ 9 月 17 日 (木) 正午

通常登録：2020 年 9 月 23 日 (水) 正午～10 月 31 日 (土) 正午

※クレジットカードをお持ちでなく、現金振込でお支払をご希望の場合は上記と異なります。詳細は総会 HP をご確認ください。

抄録集販売：

オンラインシステムにて販売しております。ご希望の方はお問い合わせください。

1 部 3,000 円 + 送料 520 円

2. 抄録集の電子書籍版について

抄録号の電子書籍版が「学術専門電子書籍サービス KaLib」でご利用いただけます。

先ず下記の Web サイトから無料の専用リーダーソフトをダウンロードし、インストールしてください。(対応端末：iOS、Android のタブレットまたはスマートフォン、Windows10 と Mac OS X のパソコン)

<http://www.kalib.jp>

次にソフト上で KaLib のアカウントを作成し、本学術集会の抄録号をリーダーソフト内のストアサイトからダウンロードすることでお読みいただけます。

なお、抄録号のダウンロードに際し、会員の ID とパスワードが必要になります。

ダウンロードする時の ID とパスワードは日本精神神経学会サイトの会員専用ページにログインするための、ID/パスワードと同じでございます。

なお、同サービスは毎月の通常号も掲載しておりますので、一年を通してご利用いただけます。

精神科専門医資格の更新単位取得方法について

1. 単位取得方法

学術総会 WEB 配信（①ライブ配信、②オンデマンド配信）の視聴により学会認定専門医 更新単位（以下、学会単位）、日本専門医機構認定専門医 更新単位（以下、機構単位）とも取得が可能です。

①ライブ配信：

9 月 28 日～9 月 30 日の会期中に各セッションがプログラムに沿ってリアルタイムにライブ配信されます。WEB 配信ページにてログイン後、受講をいただき、ログアウトまでの受講時間に応じて単位を取得できます。

【注意事項】

ログアウト（退室記録）ボタンを使用せずに、画面上の「×」ボタンにて閉じてしまうと、ログアウトの時間が確認できません。誤って「×」ボタンで閉じた場合は再度ログインいただき、必ずログアウト（退室記録）ボタンを押してください。（ご自身でご不明となってしまった場合は念のためログアウト（退室記録）ボタンを押すことをお勧めいたします。）ログアウトの記録がない場合は 1 時間分のみの受講とみなされますのでご注意ください。

②オンデマンド配信：

9 月 28 日～10 月 31 日の期間、WEB 配信ページにてオンデマンドにて、ご自身の任意の時間に視聴可能です。各セッションの受講後に、受講完了ボタンを押していただくことで受講の記録となり、受講合計時間に応じて単位を取得できます。セッションの最後まで受講せず、途中で終了した場合は受講時間としてカウントされませんのでご注意ください。また、受講したセッションがシンポジウム等複数の演者によるセッションである場合は、全ての演者の発表が終了後に受講完了ボタンが表示されますので、ご注意ください。

いずれも単位の事後申告等は認められません。またご自身のログインやログアウトの時間などについてのお問い合わせにはご回答できかねます。上記注意事項をあらかじめ確認いただきたく、お願い申し上げます。

2. 取得可能な単位数について

1) 受講可能期間

ライブ配信：9 月 28 日～9 月 30 日/オンデマンド配信：9 月 28 日～10 月 31 日

2) 取得可能単位：ライブ配信・オンデマンド配信合計で最大 20 単位の取得が可能です。（通常総会と同様）

	ライブ配信		オンデマンド配信	
	学会単位	機構単位	学会単位	機構単位
1 時間あたりの単位数	1.5 単位	1 単位	1.5 単位	1 単位
1 日あたりの上限	10 単位	1～2 日目：7 単位 3 日目：6 単位	上限なし	
1 総会上限	20 単位			

※機構単位の場合、種別は iii) 精神科領域講習の項目に該当します。

【注意事項】

ライブ配信・オンデマンド配信受講により取得の単位（合計で上限 20 単位）は 11 月 20 日（予定）に会員情報ページにて反映されます。9 月 28 日～9 月 30 日にご取得された単位も 11 月 20 日まで会員情報ページでは表示されませんので、ご了承ください。



3. 単位取得例

①ライブ配信のみ受講の場合

9月28日（1日目）9時～17時の8時間をライブ配信受講した場合

○学会単位：10単位【1.5単位×8時間＝12単位→1日最大10単位まで】

○機構単位：7単位【1単位×8時間＝8単位→9月28日（1日目）最大7単位まで】

②オンデマンド配信のみ受講の場合

9月28日～10月31日に合計30時間分のオンデマンド配信を受講した場合

○学会単位：20単位【1.5単位×30時間＝45単位→1総会最大20単位まで】

○機構単位：20単位【1単位×30時間＝30単位→1総会最大20単位まで】（1日上限はありません）

③ライブ配信とオンデマンド配信を両方受講した場合

9月29日10時～16時に6時間ライブ配信受講、10月1日～10月31日の間に合計15時間分のオンデマンド配信を受講した場合

○学会単位：20単位

【1.5単位×6時間（ライブ）+1.5単位×15時間（オンデマンド）＝31.5単位→1総会最大20単位まで】

○機構単位：20単位

【1単位×6時間（ライブ）+1単位×15時間（オンデマンド）＝21単位→1総会最大20単位まで】

【注意事項】

受講したセッションは巻末の記録表へ、マーカー等により印をつけ、ご自身で記録してください。専門医更新審査時に受講セッションについて問い合わせさせていただく可能性がございますので、次回更新時まで必ず保管してください。

＜お問合せ先＞

公益社団法人日本精神神経学会 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷2-38-4 本郷弓町ビル5階

TEL：03-3814-2991 FAX：03-3814-2992

E-mail：senmonkoushin@jspn.or.jp

司会および演者・発表者の皆様へ

1. 司会の皆様へ

ライブ配信の方法につきましては8月下旬までにメールでご案内させていただきます。ご確認ください。

2. 演者・発表者の皆様へ

A. セッション・発表時間について

時間は以下の通りです。

セッション名	セッション時間	発表形式	発表・討論時間
会長講演	60 分	口演	質疑応答の時間を含む 60 分
特別講演	60 分		質疑応答の時間を含む 60 分
教育講演	60 分		質疑応答の時間を含む 60 分
会長企画シンポジウム	140 分		各セッションにより異なります。 司会の指示に従ってください。
委員会シンポジウム	120 分		
シンポジウム	120 分		
Fellowship Award Symposium	120 分		
ワークショップ	100 分	口演	発表時間 8 分 討論（質疑応答）4 分
一般演題/精神科専門医 研修中の医師による演題/初期 臨床研修中の医師・学部学生に よる演題（口演）	60 分		

ライブ配信の方法につきましては8月下旬までにメールでご案内させていただきます。ご確認ください。

B. 倫理的配慮及び COI（利益相反）について

ご発表の際には、倫理的配慮及び COI（利益相反）に関して明記いただきますよう、お願いいたします。
COI に関するご案内は、日本精神神経学会ホームページ（http://www.jspn.or.jp/modules/about/index.php?content_id=22）にてご確認ください。

3. 筆頭演者・発表者（一般演題）の資格について

筆頭演者・発表者は原則として日本精神神経学会の会員に限ります。非会員の方は、あらかじめ入会手続きをお願いします。入会手続きに関しましては、日本精神神経学会事務局までお問い合わせください。

共同演者・共同発表者は、日本精神神経学会への入会手続きを義務付けるものではありません。

筆頭演者・発表者が共同演者・共同発表者を登録する際には、共同演者・共同発表者が発表についての承諾および当学会の倫理規定等を遵守することの確認承諾を得たうえでご登録ください。

4. 応募演題の取り扱いについて

プログラム委員会で検討した結果、一般演題（口演）185 題、一般演題（ポスター）229 題、精神科専門医研修中の医師による演題（口演）45 題、精神科専門医研修中の医師による演題（ポスター）68 題、初期臨床研修中の医師・学部学生による演題（口演）9 題、初期臨床研修中の医師・学部学生による演題（ポスター）5 題が採択となりました。



日本精神神経学会関連各賞

精神医学奨励賞

曾根 大地

University College London, Institute of Neurology, UK

国際学会発表賞

個人発表部門

青木 悠太

昭和大学発達障害医療研究所

綾仁 信貴

独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター

入来 晃久

地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪精神医療センター

大石 賢吾

千葉大学医学部附属病院 精神神経科

曾根 大地

University College London, Institute of Neurology, UK

シンポジウム組織発表部門

紀本 創兵

奈良県立医科大学精神医学講座

野田 賀大

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

フォリア賞

矢田 康人

東京都立大学大学院人文科学研究科言語科学教室

受賞論文：Online cathodal transcranial direct current stimulation to the right homologue of Broca's area improves speech fluency in people who stutter
Psychiatry and Clinical Neurosciences. Volume 73 Issue 2, 2019, p63-69 掲載

〈司会〉加藤 忠史

順天堂大学医学部附属病院精神医学教室

PCN Reviewer Awards

石井 良平	大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科臨床支援系領域
池田 俊一郎	関西医科大学精神神経科学教室
加藤 隆弘	九州大学大学院医学研究院精神病態医学
岡田 俊	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部
住吉 太幹	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部
高橋 隼	和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室

●受賞報告会

日時：2020 年 9 月 29 日（火） 11：10～12：10

Fellowship Award

A S M Morshed	Department of Psychiatry, Dr. Sirajul Islam Medical and Hospital, Dhaka, Bangladesh
Abhishek Ghosh	Drug De-addiction & Treatment Centre, Department of Psychiatry, Postgraduate Institute of Medical Education & Research, Chandigarh, India
Awirut Oon-arom	Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand
Dorottya Ori	Vadaskert Child and Adolescent Psychiatry Hospital, Hungary
Eteri Machavariani	Tbilisi State Medical University, tsmu.edu, Georgia
Florence Jaguga	MOI Teaching & Referral Hospital, Kenya
Justo Pinzón Espinosa	Department of Psychiatry and Psychology. Institute of Neuroscience. Hospital Clinic of Barcelona, Spain
Olga Kazakova	Head of inpatient psychiatric department, Psychiatric Clinic of Minsk City, Belarus
Shevonne Matheiken	East London NHS Foundation Trust, UK
Su Hui Ho	National University Health System, Singapore
Tejil Morar	Psychiatry Registrar at the University of the Witwatersrand, South Africa
Theodoros Koutsomitros	2nd department of Psychiatry, Aristotle University of Thessaloniki, Greece



日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞

日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞は、学術総会時にすぐれた演題を若干数選考し、授与する賞とする。

研修医、学部学生による演題

本学術総会では、研修中の医師および学部学生による演題発表の場を設けました。例外的に本学会の会員でなくても、以下条件のもと本学術総会の演題への応募を可能といたしました。

●応募条件

- ・演題応募時において精神科専門医研修中・初期臨床研修中の医師、もしくは学部学生（本学会会員・非会員は問いません）
- ・日本精神神経学会の会員である施設の精神科研修責任者ないし指導医の医師が共同著者であること
- ・筆頭著者が共同著者を登録する際は、共同著者に発表についての承諾および当学会の倫理規定等を遵守することの確認承諾を得ること

精神神経学雑誌投稿奨励賞（学術総会部門）

精神神経学雑誌投稿奨励賞は、学術総会の一般演題の中から優秀な発表を顕彰し、精神神経学雑誌への投稿を促し、精神医学の発展に寄与することを目的とする。

●応募条件

- ・応募者は、本学会学術総会の一般演題の筆頭著者とする。
- ・応募は、発表内容を論文化し、精神神経学雑誌へ投稿することを前提とする。

特別企画

- ・ 日 時：2020 年 9 月 30 日（水）9：40～11：40
- ・ WEB 開催
- ・ テーマ：9.11 同時多発テロ事件、3.11 東日本大震災、被災者同士の歩み
From New York to Tohoku, Sharing Experiences of 9/11 and 3/11 Disasters
- ・ 概 要：米国日本人医師会（JMSA）と NY マウントサイナイ医科大学国政医療部が、国際ロータリーの支援をもって東日本大震災以来毎年、NY 9.11 と東日本 3.11 の被災者同士の交流を通じた、ユニークな国際支援活動を行っています。米国の医師団が世界貿易センターテロの被災者達で結成された 9.11 家族会（September 11th Families' Association）を連れて東日本大震災の被災地各地で、中高生からご年配の方々まで、現地の災害精神科のチームと共に様々な形で被災者同士の絆をつくる活動を紹介します。
- ・ 司 会：星野 修三（一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 副院長）

■講演 1 New York 9.11 と東日本 3.11 の被災者同士の交流の始まり

柳澤 ロバート 貴裕

マウントサイナイ医科大学内分泌内科 教授

米国日本人医師会 会長

東京女子医科大学 招待教授

東北大学医学部 臨床教授

東日本大震災では米国日本人医師会副会長として 40 人のボランティア医療支援チームを日本の DMAT と展開。その後、キャッツ医師と共に国際医療研修プログラム日本部門を結成し、毎年米国の医学生を 6 名福島や東京に留学させ、また日本の医学生や研修医も数多く毎年 NY に迎えている。

■講演 2 New York 9.11 と東日本 3.11、お互いに学び会えること

Meriam Lobel (9/11 Tribute Museum 元館長)

■講演 3 9.11 家族会と東北の歩み

Jeanette Gutierrez (世界貿易センター生存者)

Ann Van Hine (元ダンス学校教師、ニューヨーク市消防局員の遺族)

Anthony Palmeri (ニューヨーク市公衆衛生局、消防士)

■オープンディスカッション

Craig L. Katz

マウントサイナイ医科大学 精神科教授、国際精神医療プログラムディレクター

Havard 大学卒、Columbia 大学医学部卒。米国精神科学会 2011-12 年度会長。9.11 を含め様々な災害精神医療に携わる。東日本大震災から 10 回以上の訪日で、著書「災害精神医学」の日本語訳が星和書店から出版、災害救助や支援のあり方、体制整備に大変有益とされる。

Joyce Grossbard (臨床心理士、RI7490 地区 Englewood Rotary Club, NJ USA)



世界各国の若手精神科医との国際的ネットワーク構築に向けた オンラインミーティングのご案内

日本精神神経学会では、毎年、優れた海外の若手医師 12 名に対して Fellowship Award を授与し、年次学術総会にて、世界各国で中心的な活躍をされているエキスパート座長のもと、日本の医師と共にシンポジウム (International Symposium) 発表の場を設ける事業を行っています。この日本と海外の協働・協力の機会を更に発展させるべく、Fellowship Award 受賞者と日本の医師・研究者との間での国際交流を促進するための会議を開催しています。これまで、この会議をきっかけに Psychiatry and Clinical Neurosciences (PCN) などをはじめとして、多くの国際共同研究の成果が出版されてきました。

オンラインでの開催となった今年度も同様の趣旨のもと、awardee と日本の精神科医とで研究テーマを持ち寄り、今後の国際協力事業への礎を作るためのミーティングを行います。今回は South Africa, Georgia, Kenya, Belarus, Spain, UK, Hungary, Thailand, Singapore, India, Bangladesh, Greece から各国を代表する若手精神科医が参加します。会員の皆様から研究テーマ、国際活動を募集し、受賞者のネットワークを生かした国際活動の推進の一助となれば幸いです。

【実施企画】

9 月 28 日 (月) 9:00~10:20 Recruitment meeting 会場: G 会場

JSPN 会員、award 受賞者から国際活動のアイディアを募集します。日本で行ったアンケート研究を海外に広げたい、海外の精神科治療や教育がどのように行われているか知りたい、参加国の精神科医とのコネクションを作りたいなど、募集したい国際活動に関する 5 分程度の動画を流し、質問時間を 5 分程度設けます。

9 月 29 日 (火) 9:00~10:20 Role-sharing meeting 会場: G 会場

発表された国際活動ごとに 15 分程度の話し合いを行います。参加希望者は興味がある国際活動の meeting に参加します。Meeting では企画者が、アンケートの記入、事例の募集、共同研究の立案など参加者に求める役割の再確認した後、今後のミーティングスケジュールを決めてもらうことまでを目指します。

9 月 30 日 (水) 9:30~10:00 Commitment meeting 会場: G 会場

企画者が Meeting で話し合われた国際活動に関する今後の方針を発表します。国際委員で可能な方は参加していただき commitment の確認と今後に向けた協力関係を作ることを目指します。

主 催: 日本精神神経学会 国際委員会 ※すべて英語で行います。通訳の予定はありません。

【参加資格・参加方法】

参 加 者: 対象者は日本精神神経学会のすべての会員で、年齢、経験は問いません。参加いただくための準備などはありません。お申込みの手続きはございませんので Web 参加でご発言を希望される方は 9 月 18 日までに以下メールアドレスにメールでご連絡いただければ参加方法についてご案内いたします。

企画発案者: 対象者は日本精神神経学会のすべての会員で、年齢、経験は問いません。募集される研究テーマ、または国際的なネットワークを使ってこのような活動をしたい、という希望がある会員の方は下記連絡先に事前に相談いただけると幸いです。Web からの参加でも、企画の一部のみ参加であっても問題ございません。

【お問合せ先】

公益社団法人 日本精神神経学会 事務局

E-mail: jimu-kokusai@jspn.or.jp

第 116 回日本精神神経学会学術総会 プログラム委員

青木 泰亮	医療法人社団瀬田川病院
池田 学	大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室
石田 康	宮崎大学医学部精神医学教室
井上 猛	東京医科大学精神医学分野
井上 幸紀	大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
伊豫 雅臣	千葉大学大学院医学研究院精神医学
岩舘 敏晴	国見台病院
上野 修一	愛媛大学大学院医学系研究科
鵜飼 聡	和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室
内村 直尚	久留米大学医学部神経精神医学講座
内山 真	日本大学医学部精神医学系
大久保 善朗	日本医科大学大学院精神・行動医学
○大谷 浩一	山形大学医学部精神医学講座
○大塚 耕太郎	岩手医科大学医学部
大野 裕	大野研究所
大森 哲郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科
笠井 清登	東京大学医学部
加藤 忠史	順天堂大学医学部附属病院精神医学教室
兼子 幸一	鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野
○川勝 忍	福島県立医科大学・会津医療センター
河西 千秋	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
神庭 重信	九州大学
岸本 年史	奈良県立医科大学精神医学
木下 利彦	関西医科大学精神神経科
金 吉晴	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
○久住 一郎	北海道大学大学院医学研究院精神医学教室
熊谷 雅之	医療法人優なぎ会雁の巣病院
近藤 毅	琉球大学大学院精神病態医学講座
○佐久間 啓	あさかホスピタル
下田 和孝	獨協医科大学精神神経医学講座
杉山 直也	公益財団法人復康会沼津中央病院
鈴木 映二	東北医科薬科大学医学部精神科学
鈴木 道雄	富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座
須田 史朗	自治医科大学精神医学講座
染矢 俊幸	新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
田崎 博一	一般財団法人愛成会弘前愛成会病院
寺尾 岳	大分大学医学部精神神経医学講座
○富田 博秋	東北大学大学院医学系研究科精神神経医学講座
長尾 喜一郎	医療法人長尾会 ねや川サナトリウム
○中村 和彦	弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座
中村 祐	香川大学医学部
中村 純	社会医療法人北九州病院北九州古賀病院
○沼田 吉彦	星ヶ丘病院
樋口 進	独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター
福田 正人	群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学
藤田 潔	桶狭間病院藤田こころケアセンター



○星野 修三	一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院
細田 眞司	細田クリニック
○前田 正治	福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座
松田 ひろし	柏崎厚生病院
松本 和紀	東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野
松本 英夫	東海大学医学部
○三島 和夫	秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座
水野 雅文	東邦大学
三村 将	慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
宮岡 等	北里大学医学部精神科学
村井 俊哉	京都大学精神・医学
森 隆夫	あいせい紀年病院
森村 安史	一般財団法人仁明会
門司 晃	佐賀大学医学部精神医学講座
○柳沼 典正	医療法人 ASC あさかストレスクリニック
※矢部 博興	福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
山崎 學	医療法人山崎会サンピエール病院
山田 尚登	上林記念病院
山田 了士	岡山大学大学院精神神経病態学
吉野 相英	防衛医科大学校精神科学講座
吉村 玲児	産業医科大学医学部精神医学
米田 博	大阪医科大学医学部総合医療講座神経精神医学教室
渡邊 衡一郎	杏林大学医学部精神神経科学教室
渡辺 雅子	新宿神経クリニック
○渡部 康	桜ヶ丘病院
渡辺 義文	総合南東北病院精神神経センター

(五十音順)

- コアプログラム委員
- ※ プログラム委員長

セッション一覧

🔊 : 同時通訳(E→J)

(ス) : スライド放映のみのセッション (討論、質疑応答なし)

(倫) : 日本精神神経学会倫理教育研修会対象セッション

ライブ配信①

会長講演

演題名	演者	月日	時間	会場	同通/ス/倫
今日の精神医学の検証 -10 年後への道標として-	矢部 博興	9月28日(月)	13:30~14:30	A会場	-

特別講演

演題名	演者	月日	時間	会場	同通/ス/倫
1 The Treatment of Early Phase Schizophrenia	John M. Kane	9月28日(月)	8:30~ 9:30	B会場	🔊
2 MMN as a promising translational neurophysiological biomarker in schizophrenia	Patricia T. Michie	9月28日(月)	12:10~13:10	A会場	🔊
3 統合失調症モデル動物研究とその展望：幻聴の再現可能性	那波 宏之	9月28日(月)	14:40~15:40	A会場	-
4 New diagnostic models of gender identity, sexual orientation, and atypical sexual behaviour in the ICD-11 : Implications for psychiatric practice	Geoffrey M. Reed	9月29日(火)	9:40~10:40	A会場	🔊
5 The Rewards and Risks of Disaster Psychiatry	Craig L. Katz	9月30日(水)	8:30~ 9:30	B会場	🔊

先達に聴く

演題名	演者	月日	時間	会場	同通/ス/倫
精神科医 Hans Berger の生涯と脳波の発見	山口 成良	9月29日(火)	12:30~13:30	A会場	-

教育講演

演題名	演者	月日	時間	会場	同通/ス/倫
1 摂食障害への初期対応：心身両面から	中里 道子	9月28日(月)	9:40~10:40	B会場	-
2 エビデンスに基づく実践 (EBP) とパーソナルリカバリーの時代	池淵 恵美	9月28日(月)	11:00~12:00	A会場	-
3 統合失調症薬物治療の現状と課題	下田 和孝	9月28日(月)	10:50~11:50	B会場	-
4 成人期発達障害の就労と社会復帰	岩波 明	9月28日(月)	12:00~13:00	B会場	-
5 ドメスティック・バイオレンスと子ども虐待の現状と対応	加茂 登志子	9月28日(月)	13:30~14:30	B会場	-
6 精神病理学の基本問題	内海 健	9月28日(月)	14:40~15:40	B会場	-
7 精神障害の労災認定評価や労災医療の動向～特に産業精神保健の動向を含めて～	黒木 宣夫	9月29日(火)	8:30~ 9:30	A会場	-
8 精神科臨床での神経心理・神経画像検査の意義	村井 俊哉	9月29日(火)	12:20~13:20	M会場	-
9 認知症高齢者の意思決定支援	三村 将	9月29日(火)	13:40~14:40	B会場	-
10 脳波 -これから学ぶ人のために	渡辺 雅子	9月29日(火)	14:50~15:50	B会場	-
11 臨床研究の倫理と利益相反	神山 圭介	9月29日(火)	16:00~17:00	B会場	-
12 取り下げ	-	-	-	-	-
13 精神医学に睡眠学はいかに貢献するか	三島 和夫	9月30日(水)	11:50~12:50	B会場	-



会長企画シンポジウム

テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/ス/倫
今日の精神医学の検証 -バイオマーカーを持たない精神医学の望ましい航路とは-	矢部 博興 宮岡 等	9月28日(月)	8:30~10:50	A会場	-

ライブ配信② (Zoom上でオンデマンド動画を再生後、そのまま討論・質疑をライブで実施)

委員会シンポジウム

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/ス/倫
1	措置入院制度を見直す -告知の視点から (精神医療・保健福祉システム委員会)	浅見 隆康 太田 順一郎	9月28日(月)	8:30~10:30	L会場	-
2	取り下げ	-	-	-	-	-
3	さまざまな領域における公認心理師の現状と今後の展望 (心理職に関する委員会)	松田 ひろし 佐藤 忠彦	9月28日(月)	10:40~12:40	D会場	(ス)
4	重症認知症の人にどのような終末期対応を提供するのか -「認知症診療医」認定更新のために- (認知症委員会)	武田 雅俊	9月28日(月)	13:30~15:30	C会場	-
5	発達障害と精神保健 (精神保健に関する委員会)	吉益 光一	9月28日(月)	13:30~15:30	E会場	-
6	精神医療における ECT の役割 (ECT・rTMS 等検討委員会)	野田 隆政	9月28日(月)	13:30~15:30	P会場	-
7	地域包括ケアシステムと多職種連携: それを阻むものとその対応 (多職種協働委員会)	森川 将行 西村 勝治	9月28日(月)	15:50~17:50	A会場	-
8	同意取得が困難な事例を対象とした症例報告や研究における問題点と課題 (倫理委員会)	久住 一郎	9月28日(月)	15:50~17:50	B会場	(倫)(ス)
9	COVID-19(新型コロナウイルス感染症)がもたらす精神医療保健福祉への影響を考える	重村 淳	9月28日(月)	15:50~17:50	C会場	-
10	外国人労働者/難民のメンタルヘルス (国際委員会)	勝田 吉彰	9月28日(月)	15:50~17:50	E会場	(ス)
11	精神科医療におけるタスク・シフティングに関する諸問題 (精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会)	稲垣 中 米田 博	9月28日(月)	15:50~17:50	F会場	-
12	精神科入院におけるアドボケイト制度に求められるもの (精神保健福祉法委員会)	太田 順一郎 大石 賢吾	9月28日(月)	15:50~17:50	L会場	-
13	アカデミアによるわが国発の精神神経領域の新たな治療薬開発 (PCN 編集委員会)	山末 英典 加藤 忠史 神庭 重信	9月29日(火)	8:30~10:30	B会場	-
14	精神科領域におけるオンライン診療: 保険診療3年目の現状と課題 (オンライン精神科医療検討作業班)	岸本 泰士郎 米田 博 稲垣 中	9月29日(火)	10:40~12:40	D会場	-
15	取り下げ	-	-	-	-	-
16	子供の自殺を防ぐために精神科医ができること (精神保健に関する委員会)	太刀川 弘和 張 賢徳	9月29日(火)	10:40~12:40	Q会場	-
17	精神療法の教え方、伝え方 (精神療法委員会)	中尾 智博	9月29日(火)	13:40~15:40	E会場	-
18	自然災害への備えと対応~BCPと受援・支援~ (災害支援委員会)	富田 博秋 高橋 晶	9月29日(火)	13:40~15:40	M会場	-
19	働き方改革と労働者のメンタルヘルス (精神保健に関する委員会)	渡辺 洋一郎 吉村 玲児	9月29日(火)	16:00~18:00	A会場	-
20	本邦における処方レギュレーションのあり方に関する検討 (薬事委員会)	齊藤 卓弥 岸本 泰士郎	9月29日(火)	16:00~18:00	D会場	(ス)
21	保険診療としての rTMS 療法の均てん化 (ECT・rTMS 等検討委員会)	中村 元昭 鬼頭 伸輔	9月29日(火)	16:00~18:00	M会場	-
22	トランスジェンダー、性別不合 gender incongruence/性別違和の就労問題 (性同一性障害に関する委員会)	松本 洋輔 康 純	9月30日(水)	8:30~10:30	A会場	-
23	ともに働きやすい社会へ -女性精神科医のさらなる活躍をめざす (男女共同参画推進委員会)	安藤 久美子 加茂 登志子	9月30日(水)	8:30~10:30	D会場	-
24	当事者・家族の望む精神医学研究とは: Patient and Public Involvement (精神医学研究推進委員会)	尾崎 紀夫 橋本 亮太	9月30日(水)	8:30~10:30	O会場	(ス)

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/ス/倫
25	旧優生保護法と精神科医療を検証する（法委員会）	三野 進 佐藤 真弓 早苗 麻子	9月30日（水）	8:30～10:30	Q会場	（ス）
26	統合失調症に合併する肥満・糖尿病ガイドをどのように臨床に応用するのか（ガイドライン検討委員会）	古郡 規雄 久住 一郎	9月30日（水）	10:40～12:40	C会場	（ス）
27	取り下げ	—	—	—	—	—
28	人為災害における精神保健医療上の課題：東京オリンピック・パラリンピックに向けて（災害支援委員会）	高橋 晶 重村 淳 福島 昇	9月30日（水）	10:40～12:40	O会場	—
29	精神疾患を抱える人が利用する施設建設に対するスティグマ（アンチスティグマ委員会）	長 徹二 水野 雅文 秋山 剛	9月30日（水）	10:40～12:40	P会場	—
30	東日本大震災復興期の精神保健活動の展開と発展（災害支援委員会）	加藤 寛	9月30日（水）	13:10～15:10	Q会場	—

シンポジウム

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/ス/倫
1	児童虐待とエビジュネティクス	山下 浩	9月28日（月）	8:30～10:30	F会場	—
2	取り下げ	—	—	—	—	—
3	総合病院における認知症対応	小川 朝生	9月28日（月）	10:40～12:40	C会場	—
4	心のケアセンターの現状と展望	矢部 博興	9月28日（月）	11:00～13:00	E会場	—
5	精神科薬物療法の出口戦略に資する実践マニュアル	三島 和夫 稲田 健	9月28日（月）	10:40～12:40	J会場	（ス）
6	てんかん専門精神科医の現在・これから	谷口 豪 宮島 美穂	9月28日（月）	10:40～12:40	K会場	—
7	精神科医のための臨床脳画像「読影入門」-各論編-	曾根 大地 根本 清貴 松田 博史	9月28日（月）	10:40～12:40	L会場	（ス）
8	現代精神医学に病因論はありえるか？ -疾患、特質（特性）、生活史（物語）	須賀 英道 豊嶋 良一	9月28日（月）	11:00～13:00	M会場	—
9	精神疾患・神経疾患におけるニューロモジュレーション治療への期待と課題	松尾 幸治	9月28日（月）	10:40～12:40	N会場	—
10	自治体による寄附講座による児童青年期精神科プログラムの意義	齊藤 卓弥	9月28日（月）	10:40～12:40	O会場	—
11	難治性疼痛 -身体部位別にみた対応の差と共通点-	宮岡 等 宮地 英雄	9月28日（月）	11:00～13:00	P会場	—
12	今、求められている精神科医の認知症医療への参画	池田 学	9月28日（月）	10:40～12:40	Q会場	（ス）
13	個別化精神医療確立に向けたバイオバンク整備の展望	富田 博秋	9月28日（月）	10:40～12:40	R会場	（ス）
14	難治性トゥレット症に対する脳深部刺激療法のエビデンスと今後の課題	金生 由紀子 岡田 俊	9月28日（月）	13:30～15:30	D会場	—
15	認知症非専門医のための認知症診療の基本	馬場 元 水上 勝義	9月28日（月）	13:30～15:30	J会場	（ス）
16	日常診療・こんなときどうしたらいい？	渡辺 雅子 安川 節子	9月28日（月）	13:30～15:30	K会場	—
17	取り下げ	—	—	—	—	—
18	緊張病症候群と身体～生物学的基盤・合併する身体疾患・治療法～	船山 道隆	9月28日（月）	13:30～15:30	M会場	—
19	フロイト、ユング、森田の人間観とその精神療法が目指すもの	新村 秀人	9月28日（月）	13:30～15:30	N会場	—
20	統合失調症薬物治療ガイドラインの普及：SDM を用いた利活用への期待	染矢 俊幸 古郡 規雄	9月28日（月）	13:30～15:30	O会場	（ス）
21	主体性（Agency）の精神医学におけるトランスレーショナルリサーチ：ニューラルネットワークの統合的理解	前田 貴記 山下 祐一 山田 光彦	9月28日（月）	13:30～15:30	Q会場	—
22	事例で理解する複雑性 PTSD 治療の流れ -実臨床に明日から役立つリソース-	新谷 宏伸 松本 俊彦 黒木 俊秀	9月28日（月）	13:30～15:30	R会場	—



	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	通通/ス/倫
23	メンタライゼーション、新しくも普遍的な精神療法 – その治療理論と臨床実践–	池田 暁史 崔 炯仁 白波瀬 丈一郎	9月28日(月)	15:50~17:50	G会場	–
24	日伊精神保健医療福祉の到達点と今後の展望	上島 雅彦	9月28日(月)	15:50~17:50	J会場	–
25	統合失調症とはどういうことか	糸川 昌成 村井 俊哉	9月28日(月)	15:50~17:50	K会場	(ス)
26	アカデミアからフロンティアを目指した rTMS 臨床研究の挑戦	野田 賀大 鬼頭 伸輔	9月28日(月)	15:50~17:50	M会場	–
27	強度行動障害の医療と福祉・教育をつなぐ	會田 千重 市川 宏伸	9月28日(月)	15:50~17:50	N会場	–
28	ポジティブ精神医学の活用 医療から教育分野への応用へ	佐久間 啓 大野 裕 須賀 英道	9月28日(月)	15:50~17:50	O会場	–
29	気質とメンタルヘルス	寺尾 岳 井上 猛	9月28日(月)	15:50~17:50	P会場	(ス)
30	Mismatch negativity (MMN) : 統合失調症バイオマーカー	矢部 博興 住吉 太幹	9月28日(月)	15:50~17:50	Q会場	–
31	取り下げ	–	–	–	–	–
32	精神科分野における経頭蓋直流刺激(tDCS)の実用性と今後の展望 –本邦における tDCS 臨床研究の進捗	住吉 太幹 菊知 充	9月29日(火)	8:30~10:30	C会場	–
33	自閉スペクトラム症者へのヒューマノイドロボット研究の今後の展望	熊崎 博一 加藤 隆弘 吉川 雄一郎	9月29日(火)	8:30~10:30	D会場	–
34	子どもの同意能力と児童精神科臨床	木村 一優 田中 究 太田 順一郎	9月29日(火)	8:30~10:30	E会場	–
35	若手リエゾン精神科医による 10 年後への道標	平山 貴敏 中神 由香子 大矢 希	9月29日(火)	8:30~10:30	F会場	–
36	神経免疫学と精神医学の狭間で	神林 崇 来住 由樹	9月29日(火)	8:30~10:30	J会場	(ス)
37	急性精神病の診断と治療の現状と今後の課題	須賀 英道 金沢 徹文	9月29日(火)	8:30~10:30	K会場	–
38	不安症・強迫症の診療ガイドライン	井上 猛 清水 栄司	9月29日(火)	8:30~10:30	L会場	(ス)
39	認知症の人の生活を支える地域の取り組みに精神科医ができること –Community based Psychiatry	内田 直樹 栗田 圭一	9月29日(火)	8:30~10:30	N会場	–
40	周産期における母親のメンタルヘルスと子どもの養育支援	岡田 俊 小平 雅基	9月29日(火)	8:30~10:30	P会場	(ス)
41	取り下げ	–	–	–	–	–
42	児童相談所に精神科医師はどんな協力ができるか –児童福祉法一部改正による児童相談所の医師配置に対して–	中山 浩	9月29日(火)	10:40~12:40	B会場	–
43	少年法適用年齢引き下げについて考える	太田 順一郎 木村 一優 高岡 健	9月29日(火)	10:40~12:40	E会場	–
44	ノルアドレナリン制御と難治性気分障害	小高 文聰	9月29日(火)	10:40~12:40	J会場	(ス)
45	取り下げ	–	–	–	–	–
46	医療観察法対象者の逸脱行動の病態理解と治療戦略 –措置入院への応用を視野に入れて–	平林 直次 五十嵐 禎人 村杉 謙次	9月29日(火)	10:40~12:40	L会場	–
47	物質使用障害対策の予防介入、早期介入、地域保健	田中 増郎 成瀬 暢也 長 徹二	9月29日(火)	10:40~12:40	N会場	–
48	認知症の人に対して医師に求められる態度と言葉	宮岡 等 大石 智	9月29日(火)	10:40~12:40	P会場	–
49	災害メンタルヘルスを中心とする自然災害への学際的アプローチ –東日本大震災から 10 年の節目に向けて	富田 博秋	9月29日(火)	10:40~12:40	R会場	–
50	主治医・産業医としての精神疾患患者の両立支援 (=治療+就労) をめぐる	紫藤 昌彦 高野 知樹	9月29日(火)	13:40~15:40	A会場	–
51	精神医学は心の医学か、脳の医学か? –精神医学の哲学から切り込む心身問題	榊原 英輔	9月29日(火)	13:40~15:40	C会場	–

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/ス/倫
52	わが国における大規模調査からわかる双極性障害治療におけるヒント	渡邊 衡一郎	9月29日(火)	13:40~15:40	D会場	(ス)
53	これからの発達障害医療の展望と児童精神保健に期待されるもの	大高 一則 原田 剛志	9月29日(火)	13:40~15:40	J会場	-
54	再考：統合失調症急性期治療 -リアルワールドエビデンスと RCT との対比	杉山 直也 八田 耕太郎 来住 由樹	9月29日(火)	13:40~15:40	K会場	-
55	ADHD の診断と治療～最近の知見	岩波 明	9月29日(火)	13:40~15:40	L会場	-
56	日常精神科臨床で遭遇する対処困難な過眠の見立てと対応	小曾根 基裕 小島居 望	9月29日(火)	13:40~15:40	N会場	(ス)
57	精神医療化の必然と薬物療法化の弊害	永田 利彦 宮岡 等	9月29日(火)	13:40~15:40	P会場	-
58	「内因性うつ病」を多面的に把握する	玉田 有	9月29日(火)	13:40~15:40	Q会場	-
59	日本と中国における内観療法の発展と展望	山田 了士 塚崎 稔	9月29日(火)	13:40~15:40	R会場	(ス)
60	全国の精神保健福祉センターにおける自殺対策の取り組み	田中 治 太田 順一郎	9月29日(火)	16:00~18:00	C会場	-
61	福島のレジリエンス、震災・原発事故からの10年を振り返り、これからの10年を考える	星野 修三 沼田 吉彦 前田 正治	9月29日(火)	16:00~18:00	E会場	-
62	激動するわが国の薬物乱用・依存問題：最近のトピックス	成瀬 暢也 松本 俊彦	9月29日(火)	16:00~18:00	J会場	(ス)
63	精神科ブレインバンク各拠点からの成果と今後の臨床への展望 -精神科ブレインバンクへの期待 その4-	入谷 修司 河上 緒	9月29日(火)	16:00~18:00	K会場	-
64	アルツハイマー病における神経精神症状の生物学的研究の新たな展開	品川 俊一郎	9月29日(火)	16:00~18:00	L会場	(ス)
65	取り下げ	-	-	-	-	-
66	不安症と心的外傷性ストレス障害 -類似点と差異点-	貝谷 久宣 原田 誠一	9月29日(火)	16:00~18:00	P会場	-
67	医学生と研修医と専攻医に精神医学・医療の魅力を伝える	福田 正人 米田 博	9月29日(火)	16:00~18:00	Q会場	(ス)
68	当事者の持つ力を引き出し、伸ばしていくためにできること	鈴木 映二 秋山 剛	9月29日(火)	16:00~18:00	R会場	(ス)
69	精神科医からみた口腔領域の身体症状 -難しく避けられがちな病態に立ち向かう-	名越 泰秀 富永 敏行	9月30日(水)	8:30~10:30	C会場	-
70	取り下げ	-	-	-	-	-
71	児童虐待を予防する -産婦人科医、小児科医、精神科医のコラボレーション-	上野 千穂 山下 浩	9月30日(水)	8:30~10:30	F会場	-
72	自閉スペクトラム症の感覚特性とは何なのか？	今村 明 熊崎 博一 小坂 浩隆	9月30日(水)	8:30~10:30	J会場	-
73	認知症の病態メカニズム～グリア、炎症、タンパク伝播の観点から～	新井 哲明 橋岡 禎征	9月30日(水)	8:30~10:30	K会場	(ス)
74	質の高い精神医療を担う多職種人材育成の最前線：課題解決型高度医療人材養成プログラム選定機関の試み	笠井 清登	9月30日(水)	8:30~10:30	L会場	(ス)
75	統合失調症薬物療法の様々な課題にどう対応するか	渡部 康 三浦 至	9月30日(水)	8:30~10:30	M会場	-
76	クロザピン TDM の有用性と今後の課題	菊池 結花	9月30日(水)	8:30~10:30	N会場	-
77	精神科入院治療再考 -「重度かつ慢性」患者への包括支援実践ガイドをもとに	安西 信雄	9月30日(水)	8:30~10:30	P会場	-
78	不登校のまっとうな臨床をめぐる	新谷 宏伸 黒木 俊秀	9月30日(水)	8:30~10:30	R会場	-
79	精神科産業医養成プログラムの必須アイテムをめぐる	工藤 喬 神山 昭男	9月30日(水)	10:40~12:40	A会場	-
80	患者の自動車運転に関するガイドライン再考 -患者にとって良いアドバイスとは-	松尾 幸治	9月30日(水)	10:40~12:40	D会場	(ス)
81	精神医学における精神療法の専門性 (サブスペシャリティ)	木村 宏之 岡田 暁宜	9月30日(水)	10:40~12:40	E会場	-
82	被災地でのアウトリーチを中心とした精神保健活動の現状と課題 **ここ・から・なごみの活動から**	原 敬造	9月30日(水)	10:40~12:40	F会場	-
83	オープンダイアログ実践における治療的要素	斎藤 環 森田 展彰	9月30日(水)	10:40~12:40	J会場	-



	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/ス/倫
84	精神・一般救急医療連携～地域における実践からその先を考える～	橋本 聡 杉山 直也 藤田 潔	9月30日(水)	10:40～12:40	K会場	－
85	不安症治療ガイドラインをいかに臨床に活かすか	松永 寿人	9月30日(水)	10:40～12:40	L会場	(ス)
86	取り下げ	－	－	－	－	－
87	地域に根差した精神保健医療早期相談・介入システムの構築－MEICIS プロジェクト	根本 隆洋	9月30日(水)	10:40～12:40	Q会場	－
88	「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築・実践のため精神医療従事者のなしうことはなにか	伊藤 順一郎	9月30日(水)	10:40～12:40	R会場	－
89	双極症(双極性障害)の薬物療法を安全に行うために	鈴木 映二 山田 和男	9月30日(水)	13:10～15:10	A会場	(ス)
90	光トポグラフィー(NIRS)検査の有用性と問題点	矢部 博興	9月30日(水)	13:10～15:10	B会場	－
91	明日から出来る摂食障害の外来治療～中堅医師からコツを伝授します～	井上 幸紀 田村 奈穂	9月30日(水)	13:10～15:10	C会場	－
92	ベンゾジアゼピン系睡眠薬代替療法の可能性	栗山 健一 高江洲 義和 内山 真	9月30日(水)	13:10～15:10	D会場	－
93	多機能型精神科診療所における包括的地域ケアの実践	窪田 彰 原 敬造	9月30日(水)	13:10～15:10	E会場	－
94	仮想症例から学ぶアルコール依存症の新ガイドラインと治療ゴール－断酒と減酒の実践的治療を考える－	宮田 久嗣	9月30日(水)	13:10～15:10	F会場	－
95	精神科臨床における身体拘束と肺塞栓予防	石田 琢人	9月30日(水)	13:10～15:10	J会場	－
96	福島県における震災後の子どもたちのこころの支援	中村 和彦	9月30日(水)	13:10～15:10	K会場	－
97	周産期メンタルヘルスの最前線	鈴木 利人 岡野 禎治	9月30日(水)	13:10～15:10	L会場	－
98	過食と行動嗜癖：どこまで嗜癖として治療可能か	永田 利彦 宮岡 等	9月30日(水)	13:10～15:10	M会場	－
99	大学病院における精神科診療の役割	三村 將 村井 俊哉	9月30日(水)	13:10～15:10	N会場	－
100	我が国の月経前不快気分障害(PMDD)の現状	大坪 天平 武田 卓	9月30日(水)	13:10～15:10	O会場	－
101	血中濃度をもっと活かそう	山田 了士 渡辺 雅子 高木 学	9月30日(水)	13:10～15:10	P会場	(ス)
102	抗ADHD薬の依存・乱用のリスクとADHDの鑑別・併存を含めた適切な使用のあり方について	岡田 俊 飯田 順三	9月30日(水)	13:10～15:10	R会場	(ス)

Fellowship Award Symposium

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/ス/倫
1	Mental health and work life balance of psychiatrists	Toshitaka Ii	9月28日(月)	10:40～12:40	F会場	－
2	Case Vignette (Obsessive Compulsive Disorder)	Toshitaka Ii	9月28日(月)	13:30～15:30	F会場	－
3	Mental health and work life balance of psychiatrists	Toshitaka Ii	9月29日(火)	10:40～12:40	F会場	－
4	Case Vignette (Obsessive Compulsive Disorder)	Toshitaka Ii	9月29日(火)	13:40～15:40	F会場	－

ワークショップ

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/ス/倫
1	映像で学ぶ初診面接－社交不安症編－(精神療法委員会)	池田 暁史	9月28日(月)	8:30～10:10	E会場	－
2	取り下げ	－	－	－	－	－
3	取り下げ	－	－	－	－	－

テーマ		コーディネーター	月日	時間	会場	同通/ス/倫
4	ICD-11 を適切に使うための知識 (ICD-11 委員会)	丸田 敏雅 秋山 剛 松本 ちひろ	9月28日(月)	8:30~10:10	Q会場	-
5	様々な場所で働く女性精神科医の仕事を知ろう (男女共同参画推進委員会)	安川 節子 加茂 登志子 布施 泰子	9月28日(月)	8:30~10:10	R会場	-
6	小児精神医療入門：新シリーズ(3)子どもが示す症状 の多様性：その意味と疾患との関連について (小児精神医療委員会)	松本 英夫	9月28日(月)	13:30~15:10	G会場	-
7	<脳波の基礎コース>精神科医が脳波を学ぶ意義と研 修方法	原 恵子 矢部 博興	9月29日(火)	8:30~10:10	M会場	-
8	精神神経誌に掲載される論文の書き方 (精神神経学雑誌編集委員会)	大森 哲郎 細田 眞司	9月29日(火)	8:30~10:10	O会場	-
9	不安の精神療法 -日常診療でどう進めるか	中村 敬	9月29日(火)	8:30~10:10	Q会場	-
10	<脳波の応用コース>脳波検査とその解釈 脳波検査 をどう臨床にいかしていくのか	太田 克也 矢部 博興	9月29日(火)	10:40~12:20	C会場	(ス)
11	現役エディターによる論文の書き方指導の講義と論文 投稿の個別相談会 (PCN 編集委員会)	橋本 亮太	9月29日(火)	10:20~12:00	M会場	-
12	最近の自殺問題の動向と自殺予防医療 (精神保健に関する委員会)	河西 千秋 大塚 耕太郎	9月29日(火)	13:40~15:20	G会場	-
13	取り下げ	-	-	-	-	-
14	日常診療に診療ガイドラインは役に立つのか？	上野 修一 橋本 亮太	9月29日(火)	16:00~17:40	O会場	-

プ ロ グ ラ ム

P r o g r a m



9月28日(月) A会場

8:30~10:50

会長企画シンポジウム

今日の精神医学の検証 -バイオマーカーを持たない精神医学の望ましい航路とは-

司会：矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
宮岡 等 北里大学北里研究所病院

PS1-1

バイオマーカーを持たない精神医学が許される針路とは？

○矢部 博興
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

PS1-2

精神疾患克服を目指して～これまでとこれから

○加藤 忠史^{1,2}
¹理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム、²順天堂大学医学部精神医学教室

PS1-3

純粹精神医学（伝統的精神医学への回帰）

○古茶 大樹
聖マリアンナ医科大学神経精神科

PS1-4

精神医療の守備範囲

○宮岡 等
北里大学医学部精神科

〈コーディネーター〉 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
宮岡 等 北里大学北里研究所病院

11:00~12:00

教育講演 2

司会：後藤 雅博 医療法人崇徳会こころのクリニックウィズ

EL2

エビデンスに基づく実践（EBP）とパーソナルリカバリーの時代

○池淵 恵美
帝京平成大学大学院臨床心理学研究科



12:10~13:10

特別講演 2

🔊 同時通訳(E↔J)

司会：笠井 清登 東京大学大学院医学系研究科精神医学

SL2

MMN as a promising translational neurophysiological biomarker in schizophrenia

○Patricia T. Michie^{1,2}、Lauren Harms³、Jaishree Jalewa²、Ariel Dunn²、
Juanita Todd²、Deborah Hodgson²

¹Emeritus Professor, Psychology, University of Newcastle、²School of Psychology, University of Newcastle, Callaghan. NSW 2308 Australia、³School of Biomedical Sciences and Pharmacy, University of Newcastle, Callaghan. NSW 2308 Australia



13:30～14:30 会長講演

司会：神庭 重信 九州大学

PL1 今日の精神医学の検証 -10年後への道標として-

○矢部 博興
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

14:40～15:40 特別講演 3

司会：山内 俊雄 埼玉医科大学

SL3 統合失調症モデル動物研究とその展望；幻聴の再現可能性

○那波 宏之
新潟大学脳研究所15:50～17:50 委員会シンポジウム 7（多職種協働委員会）
地域包括ケアシステムと多職種連携：それを阻むものとその対応司会：森川 将行 三重県立こころの医療センター診療部
西村 勝治 東京女子医科大学病院

CS7-1 地域包括ケアシステムと多職種連携～ささがわプロジェクト及び安積地域包括支援センターにおける実践から～

○安西 里実¹、佐久間 啓²
¹安積地域包括支援センター、²あさかホスピタル

CS7-2 私の望む生活・暮らしを実現する作業療法の機能と役割

○村井 千賀
石川県立高松病院

CS7-3 地域から求められる地域包括ケアの可能性～大規模災害後の心のケアの経験から～

○米倉 一磨
NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会相馬広域こころのケアセンターなごみ

CS7-4 在宅医療における多職種連携

○内田 直樹
たろうクリニック

CS7-5 地域包括ケアシステムと多職種連携を実現する為に

○窪田 彰
医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック〈コーディネーター〉 森川 将行 三重県立こころの医療センター診療部
西村 勝治 東京女子医科大学病院



9月28日(月) B会場

8:30~9:30

特別講演 1

同時通訳(E↔J)

司会：大谷 浩一 山形大学医学部精神医学講座

SL1

The Treatment of Early Phase Schizophrenia

○John M. Kane

Professor and Chairman, Psychiatry, The Donald and Barbara Zucker School of Medicine



9:40~10:40

教育講演 1

司会：井上 幸紀 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

EL1

摂食障害への初期対応：心身両面から

○中里 道子

国際医療福祉大学医学部精神医学



10:50~11:50

教育講演 3

司会：近藤 毅 琉球大学大学院精神病態医学講座

EL3

統合失調症薬物治療の現状と課題

○下田 和孝

獨協医科大学精神神経医学講座



12:00~13:00

教育講演 4

司会：池淵 恵美 帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

EL4

成人期発達障害の就労と社会復帰

○岩波 明

昭和大学医学部精神医学講座



13:30~14:30 **教育講演 5**

司会：三原 伊保子 三原デイケア+クリニックりぼん・りぼん

EL5

ドメスティック・バイオレンスと子ども虐待の現状と対応○加茂 登志子
若松町こころとひふのクリニックメンタルケア科PCIT研修センター14:40~15:40 **教育講演 6**

司会：細田 眞司 こころの診療所細田クリニック

EL6

精神病理学の基本問題○内海 健
東京藝術大学保健管理センター15:50~17:50 **委員会シンポジウム 8 (倫理委員会)****日本精神神経学会倫理教育研修会対象セッション****同意取得が困難な事例を対象とした症例報告や研究における問題点と課題**司会：久住 一郎 北海道大学大学院医学研究院精神医学教室
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

CS8-1

司法精神医学に携わる立場から○村松 太郎
慶應義塾大学医学部精神神経科

CS8-2

児童虐待事件に関係し受刑中の養育者への質問紙調査：同意取得に関して留意した点○黒田 公美
理化学研究所脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チーム

CS8-3

当事者・家族と進めるゲノム医療へ ゲノム解析・遺伝カウンセリングに携わる臨床遺伝専門医の立場から○石塚 佳奈子
名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

CS8-4

【指定発言】○木ノ元 直樹
木ノ元法律事務所

CS8-5

【指定発言】○夏莉 郁子
やきつべの怪診療所

〈コーディネーター〉 久住 一郎 北海道大学大学院医学研究院精神医学教室

※参加された方のうち希望者に「倫理教育研修会修了証」を発行いたします。



9月28日(月) C会場

10:40～12:40 シンポジウム3
総合病院における認知症対応

司会：小川 朝生 国立がん研究センター東病院先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野

S3-1 急性期病院における認知症診療の課題－実態調査から見てきたこと－

○谷向 仁¹、小川 朝生²

¹京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻、同附属病院附属病院緩和ケアセンター/緩和医療科、

²国立研究開発法人国立がん研究センター東病院

S3-2 一般急性期病院における認知症教育プログラムの内容と効果検証について

○井上 真一郎

岡山大学病院精神科神経科

S3-3 認知症ケアによる教育活動の実践および今後の課題

○木野 美和子

筑波メディカルセンター

S3-4 総合病院における認知症ケアの現状と課題～認知症ケアチームの活動からみえたこと～

○東谷 敬介

市立札幌病院

〈コーディネーター〉 小川 朝生 国立がん研究センター東病院先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野

13:30～15:30 委員会シンポジウム4(認知症委員会)
重症認知症の人にどのような終末期対応を提供するのか－「認知症診療医」認定更新のために－

司会：瀧野 勝弘 医療法人社団淵野会
布村 明彦 東京慈恵会医科大学精神医学講座

CS4-1 認知症の人の医療選択に関する意思決定支援

○成本 迅

京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

CS4-2 コミュニケーション能力への対応－言語機能の低下と意思疎通の工夫－

○吉村 貴子

京都先端科学大学

CS4-3 認知症高齢者の移動歩行能力への対応－転倒予防と身体拘束低減

○鈴木 みずえ

浜松医科大学

CS4-4 経口摂取が困難となった場合の対応－人工的水分・栄養補給法のあり方

○会田 薫子

東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣講座

〈コーディネーター〉 武田 雅俊 学校法人河崎学園大阪河崎リハビリテーション大学

15:50～17:50 **委員会シンポジウム 9****COVID-19（新型コロナウイルス感染症）がもたらす精神医療保健福祉への影響を考える**司会：金 吉晴
重村 淳国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
目白大学保健医療学部**CS9-1 CBRNE 災害としての COVID-19**○重村 淳¹、黒澤 美枝²¹目白大学保健医療学部、²武蔵野大学人間科学部**CS9-2 COVID-19 の地域精神保健福祉領域に対する影響とその対策**

○藤城 聡

愛知県精神保健福祉センター

CS9-3 COVID-19 に伴う精神医療の現場で起きている課題と支援者支援○高橋 晶^{1,2}¹筑波大学医学医療系災害・地域精神医学、²茨城県立こころの医療センター**CS9-4 COVID-19(新型コロナウイルス感染症)が子どものメンタルヘルスにもたらす影響：多領域からの支援について**

○高橋 秀俊

高知大学医学部児童青年期精神医学（寄附講座）

CS9-5 【指定発言】

○金 吉晴

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈コーディネーター〉 重村 淳 目白大学保健医療学部



9月28日(月) D会場

10:40～12:40 **委員会シンポジウム 3 (心理職に関する委員会)**
さまざまな領域における公認心理師の現状と今後の展望

司会：三野 進 みのクリニック
定松 美幸 金城学院大学人間科学部

CS3-1 全体の動向と保健医療領域における公認心理師の実態について

○今村 扶美
国立精神・神経医療研究センター病院臨床心理室

CS3-2 公認心理師への期待－司法精神医学の立場から

○五十嵐 禎人
千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門

CS3-3 学校教育における公認心理師の役割～チーム学校時代の心理専門職として～

○窪田 由紀
九州産業大学

CS3-4 産業保健の立場から

○五十嵐 良雄
メディカルケア虎ノ門精神科

CS3-5 福祉分野における公認心理師の現状と今後の展望

○木太 直人
公益社団法人日本精神保健福祉士協会

〈コーディネーター〉 松田 ひろし 医療法人立川メディカルセンター柏崎厚生病院
佐藤 忠彦 桜ヶ丘記念病院

13:30～15:30 **シンポジウム 14**
難治性トゥレット症に対する脳深部刺激療法のエビデンスと今後の課題

司会：金生 由紀子 東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野
岡田 俊 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

S14-1 難治性トゥレット症をいかに定義し、いかに対処するか

○岡田 俊
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

S14-2 トウレット症候群の重度難治性チックに対する脳深部刺激療法

○開道 貴信^{1,2}
¹大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科解剖生理学研究室、²国立病院機構奈良医療センター脳神経外科

S14-3 トウレット症候群に伴う重度チックに対する脳深部刺激療法の長期的効果と予後

○木村 唯子¹、金生 由紀子⁵、開道 貴信^{3,4}、大森 まゆ²、岩崎 真樹¹
¹国立精神神経医療研究センター病院脳神経外科、²国立精神神経医療研究センター病院精神科、
³国立病院機構奈良医療センター脳神経外科、⁴大阪松蔭女子大学健康栄養学部、⁵東京大学こころの発達診療部

S14-4 脳深部刺激治療を受けた難治性トゥレット症患者の実態と今後の課題

○金生 由紀子¹、開道 貴信^{2,3}、岩崎 真樹⁴、木村 唯子⁴、岡田 俊⁵、梶田 泰一⁶
¹東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野、²大阪樟蔭女子大学健康栄養学部、
³国立病院機構奈良医療センター脳神経外科、⁴国立精神神経医療開発センター病院脳神経外科、
⁵国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部、
⁶国立病院機構名古屋医療センター脳神経外科

S14-5

【指定発言】

○飯田 仁志
福岡大学病院精神神経科

〈コーディネーター〉 金生 由紀子 東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野
岡田 俊 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部



9月28日(月) E会場

8:30～10:10 ワークショップ 1 (精神療法委員会) 映像で学ぶ初診面接ー社交不安症編ー

司会：福田 正人 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学講座
池田 暁史 文教大学人間科学部臨床心理学科

WS1 〈講演者〉 中村 敬 東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科
藤山 直樹 個人開業
原田 誠一 原田メンタルクリニック
菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

〈コーディネーター〉 池田 暁史 文教大学人間科学部臨床心理学科

11:00～13:00 シンポジウム 4 心のケアセンターの現状と展望

司会：大川 貴子 福島県立医科大学精神看護学講座
大塚 耕太郎 岩手医科大学神経精神科学講座

S4-1 心のケアセンターの現状と展望

○渡部 育子
一般社団法人福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

S4-2 大規模災害における心のケアの中長期支援と課題～福島県相双地区の9年間の活動から～

○米倉 一磨
NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会相馬広域こころのケアセンターなごみ

S4-3 みやぎ心のケアセンターの現状と課題

○福地 成
みやぎ心のケアセンター

S4-4 岩手県被災地におけるこころのケアとメンタルヘルス対策について

○赤平 美津子^{1,2}、大塚 耕太郎^{1,2,3}、小泉 範高^{1,2,3}、酒井 明夫²
¹岩手医科大学医学部災害・地域精神医学講座、²岩手県こころのケアセンター、³岩手医科大学神経精神科学講座

〈コーディネーター〉 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

13:30～15:30 委員会シンポジウム 5 (精神保健に関する委員会) 発達障害と精神保健

司会：吉益 光一 神戸女学院大学人間科学部心理・行動科学科
立花 良之 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

CS5-1 成人期の ADHD と物質関連障害の関連性に関する系統レビューとメタ分析

○吉益 光一
神戸女学院大学人間科学部心理・行動科学科

CS5-2 発達障害と周産期・乳幼児精神保健

○立花 良之
国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科

CS5-3 地域における「発達障害」の診断と当事者と家族支援のための環境整備

○北野 尚美
和歌山県立医科大学医学部

CS5-4 発達障害に対する行政的支援

○二宮 貴至
浜松市精神保健福祉センター

〈コーディネーター〉 吉益 光一 神戸女学院大学人間科学部心理・行動科学科

15:50～17:50 **委員会シンポジウム 10（国際委員会）**

外国人労働者/難民のメンタルヘルス

司会：勝田 吉彰 関西福祉大学社会福祉学部
秋山 剛 NTT東日本関東病院

CS10-1 外国人労働者/難民のメンタルヘルス

○勝田 吉彰
関西福祉大学社会福祉学部

CS10-2 日本に暮らす難民のメンタルヘルス支援

○桂川 修一¹、鷗川 晃²
¹東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック、²大正大学人間学部人間環境科

CS10-3 精神医療機関における外国人患者受入の現状と課題

○山室 和彦
奈良県立医科大学精神医学講座

CS10-4 THE MENTAL HEALTH OF CULTURALLY AND LINGUISTICALLY DIVERSE PEOPLE IN AUSTRALIA AND NEW ZEALAND

○John Allan
President, Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists

〈コーディネーター〉 勝田 吉彰 関西福祉大学社会福祉学部



9月28日(月) F会場

8:30~10:30 シンポジウム 1 児童虐待とエビジェネティクス

司会：山下 浩 さいたま市子ども家庭総合センターさいたま市児童相談所
三宅 和佳子 大阪母子医療センター子どものこころの診療科

S1-1 児童虐待の現状 -虐待される子ども、虐待してしまう親・養育者-

○山下 浩
さいたま市子ども家庭総合センターさいたま市児童相談所

S1-2 被虐待児とエビジェネティクス -トラウマの世代間伝達とエビジェネティクスとの関係-

○今村 明¹、○森本 芳郎²
¹長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部、²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経学

S1-3 被虐待児の OXTR 遺伝子 DNA メチル化の脳画像エピゲノム解析

○西谷 正太、友田 明美
福井大学子どものこころの発達研究センター

S1-4 【指定発言】

○岡田 俊
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

〈コーディネーター〉 山下 浩 さいたま市子ども家庭総合センターさいたま市児童相談所

10:40~12:40 Fellowship Award Symposium 1 Mental health and work life balance of psychiatrists

Chairperson : Moriou Aki Toyooka Public Hospital, Japan

FAS1-1 Stressful work environment for psychiatrists in Kenya

○Florence Jaguga
MOI Teaching & Referral Hospital, Kenya

FAS1-2 Potential for Optimal Work- Life Balance of Psychiatrists in Belarus

○Olga Kazakova
Head of inpatient psychiatric department, Psychiatric Clinic of Minsk City, Belarus

FAS1-3 Mental health and Well-being of the Psychiatry Workforce in UK

○Shevonne Matheiken
East London NHS Foundation Trust, UK

FAS1-4 Mental health and work life balance of Psychiatrists/Mental Health Providers in Japan

○Yuka Ueda
Fukushima Medical University School of Medicine, Department of NeuroPsychiatry, Japan

〈Coordinator〉 Toshitaka Ii : Aichi Medical University, Japan

13:30～15:30 **Fellowship Award Symposium 2**
Case Vignette (Obsessive Compulsive Disorder)

Chairperson : **Kazuhiko Yamamuro** Department of Psychiatry, Nara Medical University, Japan

FAS2-1 Innovative management of obsessive-compulsive disorder in Hungary

○Dorottya Ori
Vadaskert Child and Adolescent Psychiatry Hospital, Hungary

FAS2-2 Early-Onset Obsessive-Compulsive Symptoms : Adequacy VS Barriers to Care in Thailand

○Awirut Oon-arom
Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand

FAS2-3 Assessment, diagnosis and management of obsessive-compulsive disorder in Singapore

○Su Hui Ho
National University Health System, Singapore

FAS2-4 Approaches to Obsessive-Compulsive Disorder in JAPAN

○Anri Watanabe
Department of Psychiatry, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine, Japan

〈Coordinator〉 Toshitaka Ii : Aichi Medical University, Japan

15:50～17:50 **委員会シンポジウム 11 (精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会)**
精神科医療におけるタスク・シフティングに関する諸問題

司会 : 稲垣 中 青山学院大学教育人間科学部/保健管理センター
米田 博 大阪医科大学附属病院

CS11-1 医師働き方改革におけるタスク・シフティングの動向

○米田 博
大阪医科大学医学部神経精神医学教室

CS11-2 精神科病院・精神保健福祉センターの視点から見たタスク・シフティング

○辻本 哲士
滋賀県立精神保健福祉センター

CS11-3 総合病院におけるタスク・シフティングとタスク・シェアリングとは

○根本 康
さいたま市立病院精神科

CS11-4 看護師特定行為研修制度の概要と精神科医療のタスクシフトの可能性

○萱間 真美
聖路加国際大学大学院看護学研究科精神看護学研究室

CS11-5 医師から心理師へのタスクシフト・タスクシェア

○壁屋 康洋^{1,2}、前上里 泰史^{2,3}
¹国立病院機構榊原病院、²国立病院機構全国心理療法師士協議会、³独立行政法人国立病院機構琉球病院

〈コーディネーター〉 稲垣 中 青山学院大学教育人間科学部/保健管理センター
米田 博 大阪医科大学附属病院



9月28日(月) G会場

13:30～15:10 ワークショップ 6 (小児精神医療委員会)

小児精神医療入門：新シリーズ(3)子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について

司会：松本 英夫 東海大学医学部専門診療学系精神科学
高橋 秀俊 高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学

WS6 〈講演者〉 今村 明 長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部
鈴村 俊介 東京都立大塚病院児童精神科
本多 奈美 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野
館農 勝 ときわ病院・ときわこども発達センター

〈コーディネーター〉 松本 英夫 東海大学医学部専門診療学系精神科学

15:50～17:50 シンポジウム 23

メンタライゼーション、新しくも普遍的な精神療法ーその治療理論と臨床実践ー

司会：白波瀬 丈一郎 慶應義塾大学精神・神経科学教室
渡部 京太 広島市こども療育センター

S23-1 メンタライゼーションという概念

○白波瀬 丈一郎
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S23-2 メンタライゼーションに基づく治療ー治療理論とエビデンスー

○池田 暁史
文教大学人間科学部臨床心理学科

S23-3 精神科診療におけるメンタライゼーションの実践と活用

○崔 炯仁
稲門会いわくら病院精神科

S23-4 児童福祉領域におけるメンタライゼーションの活用

○若松 亜希子
法政大学大学院人間社会研究科

S23-5 〔指定発言〕

○渡部 京太
広島市こども療育センター

〈コーディネーター〉 池田 暁史 文教大学人間科学部臨床心理学科
崔 炯仁 稲門会いわくら病院精神科
白波瀬 丈一郎 慶應義塾大学精神・神経科学教室

9月28日(月) H会場

8:30~9:30

一般演題(口演) 1

統合失調症 1

司会: 兼子 幸一 鳥取大学医学部脳神経医学講座精神行動医学分野

1-01-1

統合失調症における認知機能障害の特徴

○渡部 和成

医療法人崇徳会田宮病院精神科

1-01-2

認知機能リハビリテーションがもたらす統合失調症患者の小脳の白質微細構造変化

○松岡 究^{1,2}、盛本 翼²、松田 康裕²、安野 史彦³、田岡 俊昭⁴、宮坂 俊輝⁵、吉川 裕晶²、
高橋 誠人²、北村 聡一郎^{1,2}、吉川 公彦⁵、岸本 年史²¹放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部、²奈良県立医科大学精神医学講座、³国立研究開発法人国立長寿医療研究センター精神科、⁴名古屋大学革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座、⁵奈良県立医科大学放射線医学教室

1-01-3

<演題取り下げ>

1-01-4

統合失調症のメタ認知トレーニング: 参加者の満足度調査

○石垣 琢磨¹、石川 亮太郎²、島田 岳³、田上 博喜⁴、吉永 尚紀⁵、織部 直弥⁶、森元 隆文⁷、
松本 武士⁸、細野 正人¹¹東京大学大学院総合文化研究科、²大正大学、³メンタルサポートそよかぜ病院、⁴宮崎大学医学部看護学科、⁵宮崎大学テニユアトラック推進機構看護学系、⁶独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、⁷札幌医科大学保健医療学部作業療法学科、⁸医療法人社団大和会大内病院

1-01-5

当院における初発統合失調症入院例の特徴と治療アウトカム

○森脇 久視、茨木 丈博、福井 英里、山本 舞、面川 育、板橋 登子

神奈川県立精神医療センター精神科

9:40~10:40

一般演題(口演) 3

統合失調症 2

司会: 岸本 年史 奈良県立医科大学付属病院

1-03-1

<演題取り下げ>

1-03-2

<演題取り下げ>

1-03-3

クロザピン誘発性好中球減少症に対し、N アセチルグルコサミンの有効性が示唆された一例

○白川 美千雄、村岡 寛之、稲田 健、押淵 英弘、末木 亮嗣、佐藤 萌子、松井 聡子、
長澤 友梨香、石橋 美貴子、堀江 容子、西村 勝治

東京女子医科大学病院神経精神科

1-03-4

クロザピンを導入し、ジストニアおよび精神症状の顕著な改善を認めた 1 例

○近藤 怜苑、木村 宏之、瀬名波 徹、尾崎 紀夫

名古屋大学医学部付属病院精神科



10:50～11:50 一般演題（口演）5
神経症性障害 1

司会：渡辺 義文 総合南東北病院 精神神経センター

1-05-1 松沢病院の強迫症患者約 80 名の臨床的特徴 特に精神科併存症に関する考察

○岡村 泰¹、杉本 達哉²、頃安 英毅³、佐々木 亮³、村端 祐樹³、川瀬 愛³、梅田 夕奈³、
根路銘 要太⁴、福田 陽明³、松本 光輔³、針間 博彦³、齋藤 正彦³、平安 良雄⁵

¹東京都立松沢病院横浜市立大学医学部精神医学教室、²静岡県立静岡がんセンター、³東京都立松沢病院、

⁴東京都立小児総合医療センター、⁵医療法人へいあん平安病院

1-05-2 強迫症患者における入院加療後の服薬アドヒアランスに関わる臨床的要因の検討

○徳谷 晃¹、向井 馨一郎²、中村 豪志¹、木村 健¹、松永 寿人²

¹兵庫医科大学病院薬剤部、²兵庫医科大学精神科神経科学講座

1-05-3 森田療法と抗うつ薬の戦略的組み合わせによる強迫症治療：「不安を取り除かず、不安を持ちこたえる」

○新村 秀人¹、北西 憲二²

¹慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、²北西クリニック、森田療法研究所

1-05-4 小児期虐待が成人期不安症状に及ぼす影響：対人関係敏感性 及び ライフイベントの否定的評価による媒介作用

○中澤 広¹、井上 猛²

¹東京医科大学大学院精神医学分野、²東京医科大学精神医学分野

1-05-5 <演題取り下げ>

12:00～13:00 一般演題（口演）7
研修生・医学部生演題 1

司会：田子 久夫 公益財団法人磐城済世会舞子浜病院

1-07-1 初老期の精神病性うつ病の背景にレビー小体病の存在が疑われた一例

○森 大晃^{1,2}、細川 里瑛²、清水 秀明²、高山 由華子²、舟橋 裕²、久門 啓志²、尾崎 優樹²、
河邊 憲太郎²、山内 宏治³、上野 修一²

¹愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター、²愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座、

³正光会宇和島病院

1-07-2 修正型電気けいれん療法が安全に施行できたペースメーカーが挿入されている双極性障害うつ病相患者の一例

○山澤 真穂、村岡 寛之、佐藤 萌子、白川 美千雄、押淵 英弘、河野 敬明、堀江 容子、
稲田 健、西村 勝治

東京女子医科大学病院

1-07-3 脳室周囲白質軟化症による治療抵抗性精神病性障害の一例

○瀬下 翔也¹、三宅 誕実²、櫛野 宣久²、古茶 大樹²

¹聖マリアンナ医科大学病院、²聖マリアンナ医科大学神経精神科

1-07-4 抗 NMDA 抗体受容体抗体脳炎を発症した 60 代男性の一例～抗 VGKC 複合体抗体脳炎との比較～

○古江 ナオミ¹、中村 雅之²、浦田 結嘉²、崎元 仁志²、肝付 洋²、石塚 貴周²

¹鹿児島大学病院総合臨床研修センター、²鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

1-07-5 急性期脳梗塞後に発症した Poststroke psychosis に抗精神病薬が速やかに奏功した一例○小泉 友紀暁¹、武藤 仁志¹、藤木 修子²、田村 赳紘¹、治徳 大介¹、竹内 崇¹、杉原 玄一¹、高橋 英彦¹¹東京医科歯科大学医学部附属病院精神科、²東京医科歯科大学医学部附属病院脳神経内科**13:30～14:30 一般演題（口演）9
摂食障害等**

司会：須田 史朗 自治医科大学精神医学講座

1-09-1 難治性の口腔内セネストパチーとチック障害に対してホログラフィートークが著効した一例○加藤 嘉明¹、上野 繭美^{2,3}、佐川 悠毅¹、清水 優¹、福田 春樹¹、高橋 宏彰¹、安藤 泰善¹、大西 征司¹、小倉 盛崇¹、長谷川 聖¹、西崎 純¹、日比野 浩之¹、北川 年一¹、高屋 淳彦¹、嶺 輝子⁴¹福井記念病院精神科、²福井記念病院歯科、³鶴見大学歯学部口腔内科学講座、⁴アースシー・ヒーリング・セラピー**1-09-2 神経性食思不振症の急性期治療に PICC による中心静脈栄養を導入した 2 症例**

○木村 聡、浅野 太志、後藤 将之、後藤 大介、落合 晴香、森 湧平、泉 竜太、赤間 孝洋、板垣 俊太郎、三浦 至、矢部 博興

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

1-09-3 看護師の食事サポートと弁証法的行動療法を軸とした入院プログラムは摂食障害における反すう反応を減弱する

○米良 貴嗣

八幡厚生病院精神科・心療内科

1-09-4 家族介入により神経性やせ症の病理の改善が示唆された一例：アドラー心理学からの考察○坂田 晴耶¹、白石 直¹、川瀬 理絵子²、浅沼 恵美³、石川 貴康⁴、伊藤 夕貴²、明智 龍男¹¹名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野、²名古屋市立大学病院診療技術部、³名古屋市立大学病院薬剤部、⁴名古屋市立大学病院医学・病院管理部**1-09-5 拘束を行わず常時観察下の経管栄養を行うことで治療の転帰となった、摂食障害の 15 歳女性の治療**

○堀川 直希

医療法人コミュノテ風と虹のぞえの丘病院精神科

**14:40～15:40 一般演題（口演）11
依存・行動嗜癖 1**

司会：松下 幸生 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

1-011-1 <演題取り下げ>**1-011-2 自傷行為としての瀉血を繰り返す、重症な摂食障害を合併した多剤物質使用障害の一例**

○西村 康平、板橋 登子、吉川 るみ子、楠山 さなみ、黒澤 文貴、小林 桜児

神奈川県立精神医療センター

1-011-3 ナルメフェンによる減酒治療から断酒に至ったアルコール依存症の 1 例

○橋本 望

地方独立行政法人岡山県精神科医療センター



1-011-4 精神科医療に対するハームリダクション的な考え方の導入

○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター

1-011-5 誰にでもできる性犯罪を繰り返す患者の外来治療

○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター

15:50～16:50 一般演題（口演）13
依存・行動嗜癖 2

司会：曾良 一郎 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

1-013-1 物質使用障害患者における断酒・断薬期間に関する報告ー初診3年後予後調査よりー

○板橋 登子、小林 桜児、黒澤 文貴、福生 泰久、西村 康平
神奈川県立精神医療センター

1-013-2 依存症患者における小児期逆境体験 -1,700人分の初診時調査の報告-

○小林 桜児、板橋 登子、黒澤 文貴、西村 康平、福生 泰久
神奈川県立精神医療センター精神科

1-013-3 依存症患者のスティグマに関する意識調査

○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター

1-013-4 わが国のオピオイド鎮痛薬乱用・依存問題の現状と対策

○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター

1-013-5 OTC医薬品乱用・依存の現状と課題～自験例からの考察～

○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

9月28日(月) I会場

8:30~9:30

一般演題(口演) 2

気分障害 1

司会: 白川 治

近畿大学医学部精神神経科学講座

1-02-1

コミュニケーションサポートツールを用いた希死念慮の把握における有用性

○松下 満彦^{1,2}、杉野 美幸¹、徳永 雄一郎¹、奥村 幸祐¹、高田 和秀^{1,2}、西 慶輔¹、後藤 玲央^{1,2}、川崎 弘詔²¹医療法人新光会不知火病院精神科、²福岡大学病院

1-02-2

外来うつ病治療におけるマインドフルネス集団療法の効果の検討

○島松 まゆみ¹、高橋 さやか¹、杉本 浩利¹、後藤 玲央²、松下 満彦^{1,2}、徳永 雄一郎^{1,2}¹医療法人新光会不知火病院、²福岡大学医学部精神医学部教室

1-02-3

双極性障害の症状寛解期における主観的認知機能と社会機能との関連について

○豊島 邦義、豊巻 敦人、高信 径介、渡辺 晋也、三井 信幸、賀古 勇輝、朝倉 聡、久住 一郎
北海道大学病院精神科神経科

1-02-4

<演題取り下げ>

1-02-5

<演題取り下げ>

9:40~10:40

一般演題(口演) 4

気分障害 2

司会: 吉野 相英

防衛医科大学校精神科学講座

1-04-1

トラウマを有する双極 II 型障害患者に対する EMDR の試み; 症例報告

○福元 進太郎¹、松村 由紀子¹、椎野 智子^{1,2}、上野 幹二¹、大森 一郎¹、小坂 浩隆¹¹福井大学医学部精神医学、²福井大学子どものこころの発達研究センター情動認知発達研究部門

1-04-2

難治性うつ状態の診断・治療の適正化により社会復帰に至った一例

○丸木 拓、高江洲 義和、坪井 貴嗣、渡邊 衡一郎

杏林大学病院精神科

1-04-3

縊頸自殺企図後に症状が劇的に改善したうつ病の一例

○高野 学、関谷 竜彦、岡田 剛史、小林 聡幸、須田 史朗

自治医科大学附属病院

1-04-4

初発躁病エピソードで月経周期との関連から若年周期性精神病と診断した一例

○小林 正明¹、山形 弘隆¹、萩原 康輔¹、兼行 浩史²、中川 伸¹¹山口大学医学部附属病院精神科神経科、²山口県立こころの医療センター

1-04-5

薬剤性錐体外路障害とうつ病性昏迷に伴う緊張病との鑑別に苦慮した 1 例

○古川 葵¹、佐藤 由英¹、篠崎 将貴¹、岡安 寛明¹、柿本 慎太郎²、志水 太郎²、下田 和孝¹¹獨協医科大学精神神経医学講座、²獨協医科大学総合診療医学講座



10:50～11:50 一般演題（口演）6
認知症

司会：澁谷 謙 日本海総合病院

1-06-1 考案可視を認めたレビー小体型認知症（DLB）の一例

○森岡 大智、小林 良太、林 博史、鈴木 昭仁、大谷 浩一
山形大学医学部精神医学講座

1-06-2 認知症における抑うつと妄想の発現や悪化に関連する臨床的因子の検討

○本田 和揮¹、福原 竜治¹、石川 智久¹、遊亀 誠二¹、田中 響¹、宮川 雄介¹、小山 明日香²、
日高 洋介²、佐久田 静²、今井 正城^{2,3}、竹林 実^{1,2}
¹熊本大学医学部附属病院神経精神科、²熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座、
³医療法人再生会くまもと心療病院

1-06-3 NDB オープンデータを用いた本邦での抗認知症薬の処方実態調査

○近藤 忠之¹、酒匂 赤人²、樋口 早子²、草西 俊¹、伊藤 寿彦¹、榎本 哲郎¹、吉村 健佑³、
柳内 秀勝²、早川 達郎¹
¹国立国際医療研究センター国府台病院精神科、²国立国際医療研究センター国府台病院総合内科、
³千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター

1-06-4 アロマセラピーは健常高齢者の認知機能改善に効果があるのか？－ランダム化比較試験(RCT)による検証－

○宗 未来^{1,2}、小杉 良子²、新生 暁子³、小田木 友依²、腰 みさき²、橋本 空⁴、関沢 洋一⁵、
小西 海香²、田渕 肇²、三村 将²
¹東京歯科大学市川総合病院精神科、²慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、³順天堂大学スポーツ健康科学部、
⁴ユナイテッド・ヘルスコミュニケーション株式会社、⁵独立行政法人経済産業研究所

1-06-5 <演題取り下げ>

12:00～13:00 一般演題（口演）8
老年期精神障害

司会：小林 直人 医療法人湖山荘あずま通りクリニック

1-08-1 高齢者における問題解決型/回避型ストレスコーピングと海馬微小部位の体積との関連：Arakawa 65+ Study

○喜田 恒¹、中島 振一郎¹、色本 涼¹、越智 涼²、野田 賀大¹、津川 幸子¹、藤井 進也²、高山 緑³、
三村 将¹、新村 秀人¹
¹慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、²慶應義塾大学環境情報学部、³慶應義塾大学理工学部

1-08-2 <演題取り下げ>

1-08-3 高齢の身体表現性障害患者における脳血流の変化

○戸田 亘¹、松本 純弥¹、石井 士朗²、板垣 俊太郎^{1,3}、大谷 晃司^{4,5}、青木 俊太郎^{1,5}、三浦 至¹、
志賀 哲也¹、松本 貴智¹、菅原 茂耕²、山國 遼²、箱崎 元晴²、渡邊 宏剛²、矢吹 省司⁴、
二階堂 琢也⁴、渡邊 和之⁴、加藤 欽志⁴、小林 洋⁴、伊藤 浩²、紺野 慎一⁴、矢部 博興¹
¹福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、²福島県立医科大学医学部放射線医学講座、
³福島県立医科大学事務局大学健康管理センター、⁴福島県立医科大学医学部整形外科講座、
⁵福島県立医科大学医療人育成・支援センター

1-08-4 訪問嚙下内視鏡から見た地域の認知症嚙下障害の実態○松岡 秀樹^{1,2}、木村 翔一¹、内田 直樹^{1,2}、浦島 創¹、川崎 弘詔²¹医療法人すずらん会たろうクリニック、²福岡大学医学部精神医学教室**1-08-5 高齢者にみられる幻の同居人妄想 -認知症鑑別診断時に症状を認めた16例の検討-**

○深津 孝英、兼本 浩祐

愛知医科大学病院

13:30~14:30 一般演題（口演）10**てんかん**

司会：篠崎 和弘 浅香山病院臨床研究研修センター

1-010-1 めまい主訴の側頭葉てんかん1症例○清水 謙祐^{1,2}、中村 雄²、湯地 俊子²、東野 哲也²、石田 康³、吉田 建世¹¹医療法人建悠会吉田病院精神科、²宮崎大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室、³国立大学法人宮崎大学医学部附属病院**1-010-2 100 countdown と緊急脳波検査で精神症状と鑑別できた非けいれん性てんかん重積の1例**○澤井 大和¹、中井 三春¹、谷口 豪¹、南 倫¹、岡村 由美子¹、秋田 萌²、眞崎 桂²、近藤 伸介¹、笠井 清登¹¹東京大学医学部附属病院精神神経科、²東京大学医学部附属病院検査部**1-010-3 うつ病が背景にあり、側頭葉てんかん症状が見逃されていた高齢女性：症例報告**

○神谷 拓、三崎 真寛、上野 幹二、大森 一郎、小坂 浩隆

福井大学医学部精神医学

1-010-4 高齢発症てんかんの25症例○久保田 修司¹、三國 雅彦²、三上 昭廣²¹函館渡辺病院附属ゆのかわメンタルクリニック、²函館渡辺病院**1-010-5 てんかん患者とその家族を対象とした集団精神療法の有用性に関する研究**○倉持 泉¹、大賀 公子²、小林 清香¹、宮脇 優子¹、石原 智樹³、荒瀧 千絵子¹、佐々木 剛¹、栗原 瑛大¹、畠田 順一¹、和氣 大成¹、森田 美穂^{1,2}、梅村 智樹¹、志賀 浪 貴文¹、安田 貴昭¹、吉益 晴夫¹¹埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック、²埼玉医科大学総合医療センター看護部、³埼玉医科大学総合医療センター薬剤部**14:40~15:40 一般演題（口演）12****児童・思春期・発達障害1**

司会：星野 仁彦 公益財団法人星総合病院星ヶ丘病院、福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻

1-012-1 児童心理治療施設での児童精神科医の役割 -症例を通じて-

○近藤 強

チヨダクリニック精神科、児童精神科

1-012-2 <演題取り下げ>**1-012-3 <演題取り下げ>**



1-012-4

ADHD による衝動制御障害が症状を増悪させた肢端紅痛症の一例

○落合 晴香、後藤 大介、浅野 太志、鈴木 二妙香、後藤 将之、板垣 俊太郎、三浦 至、
矢部 博興

福島県立医科大学神経精神医学講座

15:50~16:50

一般演題（口演）14

児童・思春期・発達障害 2

司会：太田 豊作 奈良県立医科大学精神医学講座

1-014-1

<演題取り下げ>

1-014-2

成人期における注意欠如・多動症と自閉スペクトラム症の関連について -成人 ADHD 検査および AQ-J を用いて-

○倉田 孝一

社会医療法人財団松原愛育会松原病院医療部

1-014-3

著しい「道順障害」を呈した ADHD にアトモキセチンが奏効した 1 例

○沖村 宰^{1,2}、池田 杏実³

¹医療法人社団碧水会長谷川病院精神科、²慶應義塾大学医学部精神神経科、

³医療法人社団碧水会長谷川病院心理療科

1-014-4

顕著な被害妄想を呈し統合失調症と自閉症スペクトラム症の鑑別に苦慮した一例

○佐藤 雄紀

医療福祉センター倉吉病院

1-014-5

神経発達の生活臨床の試み -いかにして自閉スペクトラム症者の生活は社会と噛み合うようになっていくのか-

○米田 衆介¹、青山 陽子¹、江村 康³、古川 はるこ²

¹明神下診療所、²東京慈恵会医科大学附属柏病院、³帝京大学精神科

9月28日(月) J会場

10:40~12:40 シンポジウム 5
精神科薬物療法の出口戦略に資する実践マニュアル

司会：三島 和夫 秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座
稲田 健 東京女子医科大学医学部精神医学講座

S5-1 統合失調症における抗精神病薬の出口戦略

○稲田 健
東京女子医科大学医学部精神医学講座

S5-2 うつ病寛解後、治療終了にむけて知っておきたいこと

○加藤 正樹
関西医科大学附属病院

S5-3 抗不安薬の出口戦略に資する実践マニュアル

○大坪 天平
東京女子医科大学東医療センター精神科

S5-4 睡眠薬

○高江洲 義和
杏林大学精神神経科学教室

S5-5 寛解後に ADHD 治療薬を継続するか中止するか：患者との共同意思決定のための出口戦略ガイドライン

○岡田 俊¹、辻井 農亜²、宇佐美 政英³、藤田 純一⁴、根来 秀樹⁵、桑原 秀徳⁶、飯田 順三⁷、
齊藤 卓弥⁸

¹国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部、²近畿大学医学部精神神経科学教室、

³国立国際医療研究センター国府台病院子どものこころ総合診療センター、⁴横浜市立大学附属病院児童精神科、

⁵奈良教育大学教職大学院教職開発講座、⁶医療法人せのがわ瀬野川病院、⁷奈良県立医科大学看護学科、

⁸北海道大学大学院医学研究科児童思春期精神医学講座

〈コーディネーター〉 三島 和夫 秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座
稲田 健 東京女子医科大学医学部精神医学講座

13:30~15:30 シンポジウム 15
認知症非専門医のための認知症診療の基本

司会：馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック
水上 勝義 筑波大学大学院人間総合科学研究科

S15-1 改定版長谷川式簡易知能スケールと MMSE をどう活用するか

○谷向 知
愛媛大学大学院医学系研究科地域健康システム看護学講座老年・精神地域包括ケア学

S15-2 認知症診断に役立つ画像診断の基本

○川勝 忍
福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座

S15-3 とときどき遭遇する認知症

○新井 哲明
筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学



S15-4 認知症非専門医のための認知症診療の基本

○馬場 元
順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック

S15-5 パーキンソン症状を伴う認知機能障害

○頼高 朝子
順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院脳神経内科

〈コーディネーター〉 馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック
水上 勝義 筑波大学大学院人間総合科学研究科

15:50～17:50 シンポジウム 24
日伊精神保健医療福祉の到達点と今後の展望

司会：上島 雅彦 竹田綜合病院
青木 勉 綜合病院国保旭中央病院

S24-1 東京ソテリアにおけるボローニャとの交流事業概要

○塚本 さやか
特定非営利活動法人東京ソテリア

S24-2 フランコ・バザーリア 精神医学と哲学のあいだ 過去から現在へ

○栗原 和美
特定非営利活動法人東京ソテリア

S24-3 日伊精神保健医療福祉の到達点と今後の展望 -保健センターを軸にした地域精神保健の展開

○安保 寛明
山形県立保健医療大学

S24-4 日伊精神保健医療福祉の到達点と今後の展望 -REMS の実践と司法精神医療制度のあり方から見えるもの

○三品 竜浩
法務省仙台保護観察所

S24-5 〔指定発言〕

○青木 勉
綜合病院国保旭中央病院

〈コーディネーター〉 上島 雅彦 竹田綜合病院精神科

9月28日(月) K会場

10:40~12:40 シンポジウム 6
てんかん専門精神科医の現在・これから

司会：谷口 豪 東京大学医学部附属病院精神神経科
宮島 美穂 東京医科歯科大学医学部附属病院

S6-1 精神科でてんかんを専門とするキャリア形成について～開業医の立場から～

○原 恵子
原クリニック精神科

S6-2 てんかんと睡眠 両者の専門医から生まれる視点

○高木 俊輔
東京医科歯科大学精神科

S6-3 精神科てんかん診療の現状と可能性

○藤岡 真生¹、中野 仁²
¹東京大学医学部附属病院精神神経科、²市ヶ尾病院神経内科

S6-4 てんかん患者とその家族を対象とした集団精神療法の実践を通して

○倉持 泉
埼玉医科大学総合医療センター

S6-5 精神科単科病院に勤務するてんかん専門医の実情

○児玉 智博、島崎 正次
久喜すずのき病院精神科

S6-6 【指定発言】

○渡辺 雅子
新宿神経クリニック

〈コーディネーター〉 谷口 豪 東京大学医学部附属病院精神神経科
宮島 美穂 東京医科歯科大学医学部附属病院

13:30~15:30 シンポジウム 16
日常診療・こんなときどうしたらいい？

司会：窪田 幸久 中央公園クリニック
渡辺 雅子 新宿神経クリニック精神科

S16-1 抗うつ薬への反応が不十分な場合にどうすればよいのか？

○香月 あすか、堀 輝、吉村 玲児
産業医科大学病院精神医学教室

S16-2 日常診療・こんなときどうしたらいい？～てんかん患者さんが挙児希望されたら～

○原 恵子
原クリニック精神科

S16-3 LAIをめぐる対話 -臨床的リカバリーとパーソナルリカバリー双方の実現を目指して-

○渡邊 真里子
ちはやACTクリニック



S16-4

アルコール依存症を疑ったら

○安川 節子

熊本ファミリーメンタルクリニック

〈コーディネーター〉

渡辺 雅子

新宿神経クリニック精神科

安川 節子

くまもとファミリーメンタルクリニック

15:50～17:50

シンポジウム 25

統合失調症とはどういうことか

司会：村井 俊哉

京都大学医学部附属病院

S25-1

『統合失調症』とは何か 精神病理学的視点から

○古茶 大樹

聖マリアンナ医科大学神経精神科

S25-2

「共感」の人類学：当事者科学としての精神医学に向けて

○北中 淳子

慶應義塾大学文学部

S25-3

統合失調症：文化精神医学からの一視点

○江口 重幸

東京武蔵野病院精神神経科

S25-4

生物学的精神医学はどこまで Kraepelin の夢に迫れたのだろうか

○糸川 昌成

東京都医学総合研究所病院等連携研究センター

S25-5

【指定発言】

○村井 俊哉

京都大学医学部附属病院

〈コーディネーター〉

糸川 昌成

東京都医学総合研究所病院等連携研究センター

村井 俊哉

京都大学医学部附属病院

9月28日(月) L会場

8:30~10:30 **委員会シンポジウム 1** (精神医療・保健福祉システム委員会)
措置入院制度を見直す -告知の視点から-司会：角藤 芳久 宮城県立精神医療センター
太田 順一郎 岡山市こころの健康センターCS1-1 **措置入院者の退院後支援と本人同意**○藤井 千代
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部CS1-2 **措置入院の告知を巡る諸問題～患者、指定医、行政、司法の認識のズレに注目して～**○椎名 明大
千葉大学社会精神保健教育研究センターCS1-3 **措置入院における告知の意義と現状の問題点**○姜 文江
法律事務所ヴェントCS1-4 **措置入院に関する説明と理解**○浅見 隆康
群馬大学健康支援総合センター昭和健康支援室CS1-5 **〔指定発言〕**○根本 康
さいたま市立病院〈コーディネーター〉 浅見 隆康 群馬大学健康支援総合センター昭和健康支援室
太田 順一郎 岡山市こころの健康センター10:40~12:40 **シンポジウム 7**
精神科医のための臨床脳画像「読影入門」-各論編-司会：曾根 大地 University College London Institute of Neurology
根本 清貴 筑波大学附属病院S7-1 **画像診断のための脳マクロ解剖学**○曾根 大地
University College London Institute of NeurologyS7-2 **頭部 CT の読み方：画像の成り立ちから読影まで**○木村 有喜男
国立精神・神経医療研究センター病院放射線科S7-3 **MR 拡散強調画像の読み方と診断に役立つ所見**○佐藤 典子
国立精神・神経医療研究センター病院S7-4 **認知症の画像診断**○松田 博史
国立精神・神経医療研究センター〈コーディネーター〉 曾根 大地 University College London Institute of Neurology
根本 清貴 筑波大学附属病院
松田 博史 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター



シンポジウム 17

取り下げ

15:50～17:50 委員会シンポジウム 12（精神保健福祉法委員会） 精神科入院におけるアドボケイト制度に求められるもの

司会：太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
岡崎 伸郎 独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

CS12-1 精神保健福祉法委員会が考える権利擁護者（アドボケイト）制度

○佐竹 直子
国立精神・神経医療研究センター病院

CS12-2 精神保健当番弁護士の実践から

○田瀬 憲夫
福岡県弁護士会

CS12-3 精神科入院におけるセルフアドボカシーと第三者によるアドボケイト

○彼谷 哲志
認定NPO大阪精神医療人権センター

CS12-4 イングランドにおけるアドボケイト制度の運用と今後の展望

○赤沼 のぞみ
South London & Maudsley NHS Trust Psychosis CAG

〈コーディネーター〉 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
大石 賢吾 千葉大学医学部附属病院精神神経科

9月28日(月) M会場

委員会シンポジウム 2
取り下げ11:00~13:00 **シンポジウム 8**
現代精神医学に病因論はありえるか？ -疾患、特質（特性）、生活史（物語）司会：豊嶋 良一 フリーランス
古茶 大樹 聖マリアンナ医科大学神経精神科**S8-1 内因性概念は最近の臨床現場にはもう必要なくなったのか？**○須賀 英道
龍谷大学短期大学部**S8-2 病因論からみる DSM-5 と ICD-11**○針間 博彦
東京都立松沢病院**S8-3 病因論とマクヒュー/スラヴニーの『現代精神医学』**○榊原 英輔
東京大学医学部附属病院精神神経科**S8-4 臨床的有用性の観点から精神医学における「病因」を考える**○太田 敏男
社会医療法人財団石心会さやま総合クリニック精神科**S8-5 【指定発言】**○古茶 大樹
聖マリアンナ医科大学神経精神科〈コーディネーター〉 須賀 英道 龍谷大学短期大学部
豊嶋 良一 フリーランス13:30~15:30 **シンポジウム 18**
緊張病症候群と身体～生物学的基盤・合併する身体疾患・治療法～司会：船山 道隆 足利赤十字病院
是木 明宏 独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター**S18-1 救急、ICU における緊張病症候群：致死性緊張病は現在でも存在するか？**○石田 琢人
東京都立墨東病院救命救急センター**S18-2 統合失調症の緊張病症候群に伴う身体合併症への治療戦略**○船山 道隆
足利赤十字病院精神神経科部長**S18-3 緊張病症候群の実臨床**○高田 武人、船山 道隆
足利赤十字病院



S18-4

緊張病症状候群の生物学的基盤

○黒瀬 心

慶応義塾大学医学部精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 船山 道隆 足利赤十字病院

15:50~17:50

シンポジウム 26

アカデミアからフロンティアを目指した rTMS 臨床研究の挑戦

司会：野田 賀大

慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

鬼頭 伸輔

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院/東京慈恵会医科大学附属病院

S26-1

日本発の最先端ニューロモデュレーション研究を目指して

○野田 賀大

慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

S26-2

精神神経疾患への rTMS 研究

○鬼頭 伸輔^{1,2}

¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院、²東京慈恵会医科大学精神医学講座

S26-3

和歌県医科学附属病院における rTMS 臨床研究の現状と課題

○高橋 隼

和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室

S26-4

反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS) の大学導入への取り組みと運動閾値に影響する因子の検討

○池田 俊一郎、吉村 匡史、嶽北 佳輝、北浦 祐一、青木 宣篤、南 翔太、桂 功士、佃 万里、木下 利彦

関西医科大学精神神経科学教室

S26-5

佐賀大学病院における rTMS 臨床研究の現状と課題

○立石 洋¹、門司 晃²

¹佐賀大学医学部附属病院精神神経科、²佐賀大学医学部精神医学講座

〈コーディネーター〉 野田 賀大

慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

鬼頭 伸輔

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院/東京慈恵会医科大学附属病院

9月28日(月) N会場

シンポジウム 2
取り下げ10:40~12:40 **シンポジウム 9**
精神疾患・神経疾患におけるニューロモジュレーション治療への期待と課題司会：松尾 幸治 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
竹林 実 熊本大学医学部附属病院神経精神科**S9-1 精神科治療における rTMS の現状と課題**○野田 賀大
慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室**S9-2 精神科疾患に対する経頭蓋直流電気刺激の効果と展望：国立精神・神経医療研究センターでの検討**○住吉 太幹¹、山田 悠至²、稲川 拓磨²、横井 優磨²、中込 和幸²、成田 瑞³¹国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部、
²国立精神・神経医療研究センター病院、³ジョンズ・ホプキンス公衆衛生大学院**S9-3 てんかんに対する迷走神経刺激療法の開発経緯と現状**○川合 謙介
自治医科大学**S9-4 不随意運動症に対する脳深部刺激術**○杉山 憲嗣^{1,2}、野崎 孝雄¹、難波 宏樹¹
¹浜松医科大学脳神経外科、²豊田えいせい病院脳神経外科

〈コーディネーター〉 松尾 幸治 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

13:30~15:30 **シンポジウム 19**
フロイト、ユング、森田の人間観とその精神療法が目指すもの司会：北西 憲二 北西クリニック、森田療法研究所
新村 秀人 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室**S19-1 精神療法が目指す人間観を明らかにするには**○田所 重紀
室蘭工業大学保健管理センター**S19-2 フロイトの人間観：晩年の「死の欲動」の創出とその源泉にみる精神分析の目指すもの**○加藤 隆弘
九州大学大学院医学研究院精神病態医学**S19-3 C.G.ユングの人間観 -断念とかなしみの視点から**○林 公輔
学習院大学文学部心理学科**S19-4 森田正馬の人間観：我を離れて、我を発揮する**○新村 秀人
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 新村 秀人 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室



15:50～17:50 シンポジウム 27

強度行動障害の医療と福祉・教育をつなぐ

司会：會田 千重 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター精神科
市川 宏伸 日本発達障害ネットワーク

S27-1 専門病棟での他機関との連携と、強度行動障害医療メーリングリストについて

○會田 千重
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター精神科

S27-2 精神科病棟における強度行動障害医療を実践するコツ

○山下 健
独立行政法人国立病院機構榊原病院

S27-3 専門施設から強度行動障害全般に対して考えること

○成田 秀幸
国立重度知的障害者総合施設のぞみの園診療部

S27-4 【指定発言】

○井上 雅彦
鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座

S27-5 【指定発言】

○田渕 賀裕^{1,2}
¹東日本少年矯正医療・教育センター、²医療法人社団翠会成増厚生病院

S27-6 【指定発言】

○片桐 公彦
厚生労働省

〈コーディネーター〉 會田 千重 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター精神科
市川 宏伸 日本発達障害ネットワーク

9月28日(月) O会場

ワークショップ2
取り下げ**10:40~12:40 シンポジウム 10**
自治体による寄附講座による児童青年期精神科プログラムの意義

司会：齊藤 卓弥 北海道大学大学病院児童思春期精神医学研究部門
 今村 明 北海道大学大学病院児童思春期精神医学研究部門/長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部

S10-1 長野県と信州大学との提携による「発達障がい診療人材育成事業」

○本田 秀夫
 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室

S10-2 高知県における児童青年期精神科医療体制の整備

○高橋 秀俊
 高知大学医学部児童青年期精神医学（寄附講座）

S10-3 長崎県における児童精神科医育成システム

○今村 明¹、金替 伸治¹、山本 直毅^{1,2}、松坂 雄亮²、小澤 寛樹^{1,2}
¹長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部、²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経学

S10-4 札幌市における児童精神科医療の再構築と児童精神科医養成プログラムの開発

○齊藤 卓弥
 北海道大学大学病院児童思春期精神医学研究部門

〈コーディネーター〉 齊藤 卓弥 北海道大学大学病院児童思春期精神医学研究部門

13:30~15:30 シンポジウム 20
統合失調症薬物治療ガイドラインの普及：SDM を用いた利活用への期待

司会：稲田 健 東京女子医科大学病院
 古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座

S20-1 統合失調症薬物治療ガイドライン改訂版の概要

○橋本 亮太
 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾病病態研究部

S20-2
○相沢 隆司
YPS横浜ピアスタッフ協会**S20-3**
○藤井 哲也
YPS横浜ピアスタッフ協会**S20-4**
○加藤 玲
東京都新宿区精神障害者家族会「新宿フレンズ」



S20-5 支援者としての立場から（薬剤師）

○永井 努^{1,2}

¹昭和大学薬学部病院薬剤学講座、²昭和大学附属烏山病院薬局

S20-6 〔指定発言〕

○松井 佑樹

医療法人明心会仁大病院

S20-7 〔指定発言〕

○尾崎 紀夫

精神医学・精神生物学・発達老年精神医学・親と子どもの心療学・精神医療学

〈コーディネーター〉 染矢 俊幸 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学
古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座

15:50～17:50 シンポジウム 28
ポジティブ精神医学の活用 医療から教育分野への応用へ

司会：三村 将 慶應義塾大学精神神経科学教室
佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル

S28-1 ポジティブと未来思考～脳機能画像を中心に～

○菊地 俊暁

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S28-2 自殺防止と自然体験による自己像の変化

○徳永 雄一郎

不知火病院精神科

S28-3 ジュニアアスリートのこころの健康教育

○関崎 亮^{1,2,3}

¹東邦大学医療センター大森病院、²桐生第一高等学校、³株式会社 Welome to talk

S28-4 ポジティブ心理学・精神医学の教育領域への応用

○島井 哲志

関西福祉科学大学

S28-5 〔指定発言〕

○大野 裕

認知行動療法研修開発センター

〈コーディネーター〉 佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル
大野 裕 認知行動療法研修開発センター
須賀 英道 龍谷大学短期大学部

9月28日(月) P会場

ワークショップ3
取り下げ**11:00~13:00 シンポジウム11**
難治性疼痛 -身体部位別にみた対応の差と共通点-司会：宮岡 等 北里大学病院精神神経科
白井 千恵 順天堂大学医学部附属練馬病院**S11-1 難治性疼痛 -口腔領域の疼痛-**○宮地 英雄
北里大学健康管理センター健康管理センター**S11-2 慢性腰痛の精神医学的問題**○西原 真理
愛知医科大学病院**S11-3 慢性疼痛に対する集団認知行動療法 -身体部位別にみた対応の差と共通点-**○吉野 敦雄、岡本 泰昌
広島大学大学院医系科学研究科精神神経医科学**S11-4 リウマチ性疾患における個人の疼痛の自覚（痛みの感受性）**○村松 公美子
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科〈コーディネーター〉 宮岡 等 北里大学病院精神神経科
宮地 英雄 北里大学健康管理センター**13:30~15:30 委員会シンポジウム6（ECT・rTMS等検討委員会）**
精神医療におけるECTの役割司会：水野 雅文 東邦大学医学部精神神経医学講座
福田 正人 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学**CS6-1 急性期医療の治療計画におけるECTの役割**○奥田 純平
社会医療法人北斗会さわ病院**CS6-2 ECT治療後の再発をどのようにしたら防げるのか？**○竹林 実
熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座**CS6-3 ECTにおける多職種との連携**○奥村 正紀
医療法人社団八葉会大石記念病院



CS6-4

精神科地域連携における ECT の役割

○野田 隆政^{1,2}

¹国立精神・神経医療研究センター病院第一精神診療部、

²国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター臨床脳画像研究部臨床光画像研究室

〈コーディネーター〉 野田 隆政

国立精神・神経医療研究センター病院精神科/国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター臨床脳画像研究部臨床光画像研究室

15:50～17:50

シンポジウム 29

気質とメンタルヘルス

司会：井上 猛
寺尾 岳

東京医科大学病院
大分大学医学部精神神経医学講座

S29-1

主観的社会的地位と気質

○井上 猛

東京医科大学精神医学分野

S29-2

虐待と気質の気分障害に与える影響

○戸田 裕之、斎藤 拓、吉野 相英

防衛医科大学校病院精神科学講座

S29-3

就労者の職業性ストレスと気質の関連について

○出口 裕彦

大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

S29-4

気質と双極性障害

○河野 健太郎、石井 啓義、寺尾 岳

大分大学医学部精神神経医学講座

〈コーディネーター〉 寺尾 岳
井上 猛

大分大学医学部精神神経医学講座
東京医科大学病院

9月28日(月) Q会場

8:30~10:10 ワークショップ4 (ICD-11 委員会)
ICD-11 を適切に使うための知識

司会：秋山 剛 NTT東日本関東病院
丸田 敏雅 聖徳大学保健センター

- WS4 〈講演者〉 松本 ちひろ 日本精神神経学会
近藤 伸介 東京大学医学部附属病院
本村 啓介 肥前精神医療センター
有馬 秀晃 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野
- 〈コーディネーター〉 丸田 敏雅 聖徳大学保健センター
秋山 剛 NTT東日本関東病院
松本 ちひろ 日本精神神経学会

10:40~12:40 シンポジウム12
今、求められている精神科医の認知症医療への参画

司会：池田 学 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室
前田 潔 神戸学院大学総合リハビリテーション学部

S12-1 わが国の認知症施策の現状と課題

○栗田 圭一
東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム

S12-2 熊本県における認知症高齢者地域包括的ケアの実践

○石川 智久
熊本大学病院神経精神科

S12-3 神戸市における「認知症神戸モデル」への精神科行政医師の参画

○長谷川 典子
神戸市保健福祉局高齢福祉部

S12-4 若年性認知症支援における精神科医の役割

○内海 久美子
砂川市立病院

S12-5 認知症初期集中支援チームにおける精神科医の役割

○池田 学
大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

〈コーディネーター〉 池田 学 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

13:30~15:30 シンポジウム21
主体性(Agency)の精神医学におけるトランスレーショナルリサーチ：ニューラルネットワークの統合的理解

司会：前田 貴記 慶應義塾大学医学部精神神経科
山田 光彦 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S21-1 主体性(Agency)の精神医学：自己意識の実証的研究のための方法論

○前田 貴記
慶應義塾大学医学部精神神経科



S21-2 動物モデルを用いて運動主体感のメカニズムに迫る

○山田 光彦¹、古家 宏樹¹、三輪 秀樹¹、中武 優子^{1,2}、寺尾 真実^{1,3}、澤 幸祐^{1,3}

¹国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部、²東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室、

³専修大学人間科学部心理学科

S21-3 脳の計算理論を用いて運動主体感異常の病態メカニズムに迫る

○山下 祐一

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第七部

S21-4 バーチャルリアリティによる運動主体感のメカニズムの理解と認知リハビリテーションへの応用

○鈴木 啓介^{1,2}

¹サセックス大学サックラー意識科学研究センター、²サセックス大学情報学科

S21-5 【指定発言】

○村井 俊哉

京都大学医学部附属病院

〈コーディネーター〉 前田 貴記 慶應義塾大学医学部精神神経科
山下 祐一 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
山田 光彦 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

15:50～17:50 シンポジウム 30

Mismatch negativity (MMN) : 統合失調症バイオマーカー

司会：住吉 太幹 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
鬼塚 俊明 九州大学病院

S30-1 早期精神病研究における MMN の役割

○樋口 悠子^{1,2}、立野 貴大¹、中島 英¹、高橋 努¹、水上 祐子¹、西山 志満子^{1,3}、住吉 太幹²、鈴木 道雄¹

¹富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、

³富山大学学術研究部教育系保健管理センター

S30-2 統合失調症における MMN

○荒木 剛、切原 賢治、永井 達哉、多田 真理子、臼井 香、藤岡 真生、越山 太輔、笠井 清登
東京大学医学部附属病院精神神経科

S30-3 精神薬理・遺伝学的観点からみる統合失調症とミスマッチ陰性電位

○志賀 哲也、落合 晴香、星野 大、堀越 翔、菅野 和子、大島 洋和、三浦 至、松岡 貴志、矢部 博興

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

〈コーディネーター〉 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
住吉 太幹 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

9月28日(月) R会場

8:30~10:10 ワークショップ5(男女共同参画推進委員会)
様々な場所で働く女性精神科医の仕事を知ろう司会: 加茂 登志子 若松町こころとひふのクリニック
安川 節子 熊本ファミリーメンタルクリニックWS5 <講演者> 布施 泰子 茨城大学保健管理センター
林 みづ穂 仙台市精神保健福祉総合センター
内田 淳子 有限責任監査法人トーマツ
田崎 みどり 横浜市児童相談所

<コーディネーター> 安川 節子 熊本ファミリーメンタルクリニック
加茂 登志子 若松町こころとひふのクリニック
布施 泰子 茨城大学保健管理センター10:40~12:40 シンポジウム13
個別化精神医療確立に向けたバイオバンク整備の展望司会: 富田 博秋 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野/東北大学東北メディカル・メガバンク機構
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

S13-1 東北メディカル・メガバンク機構バイオバンクの現状と展望

○峯岸 直子
東北大学東北メディカル・メガバンク機構/東北メディカル・メガバンク計画研究グループ

S13-2 抑うつ状態を呈する妊産婦の個別化精神医療実現を目指した前向きコホート研究

○尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

S13-3 精神科ゲノム学とバイオバンク

○池田 匡志
藤田医科大学医学部精神神経科学

S13-4 バイオバンク情報への機械学習の導入

○高橋 雄太^{1,2}、植木 優夫²、田宮 元²、富田 博秋^{1,2}
¹東北大学病院精神科、²東北メディカル・メガバンク機構

S13-5 東北メディカル・メガバンク事業と個別化精神医療

○富田 博秋^{1,2}、東北メディカル・メガバンク計画 研究グループ²
¹東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、²東北大学東北メディカル・メガバンク機構

<コーディネーター> 富田 博秋 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野/東北大学東北メディカル・メガバンク機構



13:30～15:30 シンポジウム 22

事例で理解する複雑性 PTSD 治療の流れ -実臨床に明日から役立つリソース-

司会：松本 俊彦 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
植村 太郎 独立行政法人労働者健康安全機構神戸労災病院

S22-1 症例で読み解くホログラフィトークの複雑性 PTSD に対するアプローチ

○嶺 輝子
アースシー・ヒーリング・セラピー

S22-2 【複雑性 PTSD 患者の外來臨床】#構造的解離 #段階的治療 #心の傷を癒やすリソース #USPT

○新谷 宏伸^{1,2}
¹本庄児玉病院、²USPT研究会

S22-3 複雑性 PTSD の治療にも期待される眼を使う心理療法「ブレインスポッティング」

○鈴木 孝信
東京多摩ネット心理相談室

S22-4 事例で理解する複雑性 PTSD に対するスキーマ療法の臨床実践

○伊藤 絵美
洗足ストレスコーピング・サポートオフィス

〈コーディネーター〉 新谷 宏伸 本庄児玉病院・USPT研究会
松本 俊彦 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
黒木 俊秀 九州大学大学院人間環境学研究院臨床心理学講座

シンポジウム 31

取り下げ

9月28日(月) ポスター会場

一般演題(ポスター) 1

統合失調症 1

1-P1-1

統合失調症罹患状態一致一卵性双生児家系の全エクソーム解析および症例・対照研究

○渡部 雄一郎¹、保谷 智史¹、布川 綾子^{1,2}、澁谷 雅子^{1,2}、井桁 裕文¹、森川 亮¹、染矢 俊幸¹¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²南浜病院

1-P1-2

統合失調症罹患同胞対・両親の全エクソームシーケンスおよび SPATA7 遺伝子リシーケンスと関連解析

○井桁 裕文¹、渡部 雄一郎¹、森川 亮¹、池田 匡志²、大塚 郁夫³、保谷 智史¹、小泉 暢大栄¹、
江川 純¹、菱本 明豊³、岩田 伸生²、染矢 俊幸¹¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²藤田医科大学医学部精神神経科学、³神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

1-P1-3

不随意運動を呈した患者を含む統合失調症に対する、NPC1 および NPC2 遺伝子の検索

○藤井 久彌子^{1,2}、前川 正充³、衛藤 義勝⁴、齋藤 尚大⁵、篠崎 将貴²、有銘 預世布⁶、永島 隆秀^{7,8}、
岡安 寛明²、下田 和孝²、尾関 祐二¹¹滋賀医科大学精神医学講座、²獨協医科大学精神神経医学講座、³東北大学病院薬剤部、⁴(財) 脳神経疾患研究所附属先端医療研究センター&遺伝病治療研究所、⁵医療法人カメラ横濱カメラホスピタル、⁶獨協医科大学先端医科学統合研究施設先端医科学研究センター認知・記憶研究部門、⁷足利赤十字病院脳神経内科、⁸獨協医科大学内科学(脳神経)講座

1-P1-4

新規クロザピン結合タンパク質の探索 - α/β チューブリンに対する相互作用○國井 泰人^{1,2}、日野 瑞城²、近藤 豪³、和田 明²、松本 純弥²、丹羽 真一¹、瀬藤 光利³、矢部 博興¹¹福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座、²福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、³浜松医科大学医学部細胞分子解剖学講座

1-P1-5

統合失調症脳病態における脂質シグナル伝達の意義 -死後脳研究

○國井 泰人^{1,2}、松本 純弥²、泉 竜太²、長岡 敦子²、日野 瑞城²、赤津 裕康^{3,4}、橋詰 良夫⁴、
齊ノ内 信⁵、柿田 明美⁵¹福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座、²福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、³名古屋市立大学大学院医学研究科地域医療教育学、⁴医療法人さわらび会福祉村病院長寿医学研究所、⁵新潟大学脳研究所病態神経科学部門病理学分野

一般演題(ポスター) 2

統合失調症 2

1-P2-1

Ultra High Risk 者を対象とした精神病発症予測因子の検討: 睡眠関連パラメータとサイトカインの計測

○北村 真吾¹、盛本 翼⁴、岸本 直子⁴、田形 弘実²、根本 隆洋²、樋口 悠子³、大島 勇人⁵、
加藤 隆郎⁵、三島 和夫⁸、石間 環⁶、橋本 謙二⁶、大西 隆⁹、松本 佑⁷、桂 雅宏⁷、富田 博秋⁷、
内村 直尚⁵、鈴木 道雄³、水野 雅文²、岸本 年史⁴、住吉 太幹¹、中込 和幸¹¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、²東邦大学医療センター大森病院、³富山大学附属病院、⁴奈良県立医科大学精神医療センター、⁵久留米大学病院精神神経科、⁶千葉大学社会精神保健教育研究センター、⁷東北大学病院、⁸秋田大学医学部附属病院、⁹ヤンセンファーマ株式会社

1-P2-2

統合失調症多発罹患家系のエクソーム解析

○保谷 智史¹、布川 綾子^{1,2}、渡部 雄一郎¹、金子 尚史²、村竹 辰之³、染矢 俊幸¹¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²医療法人恵生会南浜病院、³古町心療クリニック

1-P2-3

日本人における統合失調症患者・両親トリオ 32 家系の全エクソーム解析

○森川 亮、Arta Kurniawan Reza、保谷 智史、渡部 雄一郎、井桁 裕文、染矢 俊幸

新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野



1-P2-4 <演題取り下げ>

1-P2-5 緊張型統合失調症の病相期間と治療

○長沼 英俊
雁の巣病院医療部

一般演題（ポスター）3
統合失調症 3

1-P3-1 治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン単独療法からクロザピン+電気けいれん療法併用への移行

○西村 淳、橋本 学、中原 辰雄、陣門 洋平、亀田 香奈子、松口 和憲、吉永 一郎、石津 良子、
織部 直弥、森松 友佳子、久我 政利、岩永 英之、上野 雄文、橋本 喜次郎
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

1-P3-2 白血球低値を示すクロザピン投与患者に対するセファランチンの有効性に関する検討

○佐藤 優真^{1,2}、菊池 結花²
¹能代厚生医療センター、²秋田大学医学部付属病院

1-P3-3 EGUIDE プロジェクトによる退院時処方への効果～クロザピン治療と Quality Indicator との関係に着目して～

○橋本 亮太^{1,6}、長谷川 尚美¹、安田 由華^{1,2}、山本 智也³、渡邊 衡一郎⁴、稲田 健⁵
¹国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、
²医療法人フォスター生きた・育む・輝くメンタルクリニック、³大阪大学医学部附属病院薬剤部、
⁴杏林大学医学部精神神経科学教室、⁵東京女子医科大学医学部精神医学講座、
⁶大阪大学大学院・医学系研究科精神医学教室

1-P3-4 統合失調症患者における抗精神病薬多剤併用と生活習慣病リスクとの関連

○須貝 拓朗¹、鈴木 雄太郎¹、山崎 學²、下田 和孝³、森 隆夫²、尾関 祐二⁴、松田 ひろし²、
菅原 典夫³、古郡 規雄³、岡本 呉賦²、寒河江 豊昭⁵、染矢 俊幸¹
¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²公益社団法人日本精神科病院協会、
³獨協医科大学精神神経医学講座、⁴滋賀医科大学精神医学講座、⁵山形県立米沢栄養大学

1-P3-5 統合失調症患者を対象とした抗精神病薬の再入院リスク：医療情報データベースを用いたコホート研究

○嶽北 佳輝¹、井上 幸恵²、馬場 健次³、野坂 忠史³
¹関西医科大学精神神経科、²クレコンメディカルアセスメント株式会社、
³大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部

一般演題（ポスター）4
気分障害 1

1-P4-1 リチウム中毒の要因による治療予後の比較検討

村川 徹¹、○祖川 倫太郎²、飛田 修康²、木村 早希子²、田崎 正信²、阪本 雄一郎³、入江 裕之⁴、
門司 晃¹
¹佐賀大学医学部精神医学講座、²佐賀大学医学部附属病院薬剤部、³佐賀大学医学部救急医学講座、
⁴佐賀大学医学部放射線医学講座

1-P4-2 抑うつエピソードを伴う双極Ⅰ型障害患者を対象としたルラシドンの第3相試験の日本人データの解析

○加藤 忠史¹、石郷岡 純²、宮島 真理³、渡部 恵³、増田 孝裕³、樋口 輝彦^{4,5}
¹順天堂大学医学部附属病院精神医学教室、²CNS薬理研究所、³大日本住友製薬株式会社、⁴日本うつ病センター、
⁵国立精神・神経医療研究センター

- 1-P4-3 男性うつ病患者における血清 estradiol 値と重症度との関連
○常山 暢人¹、鈴木 雄太郎^{1,2}、有波 浩¹、田尻 美寿々¹、染矢 俊幸¹
¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²医療法人敬愛会末広橋病院

- 1-P4-4 うつ病治療反応性と血清 IGF-1 値との関連
○有波 浩¹、鈴木 雄太郎^{1,2}、田尻 美寿々¹、常山 暢人¹、染矢 俊幸¹
¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²医療法人敬愛会末広橋病院

- 1-P4-5 <演題取り下げ>

一般演題（ポスター）5

疫学 1・その他

- 1-P5-1 escitalopram が著効した皮膚むしり症の 1 例
○林 真紀¹、土岐 茂²、小山田 孝裕¹
¹特定医療法人大慈会三原病院、²医療法人あさだ会第2心療クリニックコモリエ
- 1-P5-2 精神科外来における便秘症に関する研究
○山田 浩樹¹、大野 泰裕¹、石井 弘毅^{1,2}、石川 文徳²、佐藤 諒太郎²、中村 善文²、鎌田 行識¹、
戸坂 由香里¹、富岡 大¹、高塩 理²、野崎 伸次¹、稲本 淳子¹、岩波 明¹
¹昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、²昭和大学附属烏山病院
- 1-P5-3 プロナセリン経皮吸収型製剤の発汗を伴う運動条件下における耐用性
○萩野谷 真人
医療法人圭愛会日立梅ヶ丘病院精神神経科
- 1-P5-4 精神神経疾患と 25 ヒドロキシビタミン D との関連に関する後向き観察研究
○松島 淳、門司 晃
佐賀大学医学部附属病院精神神経科
- 1-P5-5 低 Na 血症の原因として、鉍質コルチコイド反応性低 Na 血症(MRHE)の診断で加療。良い転帰を得た高齢女性の 1 例
○石井 寛邦、王丸 輝夫、内村 直尚
久留米大学病院精神神経科

一般演題（ポスター）6

認知症 1

- 1-P6-1 MCI および軽度アルツハイマー型認知症における認知機能障害の特徴～包括的テストバッテリーを用いた検討
○姚 璐、青山 慎介、大内 淳、曾良 一郎
神戸大学医学部付属病院
- 1-P6-2 <演題取り下げ>
- 1-P6-3 認知症におけるベントン視覚記憶検査と脳血流の相関解析
○河内 崇¹、清水 敬二²、高橋 年道¹、桑田 美子¹、大谷 恭平¹、宮井 宏之¹、福島 春子¹、
山本 泰司^{1,3}、菅 剛⁴、石蔵 礼一⁴、松石 邦隆¹
¹神戸市立医療センター中央市民病院精神・神経科、²神戸市立医療センター中央市民病院放射線技術部、
³国立大学法人神戸大学保健管理センター、⁴神戸市立医療センター中央市民病院放射線診断科



1-P6-4

入院中の認知症患者における薬物療法の状況調査

○中井 文香^{1,2}、富岡 大^{1,2,3}、小金丸 泰史^{1,2}、白井 将博^{1,2}、太田 佐保子^{1,2}、近江 真季^{1,2}、
鎌田 行識^{1,2}、青木 祐香里^{1,2}、戸坂 由香里^{1,2}、米良 健輔^{1,2}、大山 芳子^{1,2}、杉田 秀太郎^{1,2}、
沖野 和磨^{1,2}、種田 百合子²、嘉部 匡朗⁴、大野 実里⁴、島田 ひかる⁵、佐藤 啓⁵、佐藤 裕一²、
岩波 明¹、稲本 淳子^{1,2}

¹昭和大学医学部精神医学講座、²昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、³昭和大学藤が丘病院精神神経科、
⁴昭和大学横浜市北部病院リハビリテーション室、⁵昭和大学横浜市北部病院看護部

1-P6-5

認知症補助診断としての日本語版ボケット嗅覚識別テスト (UPSIT-J) の有用性の検討 その 3

○小路 純央^{1,2}、森田 喜一郎^{1,3}、柳本 寛子²、山下 裕之^{1,2}、加藤 雄輔^{1,2}、吉本 幸治^{1,2}、佐藤 守^{1,2}、
内村 直尚^{1,2}

¹久留米大学高次脳疾患研究所、²久留米大学病院精神神経科、³特定医療法人社団相和会中村病院

一般演題（ポスター）7 認知症 2

1-P7-1

レビー小体型認知症に対し、少量のプレクスピラゾールが奏功した 1 例

○加藤 真二郎、伊藤 偉織、今村 洋史
医療法人有俊会いまむら病院

1-P7-2

クエチアピン単剤化により精神症状と運動症状が改善したハンチントン病による認知症の 1 例

○宮下 真子¹、渡部 雄一郎¹、本郷 祥子²、小池 直人²、佐治 越爾²、深石 翔²、三上 剛明¹、
小野寺 理¹、染矢 俊幸¹

¹新潟大学医歯学総合病院精神科、²新潟大学医歯学総合病院脳神経内科

1-P7-3

<演題取り下げ>

1-P7-4

リバステグミンの投与後に Balint 症候群とともに脳血流の改善を認めた変性性認知症の一例

○坂口 俊史¹、宮川 雄介¹、菅原 裕子²、田中 響¹、石川 智久¹、福原 竜治¹、朴 秀賢²、竹林 実^{1,2}
¹熊本大学医学部附属病院神経精神科、²熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

1-P7-5

<演題取り下げ>

一般演題（ポスター）8 脳器質性・症状性精神障害 1

1-P8-1

抗うつ薬治療中に非けいれん性てんかん発作重積状態および通過症候群としての軽躁を呈した 40 歳代男性の一例

○長岡 大樹^{1,2}、谷口 豪^{1,3}、庄司 瑛武¹、近藤 伸介¹、笠井 清登¹

¹東京大学医学部附属病院精神神経科、²東京武蔵野病院、³国立精神神経研究センター

1-P8-2

Parkinson's disease psychosis に伴うカタトニアに電気けいれん療法が有効であった 2 例

○長尾 達憲、寒川 尚登、石川 亮、増田 慶一、板垣 圭、和田 健
広島市立広島市民病院精神科

1-P8-3

単回の痙攣発作を呈した後、統合失調症様の精神症状から医療保護入院となった抗 NMDA 受容体脳炎の 1 例

○岩倉 容子¹、山下 博栄¹、藤田 和樹²、島津 智一²、北村 英二³、飯塚 高浩³、西山 和利³、
丸木 努¹、丸木 雄一²

¹社会福祉法人シナプス埼玉精神神経センター精神科、²社会福祉法人シナプス埼玉精神神経センター脳神経内科、
³北里大学医学部脳神経内科学

1-P8-4 <演題取り下げ>

1-P8-5 抗 HIV 療法開始後に急激に増悪した HIV 関連神経認知障害(HAND)に対してバルプロ酸ナトリウムが奏功した一例

○山崎 千佳、西村 康平、森脇 久視、茨木 丈博
神奈川県立精神医療センター精神科

一般演題（ポスター）9

脳器質性・症状性精神障害 2

1-P9-1 精神症状を伴った抗自律神経節アセチルコリン受容体抗体脳症の 1 例

○樋口 悠子¹、林 智宏²、高橋 努¹、鈴木 道雄¹
¹富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、²富山大学附属病院脳神経内科

1-P9-2 マダニ刺傷による重症熱性血小板減少症候群の経過中に、多彩な神経症状を呈し認知機能低下が残存した 1 例

○有馬 和志¹、石王 覚¹、室津 和男¹、兼子 幸一²
¹松江赤十字病院精神神経科、²鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

1-P9-3 <演題取り下げ>

1-P9-4 同一家系における同一遺伝子変異により生じた驚愕病の検討

○林田 麻衣子¹、松田 泰行¹、長濱 道治¹、橋岡 禎征¹、和氣 玲¹、宮岡 剛²、稲垣 正俊¹、竹谷 健³
¹島根大学医学部精神医学講座、²医療法人青葉会松江青葉病院、³島根大学医学部附属病院

一般演題（ポスター）10

脳器質性症状性精神障害 3

1-P10-1 SLE 精神病に対して blonanserin 貼付剤を使用した一例

○関谷 竜彦、橋本 祐希、高久 奈津美、高野 学、岡田 岡田、小林 聡幸、須田 史朗
自治医科大学附属病院

1-P10-2 統合失調症の治療経過中に器質性緊張病性障害を来した一例

○赤間 孝洋、三浦 至、後藤 大介、泉 竜太、木村 聡、森 湧平、落合 晴香、矢部 博興
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

1-P10-3 脊髄小脳変性症に罹患し 10 年後に精神病症状を呈した一例

○岩田 遼、稲川 拓磨、野田 隆政、池澤 聡、佐竹 直子、宇佐美 貴士、河野 正晴、日吉 史一、
榎田 嵩子、廣瀬 正義、庄司 昂、中込 和幸
国立精神神経医療研究センター病院第一精神診療部

1-P10-4 不随意発声に SSRI が著効した前頭側頭型認知症の 1 例

○須藤 真紀、白木 乃江瑠、高橋 卓巳、新井 哲明
筑波大学精神神経科

1-P10-5 両肺生体移植後に幻覚妄想が遷延した一例

○酒井 慎太郎、岩永 健、松坂 雄亮、中野 健、木下 裕久、今村 明、小澤 寛樹
長崎大学病院精神科神経科



一般演題（ポスター）11

児童・思春期・発達障害1・その他

- 1-P11-1 東日本大震災に被災した高校生における心理的苦痛と生活習慣要因の関連性**
○奥山 純子^{1,2}、船越 俊一³、小野部 純⁴、出江 紳一¹
¹東北大学病院、²指定国立大災害科学世界トップレベル研究拠点、³宮城県立精神医療センター、⁴東北文化学園大学医療福祉学部
- 1-P11-2 自閉スペクトラム症を持つ子どもの親のストレスに与える要因の検討**
○森本 佳奈¹、ポーター 倫子^{2,3}、ラブランド キャサリン³
¹京都市児童福祉センター児童精神科、²ワシントン州立大学人間発達学科、³テキサス医科大学精神発達と行動科学学科
- 1-P11-3 精神病罹病危険状態（At Risk Mental State：ARMS）における酸化ストレス状態の把握と客観的指標の開発**
○和氣 玲^{1,2}、荒木 智子¹、福島 美千代⁴、松田 泰行¹、稲垣 卓司³、林田 麻衣子¹、橋岡 禎征¹、堀口 淳⁴、宮岡 剛^{1,5}、大西 新^{4,6}、稲垣 正俊¹
¹島根大学医学部精神医学講座、²島根大学人間科学部、³島根大学教育学部学校教育課程初等教育開発講座、⁴島根大学医学部免疫精神神経学共同研究講座、⁵医療法人青葉会松江青葉病院、⁶株式会社RESVO
- 1-P11-4 性同一性障害の思春期症例での性ホルモン療法について～ガイドラインの治療要件の妥当性は？**
○森 昭憲
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター児童精神科
- 1-P11-5 令和元年台風15号、19号災害への茨城DPAT支援活動ー支援・受援ジレンマ**
○太刀川 弘和^{1,4}、高橋 晶^{1,4}、根本 清貴²、田口 高也^{1,4}、佐々木 恵美³、堀 孝文⁴、新井 哲明²
¹筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学、²筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学、³茨城県精神保健福祉センター、⁴茨城県立こころの医療センター

一般演題（ポスター）12

児童・思春期・発達障害2

- 1-P12-1 <演題取り下げ>**
- 1-P12-2 公立単科精神病院で児童青年精神科ユニットの開棟にむけて、考え方と目標と準備と工程の検討**
○幸田 有史、石川 千明、山下 俊幸
京都府立洛南病院精神科
- 1-P12-3 アトモセチンが著効した選択性緘黙を呈する思春期ADHDの一例**
○林 大祐、平林 直次
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
- 1-P12-4 自閉スペクトラム症に統合失調症が併発した思春期の1例**
○細川 里瑛^{1,2}、河邊 憲太郎^{1,2}、高山 由華子¹、舟橋 裕¹、久門 啓志¹、尾崎 優樹¹、清水 秀明¹、上野 修一¹
¹愛媛大学医学部付属病院精神科、²愛媛大学医学部附属病院子どものこころセンター
- 1-P12-5 非定型的な症状を呈したトラウマ治療症例のケースシリーズ**
○杉本 篤言^{1,2}、吉永 清宏²、林 剛丞²、江川 純³、細木 俊宏²、染矢 俊幸³
¹新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座、²新潟県立精神医療センター精神科、³新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

一般演題（ポスター）13

薬物療法 1

1-P13-1 <演題取り下げ>

1-P13-2 ラモトリギンに関連した汎血球減少を伴う薬疹型偽リンパ腫を呈した双極Ⅱ型障害の1例

○深石 翔、横山 裕一、三上 剛明、渡部 雄一郎、染矢 俊幸
新潟大学医歯学総合病院

1-P13-3 ブレクスピプラゾールが著効した双極Ⅱ型障害の7例

○四宮 雅博、四宮 滋子、鈴木 聡彦
医療法人社団順真会しのみやクリニック

1-P13-4 オランザピン投与が脳波の徐波化を伴う意識障害を遷延させたベンゾジアゼピン離脱せん妄の1例

○東 隼也¹、高橋 隼¹、奥平 和也¹、小瀬 朝海²、辻 富基美¹、鵜飼 聡¹
¹和歌山県立医科大学神経精神医学教室、²和歌山県立こころの医療センター

1-P13-5 千葉県精神科医療センターにおける刺激性下剤削減に対する取り組み

○河岸 嶺将、花岡 晋平、大越 友美、成宮 雪子、中田 正浩、西郷 弘子、竹中 敦子、
菊池 夏希、西田 幸子、深見 悟郎
千葉県精神科医療センター精神科

一般演題（ポスター）14

薬物療法 2

1-P14-1 併存疾患を有する児童・青年期 ADHD 患者に対する薬物療法の有効性と安全性：システムティックレビュー

○納谷 憲幸¹、辻 敏永¹、三嶋 宏和¹、木口 亮²、藤原 正和²、飯田 順三³
¹塩野義製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、²塩野義製薬株式会社解析センター、
³奈良県立医科大学医学部看護学科

1-P14-2 成人 ADHD 患者の病型別に対するグアンファシンの有効性と安全性：第三相プラセボ対照試験の事後解析

○酒井 千賀¹、納谷 憲幸¹、辻 敏永¹、奥津 大樹²、木口 亮³、藤原 正和³、岩波 明⁴
¹塩野義製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、²塩野義製薬株式会社臨床開発部、
³塩野義製薬株式会社解析センター、⁴昭和大学医学部精神医学講座

1-P14-3 統合失調症治療における brexpiprazole への切り換えの有用性の検討

○一瀬 瑞絵^{1,2}、三浦 至²、鈴木 二妙香²、後藤 将之²、浅野 太志²、山本 慎之助^{2,5}、伊藤 雅史^{2,4}、
堀越 翔³、金子 春香^{1,2}、山本 ちひろ⁶、渡辺 研弥⁶、野崎 啓子²、矢部 博興²
¹公益財団法人星総合病院星ヶ丘病院、²福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、
³医療法人ほりこし心身クリニック、⁴福島県立矢吹病院、⁵福島赤十字病院、⁶福島県立医科大学附属病院薬剤部

1-P14-4 急性期統合失調症における brexpiprazole の有効性についての検討

○山本 慎之助^{1,3}、三浦 至²、浅野 太志²、一瀬 瑞絵³、堀越 翔²、金子 春香³、伊藤 雅史⁴、
渡辺 研弥²、山本 ちひろ²、野崎 啓子²、矢部 博興²
¹福島赤十字病院、²福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、³公益財団法人星総合病院星ヶ丘病院、
⁴福島県立矢吹病院

1-P14-5 双極性障害患者に対する抗うつ薬の処方実態と患者プロフィール

○徳満 敬大¹、古郡 規雄¹、吉村 玲児²、加藤 正樹³、中川 敦夫⁴、菊地 俊暁^{4,5}、坪井 貴嗣⁵、
足立 直人⁶、窪田 幸久⁶、阿瀬川 孝治⁶、上田 均⁶、枝川 浩二⁶、勝元 榮一⁶、後藤 英一郎⁶、
本郷 誠司⁶、下田 和孝¹、渡邊 衡一郎⁵
¹獨協医科大学病院、²産業医科大学病院、³関西医科大学附属病院、⁴慶應義塾大学病院、⁵杏林大学医学部付属病院、
⁶日本精神神経科診療所協会



一般演題（ポスター）15

神経画像

- 1-P15-1 Multi-atlas segmentation を用いた自動解析(T-Proto)と FreeSurfer の海馬体積測定における方法間信頼性検証**
○山崎 龍一、小高 文聰、内海 智博、舞草 伯秀、繁田 雅弘
東京慈恵会医科大学精神医学講座
- 1-P15-2 深層学習を使った精神疾患脳構造画像の特徴量抽出**
○山口 博行^{1,2}、橋本 侑樹¹、杉原 玄一³、宮田 淳⁴、村井 俊哉⁴、高橋 英彦³、本田 学¹、山下 祐一¹
¹国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第七部、²横浜市立大学医学部精神医学教室、
³東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学、⁴京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座
- 1-P15-3 軽度認知障害から認知症への移行におけるうつ病とアミロイドベータの関連**
○山本 憲、坂寄 健、荒川 亮介、舘野 周、大久保 善朗
日本医科大学付属病院精神神経科
- 1-P15-4 地域在住の高齢者における来世信念と脳形態画像解析結果の関連**
○今村 義臣^{1,2}、溝口 義人¹、門司 晃¹
¹佐賀大学医学部精神医学講座、²久留米大学比較文化研究所
- 1-P15-5 大脳白質の軸索の髄鞘化、大脳白質の成熟と、認知機能・社会機能の指標である労働時間との関連**
○松本 純弥¹、福永 雅喜²、根本 清貴³、越山 太輔⁴、三浦 健一郎¹、岡田 直大^{4,5}、森田 健太郎^{4,6}、
山森 英長^{1,7,9}、安田 由華^{1,8}、藤本 美智子^{1,9}、工藤 紀子¹、笠井 清登^{4,5}、渡邊 嘉之¹⁰、橋本 亮太^{1,9}
¹国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、²生理学研究所心理生理学研究部門、
³筑波大学人間総合科学研究科医学医療系精神医学、⁴東京大学大学院医学系研究科精神医学、
⁵東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構、
⁶東京大学医学部附属病院リハビリテーション部、⁷独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院、
⁸医療法人フォスター生きる・育む・輝くメンタルクリニック、⁹大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、
¹⁰大阪大学大学院医学系研究科放射線医学教室

9月29日(火) A会場

8:30~9:30 教育講演 7

司会：沼田 吉彦 公益財団法人星総合病院星ヶ丘病院

EL7

精神障害の労災認定評価や労災医療の動向～特に産業精神保健の動向を含めて～

○黒木 宣夫^{1,2}¹勝田台メディカルクリニック、²東邦大学医療センター佐倉病院精神神経医学研究室

9:40~10:40 特別講演 4

同時通訳(E↔J)

司会：武田 雅俊 学校法人河崎学園大阪河崎リハビリテーション大学

SL4

New diagnostic models of gender identity, sexual orientation, and atypical sexual behaviour in the ICD-11 : Implications for psychiatric practice

○Geoffrey M. Reed

Department of Mental Health and Substance Abuse, World Health Organization



受賞報告会

11:10~12:10

1. 精神医学奨励賞

University College London, Institute of Neurology, UK 曾根 大地

2. 国際学会発表賞

・個人発表部門

昭和大学発達障害医療研究所 青木 悠太
 独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター 綾仁 信貴
 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター 入来 晃久
 千葉大学医学部附属病院精神神経科 大石 賢吾
 University College London, Institute of Neurology, UK 曾根 大地

・シンポジウム組織発表部門

奈良県立医科大学精神医学講座 紀本 創兵
 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 野田 賀大

3. フォリア賞

司会：順天堂大学医学部附属病院精神医学教室

加藤 忠史

東京都立大学大学院人文科学研究科言語科学教室 矢田 康人



4. PCN Reviewer Awards

大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科臨床支援系領域	石井 良平
関西医科大学精神神経科学教室	池田 俊一郎
九州大学大学院医学研究院精神病態医学	加藤 隆弘
国立精神・神経医療センター精神保健研究所知的・発達障害研究部	岡田 俊
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部	住吉 太幹
和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室	高橋 隼

12:30～13:30 **先達に聴く**

司会：堀口 淳 島根大学医学部精神医学講座

先達に聴く **精神科医 Hans Berger の生涯と脳波の発見**

○山口 成良
社会医療法人財団松原愛育会松原病院 名誉院長



13:40～15:40 **シンポジウム 50**

主治医・産業医としての精神疾患患者の両立支援（＝治療＋就労）をめぐる

司会：神山 昭男 医療法人社団桜メデイスン産業保健サポートセンター
奥山 真司 トヨタ自動車株式会社統括産業医

S50-1 行政からの提案と検討課題

○神山 昭男
医療法人社団桜メデイスン産業保健サポートセンター

S50-2 嘱託産業医の立場から

○田中 和秀
医療法人ひつじクリニック

S50-3 精神科主治医の立場から

○高野 知樹
医療法人社団弘富会神田東クリニック

S50-4 精神障害者の働き続けるを支える

○金塚 たかし
大阪精神障害者就労支援ネットワーク

S50-5 〔指定発言〕

○渡辺 洋一郎
日本CHRコンサルティング株式会社

S50-6 〔指定発言〕

○小山 文彦
東邦大学医療センター産業精神保健職場復帰支援センター

〈コーディネーター〉 紫藤 昌彦 紫藤クリニック精神科
高野 知樹 神田東クリニック

16:00～18:00 **委員会シンポジウム 19**（精神保健に関する委員会）
働き方改革と労働者のメンタルヘルス

司会：吉村 玲児 産業医科大学病院
渡辺 洋一郎 横山・渡辺クリニック

CS19-1 平成 30 年度における精神障害の労災補償の現状

○荒井 稔
日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院

CS19-2 働き方改革における生産性向上～日本企業における人間関係の視点から～

○渡辺 洋一郎
医療法人メディカルメンタルケア横山・渡辺クリニック

CS19-3 精神障害者への就労支援

○井上 幸紀
大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

CS19-4 過労自殺の予防について

○生越 照幸
弁護士法人ライフパートナー法律事務所

〈コーディネーター〉 渡辺 洋一郎 横山・渡辺クリニック
吉村 玲児 産業医科大学病院



9月29日(火) B会場

8:30~10:30

委員会シンポジウム 13 (PCN 編集委員会) アカデミアによるわが国発の精神神経領域の新たな治療薬開発

司会：加藤 忠史 順天堂大学医学部附属病院精神医学教室
山末 英典 浜松医科大学精神医学講座

CS13-1 ビリドキサミンを用いた統合失調症の治療薬開発

○糸川 昌成
東京都医学総合研究所病院等連携研究センター

CS13-2 球脊髄性筋萎縮症に対する疾患修飾療法の開発

○勝野 雅央
名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学

CS13-3 R-ケタミンは画期的な抗うつ薬になるか？

○橋本 謙二
千葉大学

CS13-4 自閉スペクトラム症中核症状治療薬としてのオキシトシン経鼻剤の開発

○山末 英典
浜松医科大学精神科

〈コーディネーター〉 山末 英典 浜松医科大学精神医学講座
加藤 忠史 順天堂大学医学部附属病院精神医学教室
神庭 重信 日本うつ病センター

10:40~12:40

シンポジウム 42

児童相談所に精神科医師はどんな協力ができるか -児童福祉法一部改正による児童相談所の医師配置に対して-

司会：中山 浩 川崎市こども家庭センター
境 玲子 川崎市こども家庭センター/小児療育相談センター

S42-1 児童相談所を知り、つながろう

○境 玲子
川崎市こども家庭センター

S42-2 精神科医が不足している地域で児童相談所と子どものメンタルケアに関わるということ

○森 昭憲
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター児童精神科

S42-3 児童相談所の常勤医師の必要性

○田崎 みどり^{1,2}
¹横浜市中央児童相談所、²筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学

S42-4 児童相談所における精神科、児童精神科医師の役割と得られる技能

○中山 浩
川崎市こども家庭センター

S42-5 【指定発言】

○金井 剛
三重県立子ども心身発達医療センター

〈コーディネーター〉 中山 浩 川崎市こども家庭センター

13:40～14:40 **教育講演 9**

司会：相澤 明憲 特定医療法人佐藤会弓削病院

EL9

認知症高齢者の意思決定支援

○三村 将
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室



14:50～15:50 **教育講演 10**

司会：山内 俊雄 埼玉医科大学

EL10

脳波 -これから学ぶ人のために

○渡辺 雅子
新宿神経クリニック精神科



16:00～17:00 **教育講演 11**

司会：仙波 純一 たかつきクリニック

EL11

臨床研究の倫理と利益相反

○神山 圭介
慶應義塾大学病院臨床研究監理センター



教育講演 12

取り下げ



9月29日(火) C会場

8:30~10:30

シンポジウム 32

精神科分野における経頭蓋直流刺激(tDCS)の実用性と今後の展望 -本邦における tDCS 臨床研究の進捗

司会：住吉 太幹 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部
西田 圭一郎 在フランス日本国大使館/関西医科大学附属病院

S32-1 気分障害と統合失調症における両側前頭部の経頭蓋直流刺激(tDCS)による電界シミュレーション値の検討

○高橋 隼^{1,2}

¹和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室、²Department of Psychiatry and Psychotherapy, University Hospital, LMU Munich

S32-2 国立精神・神経医療研究センターにおける経頭蓋直流電気刺激研究の進捗と展望

○山田 悠至¹、稲川 拓磨²、成田 瑞³、横井 優磨⁴、住吉 太幹⁵

¹国立精神・神経医療研究センター病院第二精神診療部、²国立精神・神経医療研究センター病院第一精神診療部、

³ジョンズホプキンス医学系大学院精神行動医学分野、

⁴独立行政法人医薬品医療機器総合機構新薬審査第三部審査専門員、

⁵国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

S32-3 タスクスイッチ課題遂行中のうつ病患者への前頭前野経頭蓋直流電気刺激(tDCS)の効果の検討

○南 翔太¹、越川 陽介¹、西田 圭一郎¹、吉村 匡史¹、石井 良平³、森島 陽介⁴、山根 倫也²、木下 利彦¹

¹関西医大総合医療センター精神神経学講座、²関西大学大学院心理学研究科、

³大阪府立大学総合リハビリテーション学研究科、⁴ベルン大学精神科病院・トランスレーショナルリサーチセンター

S32-4 tDCS による注意機能の増強には内因性ドパミンの放出が関連する -PET を用いた研究

○廣澤 徹、深井 美奈、亀谷 仁郁、相馬 大輝、湯浅 慧吾、菊知 充

金沢大学医学部附属病院精神科

S32-5 【指定発言】

○小坂 浩隆

福井大学医学部附属病院

〈コーディネーター〉 住吉 太幹 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部
菊知 充 金沢大学附属病院神経科精神科

10:40~12:20

ワークショップ 10

〈脳波の応用コース〉脳波検査とその解釈 脳波検査をどう臨床にいかしていくのか

司会：山内 俊雄 埼玉医科大学
太田 克也 医療法人明柳会恩田第二病院院長

WS10 〈講演者〉 太田 克也 医療法人明柳会恩田第二病院院長
原 恵子 原クリニック
渡邊 さつき 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
高木 俊輔 東京医科歯科大学医学部附属病院

〈コーディネーター〉 太田 克也 医療法人明柳会恩田第二病院院長
矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

13:40～15:40 シンポジウム 51

精神医学は心の医学か、脳の医学か？ -精神医学の哲学から切り込む心身問題

司会：村井 俊哉 京都大学大学院医学研究科精神医学教室

S51-1 心因性という概念について

○植野 仙経

京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室

S51-2 脳の医学と心の医学精神医学の実践二元論

○榊原 英輔

東京大学医学部附属病院精神神経科

S51-3 心身問題と精神医学の多元性

○鈴木 貴之

東京大学大学院総合文化研究科

S51-4 精神医学は人間の行動生態に関する医学である

○田所 重紀

室蘭工業大学保健管理センター

S51-5 心身問題と心の病

○信原 幸弘

元東京大学

〈コーディネーター〉 榊原 英輔 東京大学医学部附属病院

16:00～18:00 シンポジウム 60

全国の精神保健福祉センターにおける自殺対策の取り組み

司会：太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
大塚 耕太郎 岩手医科大学附属病院

S60-1 保健所が実施する「企業向け自殺予防メンタルヘルス出前講座」の実践と効果～講演後のアンケート調査から～

○原田 豊

鳥取県立精神保健福祉センター

S60-2 浜松市における在住外国人自殺対策

○二宮 貴至

浜松市精神保健福祉センター

S60-3 新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大の市民のメンタルヘルスへの影響 -川崎市こころの健康意識調査をもとに-

○竹島 正¹、山内 貴史²、廣田 菜津子¹、橋本 貢河³¹川崎市健康福祉局障害保健福祉部精神保健福祉センター、²東京慈恵会医科大学医学部環境保健医学講座、³川崎市健康福祉局障害保健福祉部精神保健課

S60-4 全国の自死遺族支援グループの現状～主に分かち合いの会を中心に・令和元年度全国調査より～

○白川 教人¹、二宮 貴至²、田中 治³、辻本 哲士⁴¹横浜市こころの健康相談センター、²浜松市精神保健福祉センター、³青森県立精神保健福祉センター、⁴滋賀県精神保健福祉センター

S60-5 札幌市におけるゲートキーパー養成研修について

○鎌田 隼輔

札幌市精神保健福祉センター札幌市保健福祉局障がい保健福祉部



S60-6

自死遺族支援グループとの関わり

○波床 将材

京都市こころの健康増進センター

〈コーディネーター〉 田中 治 青森県立精神保健福祉センター
太田 順一郎 岡山市こころの健康センター

9月29日(火) D会場

8:30~10:30

シンポジウム 33

自閉スペクトラム症者へのヒューマノイドロボット研究の今後の展望

司会：村松 太郎 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
松本 吉央 産業技術総合研究所人間拡張センター

S33-1

自閉スペクトラム症者へのヒューマノイドロボット介入の潜在性

○熊崎 博一

国立精神神経医療研究センター精神保健研究所児童予防精神医学研究部児童・青年期精神保健研究室

S33-2

ヒューマノイドロボットを用いた治療の実用化に向けて今工学者が取り組むべきこと

○吉川 雄一郎¹、熊崎 博一³、松本 吉央³、宮尾 益知⁴、上原 悠輝¹、島谷 二郎¹、石黒 浩^{1,2}¹大阪大学大学院基礎工学研究科、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、³産業技術総合研究所、⁴どんぐりクリニック

S33-3

「空気を読む」ことの情報処理と情報機器による支援

○寺田 和憲

岐阜大学

S33-4

未来のひきこもり支援におけるヒューマノイドロボットの活用

○加藤 隆弘

九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S33-5

精神疾患患者へのロボット治療の展望：今後の発展のため医師及び工学者の果たすべき役割

○宮尾 益知¹、松本 吉央²¹どんぐり発達クリニック、²産業技術総合研究所人間拡張センター

S33-6

〔指定発言〕

○中村 元昭

昭和大学発達障害医療研究所

S33-7

〔指定発言〕

○今井 倫太

慶應義塾大学理工学部

S33-8

〔指定発言〕

○小嶋 秀樹

東北大学大学院教育学研究科教育学部

〈コーディネーター〉 熊崎 博一 国立精神神経医療研究センター精神保健研究所児童予防精神医学研究部児童・青年期精神保健研究室
加藤 隆弘 九州大学医学部精神科神経科
吉川 雄一郎 大阪大学大学院基礎工学研究科

10:40~12:40

委員会シンポジウム 14 (オンライン精神科医療検討作業班)

精神科領域におけるオンライン診療：保険診療 3 年目の現状と課題

司会：米田 博 大阪医科大学
吉村 健佑 千葉大学

CS14-1

遠隔・オンライン診療を取り巻く政策動向 -新型コロナウイルス感染症対策を見据えて-

○吉村 健佑

千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター/千葉県新型コロナウイルス対策本部



CS14-2 精神科オンライン診療から見える臨床風景

○小椋 哲
医療法人瑞枝会クリニック心療内科・精神科

CS14-3 遠隔医療、そしてオンライン診療の展望

○長尾 喜一郎
医療法人長尾会ねや川サナトリウム

CS14-4 オンライン診療、中央評価、遠隔モニタリング：種々の遠隔医療の今後の展開

○岸本 泰士郎
慶應義塾大学精神・神経科学教室

〈コーディネーター〉 岸本 泰士郎 慶應義塾大学精神・神経科学教室
米田 博 大阪医科大学
稲垣 中 青山学院大学

13:40～15:40 シンポジウム 52

わが国における大規模調査からわかる双極性障害治療におけるヒント

司会：渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
上田 均 もりおか心のクリニック

S52-1 MUSUBI 研究の概要

○窪田 幸久
中央公園クリニック精神科

S52-2 双極性障害外来患者における自殺性（suicidality）リスク因子

○中川 敦夫^{1,2}、菊地 俊暁²、古郡 規雄³、吉村 玲児⁴、加藤 正樹⁵、坪井 貴嗣⁶、近野 祐介⁴、
菅原 典夫³、足立 直人⁷、窪田 幸久⁷、阿瀬川 孝治⁷、上田 均⁷、枝川 浩二⁷、勝元 榮一⁷、
後藤 英一郎⁷、本郷 誠司⁷、渡邊 衡一郎⁶

¹慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教育研修部門、²慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、
³獨協医科大学精神神経医学講座、⁴産業医科大学医学部精神医学教室、⁵関西医科大学精神神経科学講座、
⁶杏林大学医学部精神神経科学教室、⁷日本精神神経科診療所協会

S52-3 双極性障害外来治療患者の就労状況について -MUSUBI-J 研究より-

○近野 祐介^{1,2}、藤野 善久²、吉村 玲児^{1,8}、菊地 俊暁^{3,8}、中川 敦夫^{3,8}、古郡 規雄^{4,8}、加藤 正樹^{5,8}、
坪井 貴嗣⁸、菅原 典夫^{4,8}、足立 直人⁷、窪田 幸久⁷、上田 均⁷、枝川 浩二⁷、勝元 榮一⁷、
阿瀬川 孝治⁷、後藤 英一郎⁷、本郷 誠司⁷、三木 和平⁷、渡邊 衡一郎⁶

¹産業医科大学精神科、²産業医科大学産業生態科学研究環境疫学研究室、³慶應大学医学部精神・神経科学教室、
⁴獨協医科大学精神神経医学講座、⁵関西医科大学精神科、⁶杏林大学医学部精神神経科学教室、
⁷日本精神神経科診療所協会、⁸日本臨床精神神経薬理学会

S52-4 双極性障害外来患者の精神症状と薬物治療費の解析

○足立 直人^{1,2}、阿瀬川 孝治²、上田 均^{2,3}、枝川 浩二²、勝元 榮一^{2,3}、加藤 正樹³、菊地 俊暁³、
窪田 幸久^{2,3}、後藤 英一郎²、坪井 貴嗣³、中川 敦夫³、古郡 規雄³、本郷 誠司²、三木 和平²、
吉村 玲児³、渡邊 衡一郎³

¹武蔵屋足立医院、²日本精神神経科診療所協会、³日本臨床精神神経薬理学会

S52-5 MUSUBI の 3 年転帰の調査結果から

○古郡 規雄^{1,2}、菅原 典夫^{1,2}、加藤 正樹²、吉村 玲児²、中川 敦夫²、坪井 貴嗣²、窪田 幸久²、
足立 直人²、後藤 英一郎²、阿瀬川 孝治²、枝川 浩二²、勝元 榮一²、上田 均²、三木 和平²、
渡邊 衡一郎²、下田 和孝¹

¹獨協医科大学精神神経医学講座、²JSCNP-JANPC抗うつ薬適正使用プロジェクトチーム

〈コーディネーター〉 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

16:00～18:00 **委員会シンポジウム 20（薬事委員会）**
本邦における処方レギュレーションのあり方に関する検討

司会：齊藤 卓弥 北海道大学大学院児童思春期精神医学研究部門
 岸本 泰士郎 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

CS20-1 本邦におけるクロザピン血液モニタリング頻度：2週毎から4週毎に変更できるのか？

○藤井 康男
 山梨県立北病院精神科

CS20-2 飲酒量低減薬ナルメフェンのレギュレーションを考える

○宮田 久嗣
 東京慈恵会医科大学精神医学講座

CS20-3 精神刺激薬の ADHD 治療における日本での流通の安全管理の必要性和世界的な治療選択薬としての位置づけ

○齊藤 卓弥
 北海道大学大学院児童思春期精神医学研究部門

CS20-4 精神神経疾患領域における医薬品の流通管理の目的と課題

○中林 哲夫
 独）医薬品医療機器総合機構研究支援・推進部

〈コーディネーター〉 齊藤 卓弥 北海道大学大学院児童思春期精神医学研究部門
 岸本 泰士郎 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室



9月29日(火) E会場

8:30~10:30

シンポジウム 34

子どもの同意能力と児童精神科臨床

司会：田中 究 兵庫県立ひょうごこころの医療センター
中土井 芳弘 独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター

S34-1

子どもの治療同意能力

○児玉 祥子
東京都石神井学園

S34-2

臨床の葛藤

○田中 哲
子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ

S34-3

精神保健福祉法と子どもの人権

○太田 順一郎
岡山市こころの健康センター

S34-4

子どもの同意能力 法的根拠と親権

○木村 一優
医療法人社団新新会多摩あおば病院精神科

〈コーディネーター〉 木村 一優 医療法人社団新新会多摩あおば病院精神科
田中 究 兵庫県立ひょうごこころの医療センター
太田 順一郎 岡山市こころの健康センター

10:40~12:40

シンポジウム 43

少年法適用年齢引き下げについて考える

司会：高岡 健 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター
田中 容子 府中刑務所

S43-1

少年事件と発達障害

○木村 一優
医療法人社団新新会多摩あおば病院精神科

S43-2

少年法対象年齢引き下げは、非行少年処遇の簡略化・放任化である

○富田 拓
網走刑務所医務課

S43-3

なぜ、今少年法を変える必要があるのか？

○安保 千秋
都大路法律事務所

S43-4

少年矯正施設の役割と機能

○定本 ゆきこ
京都少年鑑別所医務課

〈コーディネーター〉 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
木村 一優 医療法人社団新新会多摩あおば病院
高岡 健 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター

13:40～15:40 **委員会シンポジウム 17（精神療法委員会）**
精神療法の教え方、伝え方

司会：岡野 憲一郎 京都大学大学院教育学研究科
 中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

CS17-1 医療面接から精神療法へ

○高橋 恵
 北里大学北里研究所病院精神科

CS17-2 精神療法の教え方：精神療法的態度の提供

○白波瀬 丈一郎
 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

CS17-3 精神療法の教え方、伝え方の 4 ステップ

○大野 裕
 大野研究所

CS17-4 私の精神療法の学習経験について

○中村 伸一
 中村心理療法研究室

CS17-5 【指定発言】

○水野 雅文
 東邦大学医学部精神神経医学講座

〈コーディネーター〉 中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

16:00～18:00 **シンポジウム 61**
福島のレジリエンス、震災・原発事故からの 10 年を振り返り、これからの 10 年を考える

司会：星野 修三 一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院精神科
 沼田 吉彦 公益財団法人星総合病院星ヶ丘病院

S61-1 大災害における被災者の心のケア～行政の立場から考える～

○遠藤 智子
 福島県保健福祉部障がい福祉課

S61-2 福島の復興従事者の疲弊：とくに自治体職員への支援を考える

○前田 正治^{1,2}、竹林 唯^{1,2}
¹福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座、²福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

S61-3 なごみの活動から考える地域包括ケア

○大川 貴子
 福島県立医科大学

S61-4 東日本大震災から 10 年目を迎えた福島県内の精神科病院の現状と復興の課題

○本田 教一
 財団法人磐城済世会舞子浜病院

S61-5 福島県 DPAT の目指すもの -受援と支援の学びを通して-

○後藤 大介
 公立大学法人福島県立医科大学医学部神経精神医学講座



S61-6

〔指定発言〕

○熊倉 徹雄

公益財団法人金森和心会雲雀ヶ丘病院

〈コーディネーター〉 星野 修三
沼田 吉彦
前田 正治

一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院精神科
公益財団法人星総合病院星ヶ丘病院
福島県立医科大学災害医学講座

9月29日(火) F会場

8:30~10:30 シンポジウム 35
若手リエゾン精神科医による10年後への道標

司会：齋藤 円 市立ひらかた病院精神科
大矢 希 京都府立医科大学大学院研究科精神機能病態学

S35-1 「若手精神科医」による組織のあり方～学会組織としての取り組みを活かす～

○大矢 希^{1,2}¹京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、²認定特定非営利活動法人日本若手精神科医の会 (JYPO)

S35-2 精神科医が妊産婦を診るということ

○須田 哲史

国家公務員共済組合連合会立川病院精神神経科

S35-3 精神症状に困っている人は精神科の門を叩くー器質性精神障害を学ぼうー

○中神 由香子^{1,2}¹京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学教室)、²京都大学環境安全保健機構健康管理部門/附属健康科学センター

S35-4 精神症状/疾患のあるがん患者さんの診療、自信ありますか？

○五十嵐 江美

東北大学病院精神科

S35-5 〔指定発言〕

○清水 研

国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科

〈コーディネーター〉 平山 貴敏 国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科
中神 由香子 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室
大矢 希 京都府立医科大学大学院研究科精神機能病態学

10:40~12:40 Fellowship Award Symposium 3
Mental health and work life balance of psychiatrists

Chairperson : Ai Aoki Department of Health Policy, National Center for Child Health and Development, Japan

FAS3-1 The Landscape of South African Psychiatrists

○Tejil Morar

Psychiatry Registrar at the University of the Witwatersrand, South Africa

FAS3-2 Work-Life Balance of Psychiatrists in the Republic of Georgia : Challenges and Perspectives of Improvement

○Eteri Machavariani

Tbilisi State Medical University, tsmu.edu, Georgia

FAS3-3 A Spanish Challenge to Conquer Mental Health (MH) and Work-Life Wellbeing

○Justo Pinzón Espinosa

Department of Psychiatry and Psychology, Institute of Neuroscience, Hospital Clinic of Barcelona, Spain



FAS3-4 Work-related lifestyles of Japanese psychiatrists : Problems and solutions

○Yuka Oyanagi

Department of Psychiatry Hokkaido University Graduate School of Medicine, Japan

〈Coordinator〉 Toshitaka Ii : Aichi Medical University, Japan

13:40~15:40

Fellowship Award Symposium 4

Case Vignette (Obsessive Compulsive Disorder)

Chairpersons : Hisato Matsunaga
Toshitaka Ii

Department of Neuropsychiatry, Hyogo College of Medicine, Japan
Aichi Medical University, Japan

FAS4-1 Obsessive-compulsive disorder in an adolescent : formulating a comprehensive management plan

○Abhishek Ghosh

Drug De-addiction & Treatment Centre, Department of Psychiatry, Postgraduate Institute of Medical Education & Research, Chandigarh, India

FAS4-2 Family Education and Interventions for a case of drug non-compliance Obsessive Compulsive Disorder

○A S M Morshed

Department of Psychiatry, Dr. Sirajul Islam Medical and Hospital, Dhaka, Bangladesh

FAS4-3 The Greek multidiscipline team approach for patients with OCD

○Theodoros Koutsomitros

2nd department of Psychiatry, Aristotle University of Thessaloniki, Greece

FAS4-4 “Tic-related”, newly introduced specifier in the diagnostic criteria for obsessive compulsive disorder in DSM-5

○Keiichiro Mukai

Department of Neuropsychiatry, Hyogo College of Medicine, Japan

〈Coordinator〉 Toshitaka Ii : Aichi Medical University, Japan

9月29日(火) G会場

13:40～15:20 **ワークショップ 12** (精神保健に関する委員会)
最近の自殺問題の動向と自殺予防医療

司会：河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

WS12 <講演者> 太刀川 弘和 筑波大学
 張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院
 大塚 耕太郎 岩手医科大学
 河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

<コーディネーター> 河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座
 大塚 耕太郎 岩手医科大学



9月29日(火) H会場

8:30~9:30

一般演題(口演) 15

統合失調症 3

司会: 鈴木 健文 山梨大学医学部精神神経医学講座

2-015-1

抗精神病薬不応性の精神病症状に対しミルタザピン単剤治療が奏功した遅発性統合失調症の1例

○石飛 信^{1,2}、長瀬 幸弘¹、長瀬 輝¹

¹高月病院精神科、²医療法人寿栄会有馬高原病院

2-015-2

Noonan 症候群に伴う統合失調症に対しパリペリドンが有用であった一例

○嶋田 修一郎、渡邊 真理子、澤中 政道、丸山 直樹

医療法人崇徳会田宮病院

2-015-3

Paliperidone で錐体外路症状が生じた患者に brexpiprazole を追加投与し症状が緩和した一例

○井上 悟

医療法人静和会浅井病院精神科

2-015-4

慢性統合失調症患者におけるアリピプラゾール単剤治療への切替方法についての検討(多施設コホート研究)

○大林 芳明^{1,2,3,4}、光井 聡⁵、酒本 真次¹、皆尾 望¹、吉村 文太²、耕野 敏樹²、矢田 勇慈²、岡久 祐子¹、高尾 総司⁵、来住 由樹²、武田 俊彦³、高木 学¹、山田 了士¹

¹岡山大学病院精神科神経科、²地方独立行政法人岡山県精神科医療センター、³公益財団法人慈主会慈主病院、⁴医療法人大林会福山こころの病院、⁵岡山大学大学院医歯薬学総合研究科衛生学教室

2-015-5

非定型抗精神病薬の Sc 症例の社会参加に及ぼす効果に関する考察

○葉 高文

特定医療法人浩洋会田中病院医局

9:40~10:40

一般演題(口演) 17

統合失調症 4

司会: 渡部 雄一郎 新潟大学大学院歯学総合研究科精神医学分野

2-017-1

統合失調症患者、非罹患近親者、健常者間における各精神疾患のポリジェニックリスクスコア

○大井 一高^{1,2,3}、西澤 大輔⁴、嶋田 貴充³、片岡 譲³、長谷川 準子⁴、塩入 俊樹¹、川崎 康弘³、橋本 亮太⁵、池田 和隆⁴

¹岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学、²金沢医科大学総合内科学、³金沢医科大学精神神経科学、⁴東京都医学総合研究所依存性薬物プロジェクト、⁵国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

2-017-2

EP400 遺伝子の稀少変異は神経軸索の形態異常を引き起こし、統合失調症の原因となる

○森本 芳郎¹、清水 日智¹、松坂 雄亮¹、山口 尚宏¹、木下 裕久¹、今村 明²、小澤 寛樹^{1,2}

¹長崎大学病院精神科神経科、²長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部

2-017-3

カルボニルストレス性統合失調症の統合的 CNV-microRNA 解析と思春期発症の分子基盤

○吉川 茜^{1,2,3}、久島 周⁴、鈴木 一浩^{1,2}、宮下 光弘^{1,2}、鳥海 和也¹、堀内 泰江¹、尾崎 紀夫^{4,5}、糸川 昌成¹、新井 誠¹

¹東京都医学総合研究所統合失調症プロジェクト、²たかつきクリニック、³日本橋サunkリニック、

⁴名古屋大学医学部附属病院ゲノム医療センター、

⁵名古屋大学・大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

2-017-4

3q29 欠失を認めた統合失調症患者の1例

○内藤 顕人、久島 周、木村 宏之、竹田 和弘、尾崎 紀夫

名古屋大学附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター

2-017-5 BupropionSR 精神病を呈した物質乱用障害を有する統合失調症患者

○西村 由貴
慶應義塾大学保健管理センター

10:50~11:50 一般演題（口演）19
脳器質性・症状性精神障害

司会：岡田 元宏 三重大学精神神経科学分野

2-019-1 Gorlin 症候群に幻覚妄想を伴った一例

○池畑 樹、塩川 奈理、新井 薫、林 岳宏、石塚 貴周、中村 雅之
鹿児島大学病院

2-019-2 免疫抑制剤の変更後、橋本脳症を発症した若年性関節リウマチの一症例

○早瀬 卓矢、渡邊 孝文、明智 龍男
名古屋市立大学病院

2-019-3 遅発性に覚醒障害による過眠症を呈した両側視床梗塞の 1 例

○有村 尚也、濱村 尚子、佐々木 なつき、石塚 貴周、春日井 基文、中村 雅之、佐野 輝
鹿児島大学病院神経科精神科

2-019-4 病初期に精神科初診となった進行性核上性麻痺の 3 症例

○一條 慧¹、渡辺 岳海¹、長瀬 幸弘^{1,2}、長瀬 輝諠¹
¹医療法人社団東京愛成会高月病院、²日本大学医学部附属板橋病院

2-019-5 後天性脳損傷後の怒り制御困難に認知行動療法を施行した 6 症例：“脳損傷後の怒り＝器質因は本当か？”

○宗 未来^{1,2}、高畑 圭輔^{2,3}、菊地 俊暁²、斎藤 文恵²、山縣 文²、船山 道隆^{2,4}、三村 将²
¹東京歯科大学市川総合病院精神科、²慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、
³国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部、⁴足利赤十字病院

12:00~13:00 一般演題（口演）21
依存・行動嗜癖 3

司会：熊谷 雅之 医療法人優なぎ会 雁の巣病院

2-021-1 マッピングを用いた依存症支援の有用性について

○橋本 望、齋藤 暢紀
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

2-021-2 依存症病棟入院患者の過剰適応傾向と再飲酒・再使用との関連

○板橋 登子、小林 桜児、黒澤 文貴、福生 泰久、西村 康平
神奈川県立精神医療センター

2-021-3 ギャンブル依存症予防回復支援センターによる電話相談からみたギャンブル障害の特徴

○河本 泰信^{1,2}
¹医療法人社団正心会よしの病院、²一般財団法人ギャンブル依存症予防回復支援センター

2-021-4 袖ヶ浦さつき台病院『アルコール外来』の通院継続を支える資源

○倉田 勉¹、橋本 佐^{1,2}、柳井 貴志¹、高山 淳一¹、小沢 大輔¹、渡邊 堅太¹、清川 織恵³、
松本 秀吉¹、植田 順一¹、藤村 春花¹、吉野 晃平^{1,2}、菊池 周一¹
¹社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院、²千葉大学大学院医学研究院精神医学、
³社会医療法人社団さつき会ケアセンターさつき



2-021-5 ウェルニッケ・コルサコフ症候群に対するビタミン B1 補充療法の検討

○北岡 淳子、入来 晃久、川田 慎也、高石 仁、岩田 和彦
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター

13:40~14:40 一般演題（口演）23
神経症性障害 2

司会：柳沼 典正 あさかストレスクリニック

2-023-1 精神科作業療法が改善と維持に有効であった高齢女性の身体症状症の 1 例

○福田 周一^{1,2}、高山 剛^{1,2}、塩田 勝利¹、小林 聡幸¹、須田 史朗¹
¹自治医科大学精神医学教室、²上都賀総合病院

2-023-2 森田療法的心理教育により、治療が進展し、減薬に成功できたパニック症の遷延例の一症例

○石川 純一
那須こころの医院

2-023-3 「恐怖症」の進化精神医学

○高野 覚
医療法人社団明雄会本庄児玉病院精神科

2-023-4 <演題取り下げ>

14:50~15:50 一般演題（口演）25
睡眠障害

司会：山田 尚登 滋賀医科大学

2-025-1 異なる治療アプローチが奏功した過眠の三症例

○長尾 賢太郎^{1,2}、吉池 卓也²、松井 健太郎³、綾部 直子²、木村 綾乃³、都留 あゆみ³、
齊藤 友里香³、福水 道郎^{2,4}、吉田 寿美子³、栗山 健一²
¹国立精神神経医療研究センター病院第1精神診療部、
²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部、
³国立精神神経医療研究センター病院臨床検査部、⁴瀬川記念小児神経学クリニック

2-025-2 クロナゼパムが奏功した頭内爆発音症候群の 1 例

○河江 亮臣
日本大学医学部附属板橋病院

2-025-3 <演題取り下げ>

2-025-4 事象関連電位を用いた睡眠薬による認知機能低下の予測

○志賀 哲也、星野 大、落合 晴香、刑部 有祐、菅野 和子、堀越 翔、三浦 至、矢部 博興
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

2-025-5 レム睡眠行動障害を併発した若年成人 PTSD の 1 症例

○土生川 光成¹、小城 公宏²、植田 健嗣²、小曾根 基裕¹、内村 直尚¹
¹久留米大学医学部神経精神医学講座、²医療法人清友会植田病院

16:00～17:00 **一般演題（口演）27**
コンサルテーション・リエゾン

司会：稲垣 正俊 島根大学医学部精神医学講座

2-027-1 精神科病床のない総合病院で対応に工夫を要した器質性精神障害の一例

○吉永 就洋¹、高瀬 真²、蒲池 あずさ²、五十嵐 美代²、荒井 稔²

¹久喜すずのき病院、²日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院

2-027-2 当院の精神科身体合併症病棟について

○浅野 聡子、原田 円、加藤 奏、椎名 是文、大久保 健、三澤 仁
さいたま赤十字病院心療科

2-027-3 病状説明後に不安躁状態（躁的防衛）を生じた乳がん患者の一例

○志賀浪 貴文、荒瀧 千絵子、佐々木 剛、畠田 順一、梅村 智樹、森田 美穂、倉持 泉、
安田 貴昭、吉益 晴夫

埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック

2-027-4 被養育体験が産婦の不安・抑うつに与える影響について

○福井 直樹¹、茂木 崇治¹、小川 真貴^{1,2}、須貝 拓朗¹、江川 純¹、橋尻 洸陽¹、坪谷 隆介¹、
三留 節子³、荒木 理恵³、生野 寿史⁴、山口 雅幸⁵、西島 浩二⁶、高桑 好一⁶、榎本 隆之⁵、
染矢 俊幸¹

¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²新潟医療福祉大学看護学部、³新潟大学医歯学総合病院看護部、

⁴新潟県立がんセンター婦人科、⁵新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科学分野、

⁶新潟大学医歯学総合病院総合周産期母子医療センター

2-027-5 周産期の統合失調症に対する抗精神病薬投与と代謝性合併症

○小林 奈津子^{1,2}、菊地 紗耶¹、齋藤 昌利³、本多 奈美⁴、富田 博秋^{1,4}

¹東北大学病院精神科、²東北大学大学院医学系研究科精神看護学分野、³東北大学産婦人科、

⁴東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野



9月29日(火) I会場

8:30~9:30 一般演題(口演) 16
気分障害 3

司会: 石井 啓義 大分大学医学部精神神経医学講座

2-016-1 うつ病の増悪因子である不安・抑うつ発作、反芻思考、拒絶過敏性の相互関係

○岸本 智数¹、正木 美奈¹、貝谷 久宣²

¹医療法人和楽会なごやメンタルクリニック、²医療法人和楽会パニック症研究センター

2-016-2 気分障害における“価値の二極化”の背景に存在する脳内処理メカニズムについての仮説

○池田 裕

光陽会伊都の丘病院精神科

2-016-3 一般成人における主観的健康度に対する小児期の被養育体験、感情気質、睡眠の複合的影響

○大塚 綾乃、井上 猛

東京医科大学病院

2-016-4 難治性うつ状態を呈する患者の病態と行動の特徴

○早坂 友成^{1,2,3}、長島 泉^{1,3}、高江洲 義和^{2,3}、坪井 貴嗣^{2,3}、野崎 和博^{2,3}、今村 弥生^{2,3}、片桐 建志^{2,3}、
栗原 真理子^{2,3}、大江 悠樹^{2,3}、二田 未来³、青鹿 由紀³、渡邊 衡一郎^{2,3}

¹杏林大学保健学部作業療学科、²杏林大学医学部精神神経科学教室、³杏林大学医学部付属病院

2-016-5 時代の変化と軽症うつ病の治療のあり方をめぐって

○徳永 雄一郎¹、奥村 幸祐¹、島松 まゆみ¹、高田 和秀¹、小柳 綾¹、福元 仁¹、増田 将人^{1,2}、
松下 満彦¹、後藤 玲央^{1,2}、川寄 弘詔²

¹不知火病院精神科、²福岡大学医学部精神医学教室

9:40~10:40 一般演題(口演) 18
気分障害 4

司会: 鷲塚 伸介 信州大学医学部精神医学教室

2-018-1 初期診断が気分障害であった患者における抗 NMDA 受容体抗体保有率の検討

○河合 弘樹⁶、高木 学¹、酒本 真次¹、土田 彩加¹、吉村 文太²、矢田 勇慈²、岡久 祐子¹、
来住 由樹²、筒井 幸³、神林 崇⁴、田中 恵子⁵、山田 了士¹

¹岡山大学病院精神科神経科、²地方独立行政法人岡山県精神科医療センター、

³秋田大学医学部付属病院精神科神経科、⁴筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、⁵新潟大学脳研究所、

⁶岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学教室

2-018-2 うつ病の再発予防にベンゾジアゼピンが有用な患者群の同定: 精神病性うつ病への治療戦略

○塩飽 裕紀、藤田 雅子、治徳 大介、杉原 玄一、高橋 英彦

東京医科歯科大学大学院精神行動医科学分野

2-018-3 Venlafaxine とその代謝物に対し、日本人患者における CYP2D6 遺伝子多型が及ぼす薬物動態学的影響について

○佐々木 太郎¹、渡邊 崇^{1,4}、井上 義政¹、佐々木 はづき¹、篠崎 将貴¹、林 有希¹、加藤 和子³、
黒田 仁一²、増井 晃²、古郡 規雄¹、下田 和孝¹

¹獨協医科大学病院精神神経科、²栃木県立岡本台病院、³さくら・ら心療内科、⁴医療法人桂慈会菊池病院

2-018-4 治療抵抗性うつ病に対するケタミン治療への炭酸リチウム前投与の有効性と安全性 - プラセボ対照二重盲検試験 -

○中村 倫之、石橋 正敏、堀川 直希、上松 謙、富田 克、内村 直尚

久留米大学病院精神神経科

2-018-5 特定の遺伝要因をもつ双極性障害 iPS モデル細胞の開発の試み

○高松 岳矢^{1,2}、柳 久美子⁷、馬目 陽子⁶、李 俊錫¹、當山 奏子¹、Dimitar Dimitrov⁵、
原（宮内）央子⁶、長谷川 実奈美⁶、小金渕 佳江⁴、早川 朋子⁹、服部 功太郎⁸、功刀 浩⁸、
近藤 毅²、木村 亮介³、高橋 智幸⁵、岡野 ジェイムス洋尚⁶、要 匡⁷、松下 正之¹

¹琉球大学大学院医学研究科分子・細胞生理学講座、²琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座、

³琉球大学大学院医学研究科人体解剖学講座、⁴琉球大学医学部先端医学研究センター、

⁵沖縄科学技術大学院大学細胞分子シナプスユニット、⁶東京慈恵会医科大学再生医学研究部、

⁷国立研究開発法人国立成育医療研究センター、⁸国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、

⁹自治医科大学臨床薬理学講座

10:50～11:50 一般演題（口演）20
児童・思春期・発達障害 3・その他

司会：油井 邦雄 藤田医科大学医学部腎泌尿器外科学講座

2-020-1 当院受診中の神経発達症受診者（296 名）が合併する体調不良・希死念慮等のアンケート調査

○大塚 明彦、森本 志保
大塚クリニック

2-020-2 WAIS-III 施行時における成人期の ADHD の特徴的な行動

○武田 俊信¹、辻 由依^{2,3}、中島 陽大⁴、井上 美沙⁵

¹龍谷大学文学部、²北海道医療大学大学院、³日本学術振興会特別研究員、⁴医療法人社団洛和会洛和会音羽病院、

⁵三家クリニック

2-020-3 大手製造業における自閉症スペクトラム者の適正配置と WAIS の活用

○齋藤 恒祐¹、深井 航太²、新開 隆弘¹、吉村 玲児¹

¹産業医科大学精神医学教室、²東海大学医学部基盤診療学系衛生学公衆衛生学

2-020-4 英語のみのディスレクシアを呈した一例

○丹治 和世^{1,2}、加藤 進昌^{1,2}

¹公益財団法人神経研究所附属晴和病院、²昭和大学発達障害医療研究所

2-020-5 民間病院にリフレクティングを導入する② -ミスティックに始まりポリティックのみに終わらせないために-

○小林 幹穂¹、渡邊 雅文¹、大瀧 高昭¹、矢原 隆行²

¹富尾会桜が丘病院精神科、²熊本大学大学院人文社会科学部

12:00～13:00 一般演題（口演）22
司法精神医学

司会：佐藤 浩司 群馬県こころの健康センター

2-022-1 精神病患者監置手続

○奥村 克行¹、金川 英雄^{2,3}、石垣 和寿⁴、佐藤 一恵²、庭田 光江²

¹五反田駅前メンタルクリニック、²国立病院機構埼玉病院、³昭和大学精神科、⁴小竹向原こころのクリニック

2-022-2 機械学習・決定木分析を用いた暴力行為の予測モデルの作成と検証

○松原 拓郎、藤田 欣也、茶谷 圭祐、横山 理菜、木崎 裕哉、高嶋 祐大、鈴木 勝彦、水島 健、
松原 三郎

社会医療法人財団松原愛育会松原病院

2-022-3 触法精神障害者に関する「忘れられる権利」について

○山下 真吾、大森 まゆ、大町 佳永、平林 直次

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター



2-022-4 医療刑務所における覚せい剤による精神病性障害の患者の症状・治療反応性

○関口 陽介^{1,2}、奥村 雄介¹、岡田 幸之²

¹東日本矯正医療センター、²東京医科歯科大学大学院

2-022-5 反復窃盗（窃盗癖）に対する条件反射制御法を受けたケースの予後に関する研究

○中元 総一郎

一般財団法人成研会結のぞみ病院

13:40～14:40 一般演題（口演）24
研修生・医学部生演題 2

司会：橋高 一 福島県立矢吹病院

2-024-1 スボレキサントによる抗利尿ホルモン不適合分泌症候群が疑われたうつ病の一例

○高野 学、岡田 剛史、高久 奈津美、橋本 祐希、関谷 竜彦、福田 周一、西依 康、小林 聡幸、須田 史朗

自治医科大学附属病院

2-024-2 睡眠中の自律神経応答を用いた腕時計型・24 時間メンタル・ホルターの開発とうつ病スクリーニング精度評価

○平塚 巧真¹、松井 岳巳¹、小原 右輔²、仮屋 暢聡²、孫 光縞³、榛葉 俊一⁴、井上 智子¹

¹首都大学東京、²まいんずたわーメンタルクリニック、³電気通信大学、⁴静岡済生会総合病院

2-024-3 NDB オープンデータに基づくクロザピン使用の都道府県比較

○樋口 早子¹、早川 達郎²、近藤 忠之²、草西 俊²、榎本 哲郎²、柳内 秀勝¹、吉村 健佑³、酒匂 赤人¹

¹国立国際医療研究センター国府台病院総合内科、²国立国際医療研究センター国府台病院精神科、

³千葉大学医学部付属病院次世代医療構想センター

2-024-4 認知機能低下やせん妄のリスクから高齢者に特に慎重な投与を要する薬物の日本での処方～NDBオープンデータ

○澁谷 唯子¹、早川 達郎²、樋口 早子¹、増井 良則¹、近藤 忠之²、草西 俊²、柳内 秀勝¹、吉村 健佑³、酒匂 赤人¹

¹国立国際医療研究センター国府台病院総合内科、²国立国際医療研究センター国府台病院精神科、

³千葉大学医学部付属病院次世代医療構想センター

14:50～15:50 一般演題（口演）26
精神医学教育

司会：小田原 俊成 横浜市立大学保健管理センター

2-026-1 研修医の抑うつとバーンアウトの持続に関連する気質性格特性

○三好 良英¹、松尾 寿栄¹、小松 弘幸²、石田 康¹

¹宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野、²宮崎大学医学部医療人育成支援センター

2-026-2 聖マリアンナ医科大学における超短期間少人数制精神科クリニカル・クラークシップの紹介

○小口 芳世¹、櫛野 宣久¹、諸川 由実代²、塚原 さち子¹、池田 和弘¹、立野 玄一郎¹、橋本 知明¹、三宅 誕実¹、袖長 光知穂¹、長谷川 浩³、安藤 久美子¹、小野 和哉¹、古茶 大樹¹

¹聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室、²医療法人大和会西毛病院、³聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

2-026-3 わが国の精神科医不足に関する研究 -官庁統計を用いた経時分析-

○花岡 晋平^{1,2}、松本 邦愛²、平田 豊明^{1,3}、長谷川 友紀²

¹千葉県精神科医療センター、²東邦大学医学部社会医学講座、³医療法人学術会木村病院

2-026-4 学生の認識を深めるための精神科看護教育の試み

○青山 洋
青空精神科・心療内科精神科・心療内科

2-026-5 単回の精神科外来研修が研修医の精神疾患に対するイメージに与える影響

○松坂 雄亮^{1,2}、長谷 敦子²、浜田 久之²、木下 裕久¹、今村 明¹、小澤 寛樹¹
¹長崎大学病院精神科神経科、²長崎大学病院医療教育開発センター

16:00～17:00 **一般演題（口演）28**
薬物療法

司会：渡部 康 一般財団法人桜ヶ丘病院法人部・診療部

2-028-1 向精神薬関連眼疾患：ベンゾジアゼピン眼症を中心に

○齊尾 武郎
SMBC日興証券健康管理室

2-028-2 入院患者における向精神薬使用と転倒・転落リスクに関する症例対照研究

○森下 千尋¹、犬伏 厚夫²、志村 哲祥¹、石橋 由基³、三木 保⁴、井上 猛¹
¹東京医科大学精神医学分野、²東京医科大学病院薬剤部、³慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室、⁴東京医科大学医療の質・安全管理学分野

2-028-3 せん妄に対する薬物療法の検討

○沖野 和磨^{1,2}、富岡 大^{1,2}、山田 浩樹^{1,2}、野崎 伸次^{1,2}、岩波 明¹、稲本 淳子^{1,2}
¹昭和大学横浜市北部病院精神科、²昭和大学医学部精神医学講座

2-028-4 抗不安薬・睡眠薬処方、および飲酒習慣が男性勤労者の外傷リスクに及ぼす影響に関する薬剤疫学的調査

○稲垣 中¹、菊地 俊暁²、岸 知輝³、山内 慶太⁴
¹青山学院大学教育人間科学部、²慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、³杏林大学保健学部看護学科、⁴慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科

2-028-5 抗不安薬・睡眠薬処方、および飲酒習慣が女性勤労者の外傷リスクに及ぼす影響に関する薬剤疫学的調査

○稲垣 中¹、菊地 俊暁²、岸 知輝³、山内 慶太⁴
¹青山学院大学教育人間科学部、²慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、³杏林大学保健学部看護学科、⁴慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科



9月29日(火) J会場

8:30~10:30

シンポジウム 36

神経免疫学と精神医学の狭間で

司会：神林 崇
来住 由樹

茨城県立こころの医療センター/筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

S36-1

抗体介在性自己免疫性脳炎をめぐる新たな広がり

○田中 恵子^{1,2}

¹新潟大学脳研究所モデル動物開発分野、²福島県立医科大学多発性硬化症治療学講座

S36-2

自己抗体を通じた精神疾患のディメンショナルアプローチ

○高木 学、河合 弘樹、樋之津 健二、酒本 真次、岡久 祐子、山田 了士
岡山大学病院精神科神経科

S36-3

精神科医が遭遇することがある、慢性～亜急性経過の自己免疫性脳炎と、その治療後の長期経過について

○千葉 悠平^{1,2}、阿部 紀絵²、服部 早紀²、伊倉 崇浩²、斎藤 知之²、須田 顕²、藤城 弘樹⁴、
勝瀬 大海²、西野 精治³、菱本 明豊²

¹積愛会横浜舞岡病院精神科、²公立大学法人横浜市立大学医学部精神医学教室、

³スタンフォード大学医学部精神医学、⁴医療法人花咲会かわさき記念病院

S36-4

神経細胞表面抗原 (Neuronal cell surface antigens : NSAs) により生じうる病態

○筒井 幸^{1,4}、馬越 秋瀬¹、柴田 菜那¹、奥口 悠紀²、神林 崇^{3,7}、田中 恵子⁵、清水 徹男⁶、
三島 和夫¹

¹秋田大学附属病院神経科精神科、²医療法人慧真会協和病院、³茨城県立こころの医療センター、

⁴平鹿総合病院心療センター、⁵新潟大学脳研究所モデル動物開発分野、⁶秋田県精神保健福祉センター、

⁷筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

〈コーディネーター〉 神林 崇 茨城県立こころの医療センター/筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構
来住 由樹 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

10:40~12:40

シンポジウム 44

ノルアドレナリン制御と難治性気分障害

司会：小高 文聰
高野 晴成

東京慈恵会医科大学精神医学講座
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S44-1

ノルアドレナリンと難治性気分障害の治療

○小高 文聰

東京慈恵会医科大学精神医学講座

S44-2

中枢性ノルエピネフリントランスポーター・イメージングとうつ病および抗うつ薬の評価

○高野 晴成

国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター

S44-3

発達障害を併存する難治性気分障害

○藤野 純也^{1,2}

¹昭和大学発達障害医療研究所、²東京医科歯科大学医学部附属病院

S44-4

てんかんを併存したうつ病の治療戦略

○岩崎 弘

医療法人社団静心会常盤台病院

〈コーディネーター〉 小高 文聰 東京慈恵会医科大学精神医学講座

13:40~15:40 シンポジウム 53

これからの発達障害医療の展望と児童精神保健に期待されるもの

司会：大高 一則 医療法人大高クリニック精神科
大嶋 正浩 医療法人社団至空会メンタルクリニック・ダダ

S53-1 小児科における発達障害児支援の現状

○小林 潤一郎
明治学院大学

S53-2 アンケートからみえる児童精神科開業医の現状

○原田 剛志
医療法人悠志会パークサイドこころの発達クリニック

S53-3 成人の発達障害の支援とその限界

○米田 衆介
明神下診療所

S53-4 児童・思春期精神保健および発達障害医療に関する現状と厚生労働省の施策について

○久我 弘典
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課

S53-5 【指定発言】

○神尾 陽子
医療法人社団神尾陽子記念会発達障害クリニック

〈コーディネーター〉 大高 一則 医療法人大高クリニック精神科
原田 剛志 パークサイドこころの発達クリニック

16:00~18:00 シンポジウム 62

激動するわが国の薬物乱用・依存問題：最近のトピックス

司会：松本 俊彦 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
成瀬 暢也 埼玉県立精神医療センター精神科

S62-1 わが国における市販薬乱用の実態と課題

○松本 俊彦
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

S62-2 カフェインを主成分とする錠剤は現代の危険ドラッグだ

○上條 吉人
埼玉医科大学病院救急科

S62-3 大麻を巡る国際社会の動向とわが国の現状

○船田 正彦
国立精神・神経医療研究センター

S62-4 オピオイドクライストは何か？日本はどのように備えればよいのか？

○山口 重樹
獨協医科大学医学部麻酔科学講座



S62-5

市販薬・スマートドラッグ問題について

○成瀬 暢也

埼玉県立精神医療センター精神科

〈コーディネーター〉 成瀬 暢也
松本 俊彦

埼玉県立精神医療センター精神科

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

9月29日(火) K会場

8:30~10:30

シンポジウム 37

急性精神病の診断と治療の現状と今後の課題

司会：須賀 英道 龍谷大学短期大学部
金沢 徹文 大阪医科大学神経精神医学教室

S37-1

非定型精神病と薬剤性錯乱の鑑別

○数田 俊成¹、三浦 伸義¹、中山 和彦^{1,2}¹医療法人社団心と和会八千代病院、²東京慈恵会医科大学精神医学講座

S37-2

非定型精神病としての緊張病

○加藤 悦史^{1,2}¹岡崎医療刑務所、²愛知医科大学精神科学講座

S37-3

減薬により急性錯乱状態で再発した2例の非定型精神病に関する考察

○今津 伸一、金沢 徹文

大阪医科大学附属病院

S37-4

急性精神病状態を診分ける -非定型精神病と統合失調症、広汎性発達障害と統合失調症

○八田 耕太郎

順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック

S37-5

【指定発言】

○針間 博彦

東京都立松沢病院

S37-6

【指定発言】

○須賀 英道

龍谷大学短期大学部

〈コーディネーター〉 須賀 英道 龍谷大学短期大学部
金沢 徹文 大阪医科大学神経精神医学教室

シンポジウム 45

取り下げ

13:40~15:40

シンポジウム 54

再考：統合失調症急性期治療 -リアルワールドエビデンスとRCTとの対比

司会：伊豫 雅臣 千葉大学大学院医学研究院精神医学
八田 耕太郎 順天堂大学医学部附属練馬病院

S54-1

ドパミン過感受性精神病（DSP）の概要

○伊豫 雅臣

千葉大学大学院医学研究院精神医学

S54-2

統合失調症急性期治療におけるリアルワールドエビデンスとRCTの対比

○八田 耕太郎

順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック



S54-3 難治性統合失調症（ドパミン過感受性精神病）への m-ECT の有効性

○西本 雅彦、三浦 賢吾、富山 恵一郎、幸田 文男、関口 潔、小坂 淳、渡邊 己弦、
渡邊 俊太郎、黒岩 隆
医療法人社団青木末次郎記念会相州病院医局

S54-4 クロザピンの有用性を高める為に必要な今日的課題～有害事象後のリチャレンジから地域全体での取り組みまで

○来住 由樹、矢田 勇慈、石津 すぐる、児玉 匡史
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

〈コーディネーター〉 杉山 直也 公益財団法人復康会沼津中央病院
八田 耕太郎 順天堂大学医学部附属練馬病院
来住 由樹 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

16:00～18:00 シンポジウム 63

精神科ブレインバンク各拠点からの成果と今後の臨床への展望 -精神科ブレインバンクへの期待 その4-

司会：新井 哲明 筑波大学附属病院
河上 緒 東京都健康長寿医療センター/東京都立松沢病院/東京都医学総合研究所

S63-1 精神神経科の死後脳研究の過去・現在・未来とブレインバンクへの期待

○入谷 修司
名古屋大学医学部付属病院

S63-2 臨床神経病理研究による前頭側頭葉変性症の病態解明～都立松沢病院ブレインバンクからの報告～

○河上 緒^{1,2}、大島 健一²、新里 和弘²
¹東京都医学総合研究所認知症プロジェクト、²東京都立松沢病院

S63-3 岡山地域における精神・神経疾患ブレインバンク：現状と展望

○横田 修^{1,2,3,4}、三木 知子^{1,2,3,4}、原口 俊³、石津 秀樹⁴、寺田 整司²、黒田 重利^{2,4}、山田 了士²
¹きのこエスポアル病院精神科、²岡山大学大学院精神神経病態学、³国立病院機構南岡山医療センター、
⁴慈恵病院精神科

S63-4 福島精神疾患ブレインバンクの成果と今後の展望

○國井 泰人^{1,2}、長岡 敦子¹、泉 竜太¹、日野 瑞城¹、矢部 博興¹
¹福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、²福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座

S63-5 名古屋ブレインバンクコンソーシアムのこれまでの取り組みと展望

○関口 裕孝¹、藤田 潔¹、羽瀨 知可子²、合澤 祐²、粉川 進²、鳥居 洋太^{3,5}、三輪 綾子³、
川島 邦裕³、岩井 清³、平野 光彬^{4,5}、吉田 眞理⁴、入谷 修司⁵
¹桶狭間病院藤田こころケアセンター、²愛知県精神医療センター、³特定医療法人八誠会もりやま総合心療病院、
⁴愛知医科大学病院、⁵名古屋大学医学部付属病院

S63-6 〔指定発言〕

○池田 研二
香川大学炎症病理学

〈コーディネーター〉 入谷 修司 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学
河上 緒 東京都健康長寿医療センター/東京都立松沢病院/東京都医学総合研究所

9月29日(火) L会場

8:30~10:30 シンポジウム 38
不安症・強迫症の診療ガイドライン

司会：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学
井上 猛 東京医科大学精神医学分野

S38-1 パニック症の診療ガイドライン

○塩入 俊樹
岐阜大学医学部附属病院

S38-2 本邦における強迫症（OCD）の治療ガイドライン

○松永 寿人
兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

S38-3 社交不安症の診療ガイドライン

○朝倉 聡¹、山田 恒²、藤井 泰¹、三井 信幸¹、吉永 尚紀³、金井 嘉宏⁴
¹北海道大学保健センター・大学院医学研究院精神医学教室、²兵庫医科大学精神科神経科学講座、³宮崎大学テニユアトラック推進機構、⁴東北学院大学教養学部人間科学科

S38-4 全般不安症の診療ガイドライン

○大坪 天平
東京女子医科大学東医療センター精神科

〈コーディネーター〉 井上 猛 東京医科大学精神医学分野
清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

10:40~12:40 シンポジウム 46
医療観察法対象者の逸脱行動の病態理解と治療戦略 -措置入院への応用を視野に入れて-

司会：五十嵐 慎人 千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門
村上 優 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター

S46-1 医療観察法対象者の予後

○竹田 康二^{1,2}
¹国立精神神経医療研究センター病院精神科、²東京医科歯科大学医学部附属病院

S46-2 行動制限を繰り返す長期入院者の特徴と課題

○村杉 謙次
独立行政法人国立病院機構小諸高原病院

S46-3 重複精神障害を有する対象者の診断を超えた理解

○平林 直次
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S46-4 共通評価項目から作るケースフォーミュレーション

○壁屋 康洋
国立病院機構榊原病院



S46-5 複雑・困難事例に対する多施設コンサルテーションの試み

○今村 扶美、鈴木 敬生
国立精神・神経医療研究センター病院

〈コーディネーター〉 平林 直次 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
五十嵐 禎人 千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門
村杉 謙次 独立行政法人国立病院機構小諸高原病院

13:40~15:40 シンポジウム 55
ADHD の診断と治療～最近の知見

司会：岩波 明 昭和大学医学部精神医学講座
横山 富士男 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

S55-1 大学病院精神科における成人期 ADHD 診療ー通常外来での「対応医」育成の取り組みー

○松岡 孝裕、下出 崇輝、横山 富士男、松尾 幸治
埼玉医科大学神経精神科・心療内科

S55-2 成人期 ADHD の鑑別診断～クリニックの診察室から

○柏 淳
医療法人社団ハートクリニックハートクリニック横浜診療部

S55-3 成人期 ADHD に対する精神科ショートケアプログラム

○佐賀 信之^{1,2}、横井 英樹¹、五十嵐 美紀¹、岩波 明^{1,2}
¹昭和大学附属烏山病院、²昭和大学医学部精神医学講座

S55-4 成人期神経発達障害診断における ADOS-2 の検討

○林 若穂、花輪 洋一、岩見 有里子、青柳 啓介、佐賀 信之、中村 暖、岩波 明
昭和大学附属烏山病院精神科

S55-5 〔指定発言〕

○小野 和哉
聖マリアンナ医科大学病院

〈コーディネーター〉 岩波 明 昭和大学医学部精神医学講座

16:00~18:00 シンポジウム 64
アルツハイマー病における神経精神症状の生物学的研究の新たな展開

司会：永田 智行 医療法人永光会あいらの森ホスピタル
笠貫 浩史 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター

S64-1 神経精神症状へのアプローチのこれまでとこれから

○品川 俊一郎
東京慈恵医科大学附属病院神経精神科

S64-2 アルツハイマー病における神経精神症状の生物学的指標の最新知見

○小林 伸行^{1,2}
¹東京慈恵会医科大学ウイルス学講座、²東京慈恵会医科大学精神医学講座

S64-3 アルツハイマー病における神経病理学的マーカーと神経精神症状

○笠貫 浩史
順天堂東京江東高齢者医療センターメンタルクリニック

S64-4

形態・機能画像からわかるアルツハイマー病の神経精神症状の神経基盤

○松岡 照之

京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

S64-5

アルツハイマー病（AD）患者における神経精神症状への治療展望

○永田 智行

医療法人永光会あいらの森ホスピタルメンタルヘルス科

〈コーディネーター〉 品川 俊一郎 東京慈恵医科大学附属病院精神神経科



9月29日(火) M会場

8:30~10:10 ワークショップ7 ＜脳波の基礎コース＞精神科医が脳波を学ぶ意義と研修方法

司会：山内 俊雄 埼玉医科大学
太田 克也 医療法人明柳会恩田第二病院

WS7 〈講演者〉 山内 俊雄 埼玉医科大学
渡邊 さつき 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
原 恵子 原クリニック精神科
太田 克也 医療法人明柳会恩田第二病院
高木 俊輔 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医学

〈コーディネーター〉 原 恵子 原クリニック精神科
矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

10:20~12:00 ワークショップ11 (PCN 編集委員会) 現役エディターによる論文の書き方指導の講義と論文投稿の個別相談会

司会：神庭 重信 九州大学病院
三村 将 慶應義塾大学病院

WS11 〈講演者〉 鈴木 道雄 富山大学附属病院
橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部
内田 裕之 慶應義塾大学病院
加藤 忠史 順天堂大学
藤本 岳 京都大学医学部附属病院

〈コーディネーター〉 橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

12:20~13:20 教育講演8

司会：鈴木 道雄 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座

EL8 精神科臨床での神経心理・神経画像検査の意義

○村井 俊哉
京都大学大学院医学研究科精神医学教室



13:40~15:40 委員会シンポジウム18 (災害支援委員会) 自然災害への備えと対応～BCPと受援・支援～

司会：富田 博秋 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野
高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

CS18-1 平成30年7月豪雨災害における広島県保健師チーム統括班の活動から～多職種連携と受援について～

○服多 美佐子¹、山下 十喜²、東久保 ちあき²
¹広島県健康福祉局健康対策課、²広島県健康福祉局地域包括ケア・高齢者支援課

CS18-2 局地～広域の自然災害への精神支援体制の現状と展望○高橋 晶^{1,2}¹筑波大学医学医療系災害・地域精神医学、²茨城県立こころの医療センター**CS18-3 西日本豪雨災害により病棟を閉じ精神科病院から心療クリニックに転換した経験 -情緒的混乱を抱える場-**

○浅田 護

医療法人あさだ会浅田心療クリニック

CS18-4 東日本大震災を経験した東北大学病院の BCP 策定ステップ

○佐々木 宏之

東北大学災害科学国際研究所

CS18-5 精神科医療機関と精神保健体制の災害への備え

○富田 博秋

東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

〈コーディネーター〉 富田 博秋 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野
 高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

16:00～18:00 委員会シンポジウム 21 (ECT・rTMS 等検討委員会)
保険診療としての rTMS 療法の均てん化

司会：水野 雅文 東邦大学
 三村 将 慶應義塾大学

CS21-1 ニューロモデュレーションにおける rTMS 療法の位置づけ○中村 元昭^{1,2}¹昭和大学発達障害医療研究所、²神奈川県立精神医療センター**CS21-2 単科精神科病院における rTMS 療法の体制作り**

○伊津野 拓司

神奈川県立精神医療センター

CS21-3 慈恵医大病院における rTMS 療法の実際○鬼頭 伸輔^{1,2}、山崎 龍一²、松田 勇紀²、繁田 雅弘²¹国立研究開発法人国立精神・神経医療センター病院、²東京慈恵会医科大学精神医学講座**CS21-4 診療所における TMS 療法の現状**

○五十嵐 良雄

メディカルケア虎ノ門精神科

CS21-5 磁気刺激療法の現状と課題：臨床 TMS 研究会の立場から

○三村 将

慶應義塾大学精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 中村 元昭 昭和大学発達障害医療研究所/神奈川県立精神医療センター
 鬼頭 伸輔 国立研究開発法人国立精神・神経医療センター病院/東京慈恵会医科大学



9月29日(火) N会場

8:30～10:30

シンポジウム 39

認知症の人の生活を支える地域の取り組みに精神科医ができること -Community based Psychiatry

司会：内田 直樹 医療法人すずらん会たろうクリニック
栗田 主一 東京都健康長寿医療センター

S39-1 京都での認知症支援のための異業種連携の試み

○成本 迅
京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

S39-2 認知症フレンドリーコミュニティ実現のために相模原市でしていること

○大石 智
北里大学医学部精神科学

S39-3 認知症を地域で支える～在宅医療、湘南オレンジプラン、SHIGETA ハウスプロジェクト～

○内門 大丈
医療法人社団みのり会湘南いなほクリニック

S39-4 認知症フレンドリーシティに向けた福岡市での取り組み

○内田 直樹¹、園田 薫^{1,4}、勢島 奏子^{1,5}、浦島 創¹、笠井 浩一²、尾籠 晃司³
¹たろうクリニック、²福岡市保健福祉局高齢社会部認知症支援課、³福岡国際医療福祉大学、
⁴医療法人恒昭会藍野病院、⁵京都大学医学部附属病院

〈コーディネーター〉 内田 直樹 医療法人すずらん会たろうクリニック
栗田 主一 東京都健康長寿医療センター

10:40～12:40

シンポジウム 47

物質使用障害対策の予防介入、早期介入、地域保健

司会：齋藤 利和 北仁会幹メンタルクリニック
長 徹二 名古屋医専

S47-1 アルコール依存症の早期介入体制の構築に向けて

○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

S47-2 『保健所における物質使用障がいへの関わりについて』

○西口 心
大阪府和泉保健所

S47-3 被災地でのアルコール問題への初期介入とその後の苦悩

○高柳 伸康
からころステーション

S47-4 依存症からの回復に向けて～地域とのつながりから～

○岡村 真紀
医療法人信和会高嶺病院

S47-5 「地域から イージーアクセス お気軽に」

○長 徹二
一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん臨床教育センター

S47-6

〔指定発言〕

○宮田 久嗣
東京慈恵会医科大学附属病院

S47-7

〔指定発言〕

○齋藤 利和
北仁会幹メンタルクリニック

〈コーディネーター〉 田中 増郎 公益財団法人慈主会慈主病院
成瀬 暢也 埼玉県立精神医療センター
長 徹二 名古屋医専

13:40～15:40

シンポジウム 56

日常精神科臨床で遭遇する対処困難な過眠の見立てと対応

司会：神林 崇 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構
小曾根 基裕 久留米大学病院精神神経科

S56-1

中枢性過眠症と症候性過眠

○神林 崇^{1,2}、今西 彩³、大森 佑貴⁴、富永 杜絵¹、吉沢 和久³、小野 太輔⁵、筒井 幸³、
石戸 秀明^{1,6}、近藤 英明¹

¹筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、²茨城県立こころの医療センター、
³秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座、⁴東京都健康長寿医療センター精神科、
⁵スタンフォード大学睡眠生体リズム研究所、⁶獨協医科大学埼玉医療センター

S56-2

睡眠時無呼吸症候群における主観的・客観的眠気とその予測因子

○内海 智博¹、小曾根 基裕²

¹東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科、²久留米大学医学部神経精神医学講座

S56-3

気分障害における過眠への対応

○鈴木 正泰

日本大学医学部精神医学系

S56-4

認知症における眠気・過眠の見立てとその対応

○足立 浩祥^{1,2}

¹大阪大学キャンパスライフ健康支援センター、²大阪大学医学部附属病院睡眠医療センター

S56-5

低用量アリピプラゾールが起床困難（発達障害患者を含む）にもたらす効果

○小鳥居 望^{1,2}、大島 勇人¹、森 裕之¹、土生川 光成¹、比江嶋 啓至¹、和佐野 研二郎¹、
加藤 隆郎¹、小曾根 基裕¹、内村 直尚¹

¹久留米大学医学部神経精神医学講座、²医療法人仁祐会小鳥居諫早病院

S56-6

〔指定発言〕

○小曾根 基裕

久留米大学病院精神神経科

〈コーディネーター〉 小曾根 基裕 久留米大学病院精神神経科
小鳥居 望 医療法人仁祐会小鳥居諫早病院

シンポジウム 65

取り下げ



9月29日(火) O会場

8:30~10:10 ワークショップ 8 (精神神経学雑誌編集委員会) 精神神経誌に掲載される論文の書き方

司会：大森 哲郎 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
細田 真司 こころの診療所細田クリニック

WS8

〈講演者〉

根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座
池淵 恵美 帝京平成大学大学院臨床心理学研究科
山口 博行 横浜市立大学精神医学教室
住谷 さつき 徳島大学医学部大学院医学系研究科キャンパスライフ健康支援センター
熊倉 陽介 東京大学精神保健学分野

〈コーディネーター〉 大森 哲郎 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
細田 真司 こころの診療所細田クリニック

委員会シンポジウム 15 取り下げ

ワークショップ 13 取り下げ

16:00~17:40 ワークショップ 14 日常診療に診療ガイドラインは役に立つのか？

司会：上野 修一 愛媛大学医学部附属病院
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部付属病院

WS14

〈講演者〉

橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター
飯田 仁志 福岡大学
山田 恒 兵庫医科大学
福本 健太郎 岩手医科大学

〈コーディネーター〉 上野 修一 愛媛大学医学部附属病院
橋本 亮太 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

9月29日(火) P会場

8:30~10:30

シンポジウム 40

周産期における母親のメンタルヘルスと子どもの養育支援

司会：渡部 京太
岡田 俊広島市こども療育センター
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

S40-1

妊産婦のメンタルヘルスの実態と支援の方向性

○森川 真子
名古屋大学大学院医学系研究科障害児（者）医療学寄附講座

S40-2

母親のメンタルヘルスと子どもの心理的・情緒的発達の相互作用

○岡田 俊
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

S40-3

メンタルヘルス不調を抱える産後女性への認知行動療法に基づく支援

○蟹江 絢子^{1,2}、中嶋 愛一郎²、久保田 智香¹、伊藤 正哉²、堀越 勝^{1,2}
¹国立精神・神経医療研究センター病院、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S40-4

養育困難を抱える乳幼児への養育スキルの支援

○細金 奈奈
恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科

S40-5

〔指定発言〕

○小平 雅基
社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック〈コーディネーター〉 岡田 俊 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部
小平 雅基 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック

10:40~12:40

シンポジウム 48

認知症の人に対して医師に求められる態度と言葉

司会：宮岡 等
繁田 雅弘北里大学医学部精神科学
東京慈恵会医科大学精神医学講座

S48-1

認知症の人に対して医師に求められる態度と言葉～初診時～

○大石 智
北里大学医学部精神科学

S48-2

今の自分でよいと自信を持てる言葉こそ -診断と見通しについての対話

○上田 諭
東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科

S48-3

治療について対話する時

○小田 陽彦
兵庫県立ひょうごこころの医療センター老年精神科

S48-4

介護する人から行動や心理面の変化について相談された時 -認知症の行動になぜを考える必要性

○上村 直人
高知大学医学部附属病院



S48-5 認知症の人に対して医師に求められる態度と言葉～大きな変化の認められない日頃の診療に際して～

○内田 直樹
たろうクリニック

〈コーディネーター〉 宮岡 等 北里大学医学部精神科学
大石 智 北里大学医学部精神科学

13:40～15:40 シンポジウム 57
精神医療化の必然と薬物療法化の弊害

司会：宮岡 等 北里大学医学部精神科学
山下 達久 からすま五条・やましたクリニック

S57-1 精神医療化と脱差別化

○永田 利彦
壺燈会なんば・ながたメンタルクリニック

S57-2 注意欠如・多動症の啓発と精神医療化

○岡田 俊
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

S57-3 社交不安症と治験広告

○山田 恒
兵庫医科大学病院

S57-4 摂食障害とファッション産業

○磯部 昌憲
京都大学精神科神経科

〈コーディネーター〉 永田 利彦 壺燈会なんば・ながたメンタルクリニック
宮岡 等 北里大学医学部精神科学

16:00～18:00 シンポジウム 66
不安症と心的外傷性ストレス障害 –類似点と差異点–

司会：佐々木 司 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻身体教育学講座
井上 猛 東京医科大学精神医学分野

S66-1 不安症と心的外傷後ストレス障害の共通する特徴

○井上 猛
東京医科大学精神医学分野

S66-2 PTSD と不安症：症候論的検討

○金 吉晴
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S66-3 複雑性 PTSD と不安症 –不安・抑うつ発作（貝谷）～各種不安症との関連について

○原田 誠一
原田メンタルクリニック

S66-4

不安・抑うつ発作の臨床特徴 -複雑性 PTSD と類似し非なるもの-

○貝谷 久宣

医療法人和楽会パニック症研究センター

〈コーディネーター〉

貝谷 久宣

医療法人和楽会パニック症研究センター

原田 誠一

原田メンタルクリニック、東京認知行動療法研究所



9月29日(火) Q会場

8:30~10:10 ワークショップ9 不安の精神療法 -日常診療でどう進めるか

司会：北西 憲二 森田療法研究所・北西クリニック
中村 敬 東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・森田療法センター

WS9 〈講演者〉 菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
村山 桂太郎 九州大学病院精神科神経科
岩木 久満子 顕メンタルクリニック
〈コーディネーター〉 中村 敬 東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・森田療法センター

10:40~12:40 委員会シンポジウム 16 (精神保健に関する委員会) 子供の自殺を防ぐために精神科医ができること

司会：太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学
張 賢徳 帝京大学精神科

CS16-1 疫学研究と思春期の自殺予防
○安藤 俊太郎
東京大学医学部附属病院精神神経科

CS16-2 子どもの自殺企図 -救急の現場から
○立花 良之¹、辻 聡²
¹国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科、
²国立研究開発法人国立成育医療研究センター

CS16-3 学校コミュニティにおける自殺対策
○二宮 貴至
浜松市精神保健福祉センター

CS16-4 子供の自殺リスク評価と介入
○三上 克央
東海大学医学部医学科専門診療学系精神科学
〈コーディネーター〉 太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学
張 賢徳 帝京大学精神科

13:40~15:40 シンポジウム 58 「内因性うつ病」を多面的に把握する

司会：井上 猛 東京医科大学精神医学分野

S58-1 内因性概念は何のために -うつ病の場合-
○大前 晋
国家公務員共済組合連合会虎の門病院精神科

S58-2 了解概念からみた内因性うつ病
○熊崎 努
東京農工大学保健管理センター

S58-3 うつ病の病前性格論と日本文化論

○清水 光恵

伊丹健康福祉事務所/兵庫県精神保健福祉センター

S58-4 内因性うつ病を「実証的に」考える○玉田 有^{1,2}¹虎の門病院分院精神科、²東京医科大学精神医学分野

〈コーディネーター〉 玉田 有 虎の門病院分院精神科/東京医科大学精神医学分野/虎の門病院精神科

16:00~18:00 シンポジウム 67**医学生と研修医と専攻医に精神医学・医療の魅力を伝える**司会：福田 正人 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学
米田 博 大阪医科大学統合医学講座神経精神医学教室**S67-1 シームレスな医師養成システムを目指した医学教育改革**

○米田 博

大阪医科大学医学部神経精神医学教室

S67-2 医学生と研修医のレジリエンスとプロフェッショナリズムを育む -名古屋市立大学の取り組み

○渡邊 孝文、明智 龍男

名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

S67-3 多様なニーズに応えるフィールド作り

○近藤 伸介

東京大学医学部附属病院精神神経科

S67-4 どう伝えるか、どう学ぶか -群馬大学での経験から考える“2つ”の教育-

○藤平 和吉

群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

〈コーディネーター〉 福田 正人 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学
米田 博 大阪医科大学統合医学講座神経精神医学教室



9月29日(火) R会場

シンポジウム 41

取り下げ

10:40～12:40 シンポジウム 49

災害メンタルヘルスを中心とする自然災害への学際的アプローチ -東日本大震災から10年の節目に向けて

司会：今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所
富田 博秋 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野/東北大学災害科学国際研究所

S49-1 津波のリアルタイム被害予測

○越村 俊一
東北大学災害科学国際研究所

S49-2 バーチャル・リアリティ技術と避難行動

○浅井 光輝
九州大学

S49-3 災害情報のアーカイブ

○柴山 明寛
東北大学災害科学国際研究所

S49-4 文化の多様性と災害

○ボレー セバスチャン
東北大学災害科学国際研究所

S49-5 災害研究の起点としての災害精神医学研究の可能性

○富田 博秋^{1,2}
¹東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、²東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野

〈コーディネーター〉 富田 博秋 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

13:40～15:40 シンポジウム 59

日本と中国における内観療法の発展と展望

司会：堀井 茂男 公益財団法人慈圭会慈圭病院
山田 了士 岡山大学大学院精神神経病態学教室

S59-1 中国における内観療法の歴史と現状

○盧 立群
奈良女子大学人間文化研究科

S59-2 中国での内観のエビデンス探求について

○夏 寒松
中国上海市浦東新区浦南医院

S59-3 内観療法の国際化をめぐる

○真栄城 輝明
大和内観研修所(佛教大学)

S59-4 日本における内観研究の方向性

○河合 啓介
国立国際医療研究センター国府台病院心療内科

S59-5 内観の国際化への期待、特に日本と中国において

○小澤 寛樹
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻精神神経科学

〈コーディネーター〉 山田 了士 岡山大学大学院精神神経病態学教室
塚崎 稔 医療法人清潮会三和中央病院

16:00～18:00 **シンポジウム 68**
当事者の持つ力を引き出し、伸ばしていくためにできること

司会：秋山 剛 NTT東日本関東病院
鈴木 映二 東北医科薬科大学病院

S68-1 当事者の能力をどのように仕事につなげるか

○秋山 剛
NTT東日本関東病院精神科精神神経科

S68-2 あさかホスピタルグループにおける包摂的社会に向けての展開

○佐久間 啓
社会医療法人あさかホスピタル

S68-3 当事者会における当事者の癒やしの力

○鈴木 映二
東北医科薬科大学医学部精神科学教室

S68-4 双極症とその家族のセルフケアに対する看護の可能性、そして家族ができること・できないこと

○高橋 清美
日本赤十字九州国際看護大学

S68-5 【指定発言】

○夏莉 郁子
やきつべの径診療所

S68-6 【指定発言】

○朝田 小夏
NPO法人日本双極性障害連合会（ノーチラス会）

〈コーディネーター〉 鈴木 映二 東北医科薬科大学病院
秋山 剛 NTT東日本関東病院



9月29日(火) ポスター会場

一般演題（ポスター）16

統合失調症 4

- 2-P16-1 「重度かつ慢性」の基準案を満たす患者と満たさない長期入院患者の self-stigma と認知機能障害に関する研究
○小松 浩、大野 高志、米田 芳則、石田 雄介、榎 貴浩、長谷 諭、大場 綾希子、手代木 理、鈴木 明、森 康子、庄司 盟子、藤田 亨、五十嵐 佳代子、坂本 洋生、尾崎 伸也、本間 竜太、角藤 芳久
宮城県立精神医療センター精神科
- 2-P16-2 当科精神科スーパー救急病棟における統合失調症措置入院症例の抗精神病薬処方調査
○下出 崇輝、松岡 孝裕、松尾 幸治
埼玉医科大学病院神経精神科
- 2-P16-3 統合失調症の機能的予後と服薬アドヒアランスの関係
○石井 洵平¹、小高 文聡²、宮田 久嗣³、瀬戸 光³、稲村 圭亮²、中村 咲美¹、山寺 亘¹、繁田 雅弘²
¹東京慈恵会医科大学葛飾医療センター精神神経科、²東京慈恵会医科大学附属病院、³公益財団法人復光会総武病院
- 2-P16-4 統合失調症急性期の入院治療結果
○長沼 英俊
雁の巣病院医療部
- 2-P16-5 長期罹患統合失調症にみられる認知症症状の背景病理の探索
○平野 光彬^{1,2}、鳥居 洋太^{2,3}、藤城 弘樹²、関口 裕孝⁴、羽瀧 知可子⁵、三輪 綾子³、合澤 祐⁵、吉田 眞理⁶、入谷 修司²、尾崎 紀夫²
¹医療法人豊和会南豊田病院、²名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、³特定医療法人八誠会もりやま総合心療病院、⁴桶狭間病院藤田こころケアセンター、⁵愛知県精神医療センター、⁶愛知医科大学加齢医学研究所

一般演題（ポスター）17

統合失調症 5

- 2-P17-1 パリペリドンが奏功した遅発パラフレニーの一例
○朝倉 有香、内藤 暢茂、宮下 翔伍、菊知 充、坪本 真
金沢大学附属病院神経精神科
- 2-P17-2 持効性注射剤導入後の忍容性に対する考察：ケースシリーズ
○後藤 将之、野崎 途也、刑部 有祐、浅野 太志、泉 竜太、森 湧平、鈴木 二妙香、板垣 俊太郎、三浦 至、矢部 博興
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
- 2-P17-3 ドパミン過感受性を有する統合失調症患者におけるブロナンセリンの実薬対照無作為化試験 (ROADS study)
○新津 富央¹、畑 達記^{1,2}、西本 雅彦³、細田 豊^{1,2}、木村 敦史¹、小田 靖典¹、鈴木 正利⁴、高瀬 直子¹、関 亮太^{1,5}、藤田 潔⁶、遠藤 貢⁷、吉田 泰介⁷、井上 雅之⁷、服部 徳昭⁷、村上 忠⁷、今村 幸嗣⁷、小川 耕平⁷、深見 悟郎⁷、佐藤 喬俊⁸、川崎 洋平⁸、橋本 佐^{1,7}、石川 雅智¹、椎名 明大^{1,9}、金原 信久^{1,9}、伊豫 雅臣^{1,9}
¹千葉大学大学院医学研究院精神医学、²医療法人社団松伯会藤田病院、³医療法人社団青木末次郎記念会相州病院、⁴医療法人社団澄心会茂原神経科病院、⁵医療法人同和会千葉病院、⁶桶狭間病院藤田こころケアセンター、⁷The ROADS study group、⁸千葉大学医学部附属病院臨床試験部、⁹千葉大学社会精神保健教育研究センター
- 2-P17-4 DSP-5423 (blonanserin 経口剤) の小児統合失調症患者を対象とした検証的試験
○中村 洋¹、石郷岡 純²、杉本 沙織¹、久田 昭文¹、齊藤 卓弥³
¹大日本住友製薬株式会社、²CNS薬理研究所、³北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門

2-P17-5

急性増悪期の統合失調症患者を対象としたルラシドンのプラセボ対照二重盲検比較による第3相検証的試験成績○伊豫 雅臣¹、石郷岡 純²、中村 将俊³、坂口 玲子⁴、岡本 恵佑^{5,8}、野坂 忠史⁶、樋口 輝彦^{7,8}¹千葉大学大学院医学研究院精神医学、²CNS薬理研究所、³大日本住友製薬株式会社データサイエンス部、⁴大日本住友製薬株式会社臨床企画部、⁵大日本住友製薬株式会社臨床推進部、⁶大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、⁷日本うつ病センター、⁸国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター**一般演題（ポスター）18****気分障害 3**

2-P18-1

一般成人における幼少期にいじめられた体験が成人期のうつ症状に与える複合的要因の検討

○石井 義隆、梶屋 二郎、井上 猛

東京医科大学病院メンタルヘルス科

2-P18-2

小児期虐待、特性不安が反芻に及ぼす影響：重回帰分析による解析

○出口 彩香、井上 猛

東京医科大学病院メンタルヘルス科

2-P18-3

日常生活における日中光曝露と双極性障害のうつ症状との関連：APPLE コホートスタディからの横断解析○江崎 悠一^{1,2}、大林 賢史³、佐伯 圭吾³、藤田 潔^{1,4}、岩田 伸生²、北島 剛司²¹桶狭間病院藤田こころケアセンター精神科、²藤田保健衛生大学病院精神科、³奈良県立医科大学医学部疫学・予防医学講座、⁴特定非営利活動法人脳神経オーダーメイド医療研究センター

2-P18-4

双極性障害患者のライフイベントに関連した心理的苦悩症状と気分・感情との関係○佐藤 愛子¹、橋本 佐^{2,4}、木村 敦史^{1,2}、新津 富央^{1,2}、田中 麻未³、伊豫 雅臣^{1,2}¹千葉大学医学部附属病院精神神経科、²千葉大学大学院医学研究院精神医学、³千葉大学社会精神保健教育研究センター、⁴社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院

2-P18-5

リカバリーセンター -大学病院精神科における気分障害・不安障害からのリカバリー支援の取り組み-榊原 英輔¹、○山路 陽子¹、金原 明子²、松岡 潤¹、川上 慎太郎²、森田 正哉²、矢野 健一³、清野 知樹²、浅井 竜朗²、木内 拓²、石浦 朋子¹、近藤 伸介¹¹東京大学医学部附属病院精神神経科、²東京大学大学院医学系研究科、³東京大学医学部附属病院リハビリテーション部**一般演題（ポスター）19****気分障害 4**

2-P19-1

<演題取り下げ>

2-P19-2

大うつ病性障害から双極Ⅱ型障害へ診断変更となった患者の予後調査○本多 笑奈¹、福本 健太郎¹、三條 克巳¹、水谷 歩未^{1,2}、松下 祐¹、藤原 碧¹、柿坂 佳菜恵¹、大塚 耕太郎¹¹岩手医科大学神経精神科学講座、²八戸赤十字病院

2-P19-3

双極性障害と大うつ病性障害患者の認知機能

○松尾 淳子、石田 一希、平石 萌子、太田 深秀、秀瀬 真輔、堀 弘明、寺石 俊哉、蓬田 幸人、功刀 浩

国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病三部



2-P19-4 大うつ病性障害患者における電気けいれん療法後の再入院・自殺既遂予測因子に関する研究－症例対照研究－

○稲川 優多、加藤 梨佳、岡田 剛史、塩田 勝利、小林 聡幸、須田 史朗
自治医科大学精神医学講座

2-P19-5 <演題取り下げ>

一般演題（ポスター）20 神経生理学・神経科学

2-P20-1 意識障害の病態生理の解明に向けた TMS-EEG 研究の系統的レビュー

○新井 脩泰¹、中西 智也²、李 雪梅¹、和田 真孝¹、宮崎 貴浩¹、中島 振一郎¹、三村 将¹、野田 賀大¹
¹慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、²東京大学大学院身体運動科学研究室

2-P20-2 統合失調症における聴覚変化応答とその抑制

○元村 英史^{1,2}、河野 修大²、乾 幸二³、岡田 元宏²
¹三重大学医学部附属病院、²三重大学大学院医学系研究科精神神経科学分野、³愛知県医療療育総合センター発達障害研究所障害システム研究部

2-P20-3 統合失調症の COMT Val108/158Met 遺伝子多型と Taq1A 遺伝子多型が Mismatch Negativity に与える影響について

○堀越 翔^{1,2}、志賀 哲也^{2,3}、星野 大³、落合 晴香³、野崎 啓子³、菅野 和子³、金子 春香^{3,4}、三浦 至³、矢部 博興³
¹ほりこし心身クリニック、²福島県厚生農業協同組合連合会塙厚生病院、³福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、⁴公益財団法人星総合病院星ヶ丘病院

2-P20-4 <演題取り下げ>

2-P20-5 シナプス形成におけるキナーゼ阻害剤の影響について

○江川 純¹、レモン ヴァンス²、染矢 俊幸¹
¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²マイアミ大学医学部神経外科

一般演題（ポスター）21 依存・行動嗜癖 1

2-P21-1 総合病院におけるアルコール健康障害への取り組みと、その効果について

○角南 隆史¹、花房 喜代治¹、渡邊 浩子¹、石井 博修¹、杠 岳文²
¹地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館、²独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

2-P21-2 問題飲酒者に対するオンライン版飲酒日記の有効性の評価（パイロット RCT）

○角南 隆史¹、宋 龍平²、石井 博修¹、貞嶋 栄司¹、上野 雄文³、杠 岳文³、門司 晃⁴
¹地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館、²地方独立行政法人岡山県精神科医療センター、³独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、⁴佐賀大学医学部精神医学講座

2-P21-3 <演題取り下げ>

2-P21-4 桶狭間病院藤田こころケアセンターにおける依存症疾患への取り組み

○萩倉 美奈子、萩倉 祥一、藤田 潔
桶狭間病院藤田こころケアセンター精神科

2-P21-5 依存症治療プログラム参加の有無に伴う看護職者の態度について

○菊地 佑、角田 智哉、橘高 一
福島県立矢吹病院精神科

一般演題（ポスター）22**依存・行動嗜癖 2****2-P22-1 東京医科歯科大学におけるネット依存外来の現状**

○治徳 大介、小林 七彩、中島 涼子、門田 昇憲、杉原 玄一、高橋 英彦
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野

2-P22-2 成人の勤労者におけるインターネット使用時間と、ネット依存度・抑うつ・パーソナリティ傾向との関連

○松尾 敬太郎、香月 亮子、久保 浩明、加藤 隆弘
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

2-P22-3 医療観察法通院処遇における物質使用障害～今後の有効な地域処遇に向けて

○武田 俊信¹、長谷川 直実²、石塚 伸一³
¹龍谷大学文学部、²医療法人社団ほっとステーション大通公園メンタルクリニック、³龍谷大学法学部

2-P22-4 高齢者の飲酒に関する地域差の実態国民生活基礎調査の結果より

○翠川 晴彦^{1,2}、太刀川 弘和^{3,4}、渡邊 多永子⁵、新井 哲明⁶、田宮 菜奈子^{4,5}
¹筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻、²医療法人社団有朋会栗田病院、
³筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学、⁴筑波大学ヘルスサービス開発研究センター、
⁵筑波大学医学医療系保健医療学域ヘルスサービスリサーチ分野、⁶筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

2-P22-5 メチルフェニデートと心理教育プログラムが有効だった、万引きを繰り返すゲーム障害の一例

○小林 七彩、中島 涼子、門田 昇憲、治徳 大介、杉原 玄一、高橋 英彦
東京医科歯科大学医学部附属病院東京医科歯科大学医学部精神科

一般演題（ポスター）23**児童・思春期・発達障害 3****2-P23-1 最後通牒ゲームにおける他者の視線の影響：注意欠陥多動症と健常者の比較**

○幾瀬 大介、新井 豪佑、佐賀 信之、林 若穂、花輪 洋一、岩波 明
学校法人昭和大学附属烏山病院精神科

2-P23-2 ADHDの臨床症状と、マインド・ワンダリングおよび sensation seeking との関連について

○富田 秋沙¹、高橋 茜里¹、平田 亮人¹、岡島 由佳¹、佐賀 信之²、岩波 明²
¹昭和大学病院附属東病院精神神経科、²昭和大学附属烏山病院

2-P23-3 <演題取り下げ>**2-P23-4 <演題取り下げ>**



2-P23-5

ひきこもり状態を呈する成人発達障害者の特徴について

○橘 知之¹、小峰 洋子^{2,4}、岩見 有里子¹、太田 晴久^{1,2}、加藤 進昌^{2,3}、岩波 明¹

¹昭和大学附属烏山病院精神科、²昭和大学発達障害医療研究所、³公益財団法人神経研究所附属晴和病院、

⁴聖心女子大学

一般演題（ポスター）24

児童・思春期・発達障害 4

2-P24-1

<演題取り下げ>

2-P24-2

5歳児発達健診 Web スクリーニングシステム（ここあぽ）の完成

○斉藤 まなぶ^{1,6}、田中 勝則²、山村 靖彦³、和久田 学^{1,4}、大里 絢子^{1,6}、足立 匡基^{5,6}、三上 珠希⁶、坂本 由唯¹、照井 藍¹、森 裕幸^{1,6}、新川 広樹⁶、高橋 芳雄^{5,6}、栗林 理人^{5,6}、中村 和彦^{1,6}

¹弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、²北海学園大学、³(株) サーベイリサーチ、

⁴大阪大学大学院連合小児発達研究科、⁵弘前大学保健学研究科心理支援学科、

⁶弘前大学子どものこころの発達研究センター

2-P24-3

発達障害圏患者の就労者/非就労者の差異について：WAIS-III による検討

○井田 逸朗、石井 あかね、村山 侑里

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター精神科

2-P24-4

地域精神科病院における発達障害の入院加療に対する現状と課題

○田畑 倫代¹、辻 富基美²、船井 翔平¹、北畑 雄大³、小池 なお美²、山野井 亮太¹、喜多 彬²、坂本 友香¹、小野 紀夫¹、糸川 秀彰¹、鵜飼 聡²

¹紀南こころの医療センター精神神経科、²和歌山県立医科大学神経精神医学教室、³和歌山県立こころの医療センター

一般演題（ポスター）25

児童・思春期・発達障害 5

2-P25-1

<演題取り下げ>

2-P25-2

実習失敗から適正を見直し良好な社会適応を得た性別違和と自閉スペクトラム症を合併した一例

○伊豆原 宗人¹、林田 麻衣子¹、伊豆原 久枝²、伊藤 司¹、佐藤 皓平¹、錦織 光¹、松田 泰行¹、金山 三紗子¹、三浦 章子¹、山下 智子¹、長濱 道治¹、大舘 孝治¹、橋岡 禎征¹、和氣 玲¹、稲垣 正俊¹

¹島根大学医学部附属病院精神医学講座、²島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センター

2-P25-3

スーパー救急病棟に入院した発達障害の臨床的特徴

○宇野 宏光、中村 暖、幾瀬 大介、新井 豪佑、佐賀 信之、森井 智美、林 若穂、花輪 洋一、青柳 啓介、岩見 有里子、山田 浩樹、岩波 明

昭和大学医学部精神医学講座

2-P25-4

近赤外線スペクトロスコピーで測定した小児自閉スペクトラム症における前頭前野の血行動態反応の減少

○浦谷 光裕^{1,2}、太田 豊作²、飯田 順三³、岡崎 康輔²、山室 和彦²、中西 葉子⁴、岸本 直子²、金田 東奎²、中島 史裕²、南 昭宏²、藤本 侑花²、岸本 年史²

¹医療法人南風会万葉クリニック、²奈良県立医科大学精神医学講座、³奈良県立医科大学看護学科人間発達学、

⁴医療法人鴻池会秋津鴻池病院

一般演題（ポスター）26

コンサルテーション・リエゾン 1

- 2-P26-1 **日本における術後せん妄患者に対する薬物療法と精神科医の介入**
 ○野田 由記^{1,2}、桜澤 邦男²、伏見 清秀³、藤森 研司²
¹東北会病院精神科、²東北大学大学院医学系研究科医療管理学、³東京医科歯科大学大学院医療政策情報学
- 2-P26-2 **コンサルテーション依頼時におけるせん妄患者のベンゾジアゼピン系薬剤の使用状況**
 ○森本 拓頌、廣瀬 智之、柳 雅也、丹羽 篤、土屋 有希、山形 祥礼、阪中 聡一郎、細見 史治、
 明石 浩幸、辻井 農重、白川 治
 近畿大学医学部精神神経科学教室
- 2-P26-3 **総合病院における、せん妄対策の取り組みと今後の課題**
 ○石井 博修、角南 隆史、花房 喜代治、松尾 真樹、八谷 由貴、岩村 昌子
 佐賀県医療センター好生館精神科
- 2-P26-4 **植込み型補助人工心臓の頻回な操作管理トラブルが、循環動態悪化に伴う低活動型せん妄で引き起こされた一例**
 ○刑部 有祐¹、加藤 郁子²、佐藤 崇匡³、東雲 紀子⁴、三浦 至¹、矢部 博興¹
¹福島県立医科大学神経精神医学講座、²福島県立医科大学看護学部、³福島県立医科大学循環器内科学講座、
⁴福島県立医科大学附属病院看護部
- 2-P26-5 **総合病院精神科外来における集団認知行動療法の効果 -抑うつ改善に関わる認知傾向について-**
 ○星山 晋太郎¹、澤口 範真²、引間 涼子²、黒木 明信²、畑山 恵美子²、大西 雄一¹、三上 克央¹、
 山本 賢司¹
¹東海大学医学部専門診療学系精神科学、²東海大学医学部付属病院診療技術部診療技術科

一般演題（ポスター）27

コンサルテーション・リエゾン 2

- 2-P27-1 **緩和ケアとの連携により末期がんの苦痛を軽減できた統合失調症の一例**
 ○黒川 義博¹、荒木 裕登²、齋藤 真一¹、齋藤 純一¹
¹松阪厚生病院精神科、²松阪厚生病院内科
- 2-P27-2 **心理社会的困難を有する妊産婦支援における実母の影響**
 ○小川 道¹、橋本 佐¹、田中 麻未²、橘 真澄¹、関 亮太¹、佐藤 愛子¹、岡山 潤⁴、遠藤 真美子⁵、
 齋藤 直樹⁶、佐藤 泰憲⁸、渡邊 博幸²、中里 道子¹、森 恵美⁷、生水 真紀夫³、伊豫 雅臣¹
¹千葉大学医学部附属病院精神神経科、²千葉大学社会精神保健教育研究センター、
³千葉大学大学院医学研究院生殖医学講座、⁴千葉大学医学部附属病院周産期母性科、
⁵千葉大学大学院医学研究院小児病態学、⁶千葉大学大学院医学研究院附属法医学研究教育センター、
⁷千葉大学大学院看護学研究科リプロダクティブヘルス看護学、⁸慶應大学医学部衛生学公衆衛生学教室
- 2-P27-3 **産後4週目の抑うつに影響する背景因子の検討 -2週目健診の有用性も含めて-**
 ○寒川 尚登、長尾 達憲、石川 亮、増田 慶一、板垣 圭、和田 健
 広島市立広島市民病院精神科
- 2-P27-4 **維持透析を継続することができたせん妄を呈した認知症疾患の2例**
 ○萩倉 祥一、萩倉 美奈子、藤田 潔
 桶狭間病院藤田こころケアセンター精神科
- 2-P27-5 **<演題取り下げ>**



一般演題（ポスター）28 コンサルテーション・リエゾン3

- 2-P28-1 **精神科単科病院での、総合病院内科医との多職種回診の試み：成果と課題**
○千葉 洋平¹、千石 利広¹、牧口 幸一¹、坂本 隆¹、吉田 宏美¹、武田 修¹、森山 奈津子¹、
吉田 和佳子¹、竹内 一仁²、関谷 修¹
¹津軽保健生活協同組合藤代健生病院医局、²津軽保健生活協同組合健生病院
- 2-P28-2 **身体合併症を有する精神疾患患者の入院治療に関する実態－一般病棟、救命救急センター、精神科病棟での比較－**
○増田 慶一、長尾 達憲、寒川 尚登、石川 亮、板垣 圭、和田 健
広島市立広島市民病院精神科
- 2-P28-3 **身体疾患患者の抑うつと栄養状態との関係について**
○富田 絢¹、小田嶋 朋子¹、齋藤 諒将¹、星山 晋太郎¹、赤間 史明¹、大西 雄一¹、三上 克央¹、
須藤 武司¹、浅井 さとみ³、柳 秀高²、沖 将行²、小澤 秀樹²、松本 英夫¹、山本 賢司¹
¹東海大学医学部医学科専門診療学系精神科学、²東海大学医学部医学科内科学系総合内科学、
³東海大学医学部医学科基盤診療学系臨床検査学
- 2-P28-4 **<演題取り下げ>**
- 2-P28-5 **透析患者のうつ病・うつ状態の鑑別について～CES-D による診断ツールの開発～**
○片貝 公紀¹、富田 哲¹、古郡 規雄²、斎藤 久夫³、中村 和彦¹
¹弘前大学附属病院神経精神医学講座、²獨協医科大学病院、³鷹揚郷腎研究所弘前病院

一般演題（ポスター）29 ECT・ニューロモデュレーション1

- 2-P29-1 **右片側性超短パルス波で ECT を施行しせん妄を予防できた反復性うつ病の一例**
○染谷 知恵、河野 正晴、岡野 宏紀、久保田 涼太郎、廣瀬 正義、日吉 史一、林 大祐、
稲川 拓磨、池澤 聰、佐竹 直子、野田 隆政
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
- 2-P29-2 **術前の胸部単純 CT が ECT 中の心筋虚血の予測と予防に有効であった 2 症例**
○栗本 直樹^{1,2}、山田 麻紀¹、北野 雅史¹、尾池 祐輝¹、栗本 律子³、栗本 藤基¹
¹医療法人藤樹会滋賀里病院精神科、²医療法人藤樹会滋賀里病院麻酔科、³洛和会音羽病院心臓内科
- 2-P29-3 **電気けいれん療法後に症状の再燃をみとめた 1 症例に対する画像的考察**
○坂寄 健、増岡 孝浩、荒川 亮介、舘野 周、大久保 善朗
日本医科大学付属病院精神神経科
- 2-P29-4 **ECT に増強療法を要した 3 症例の報告**
○廣瀬 正義、野田 隆政、佐竹 直子、池澤 聰、稲川 拓磨、宇佐美 貴士、林 大祐、河野 正晴、
日吉 史一、久保田 涼太郎、岩田 遼、岡野 宏紀、庄司 昂、染谷 知恵
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院第一精神診療部
- 2-P29-5 **無投薬下の ECT で躁症状が改善した双極Ⅰ型障害の一例**
○榎田 嵩子、野田 隆政、宇佐美 貴士、佐竹 直子、中込 和幸
国立精神・神経医療研究センター病院精神科

一般演題（ポスター）30

ECT・ニューロモデュレーション2

- 2-P30-1 **電気けいれん療法の Postical Suppression Index と関連する因子についての検討**
○佐藤 由英、古郡 規雄、大和田 環、北林 佳晃、横山 宜史、藤平 明広、菅原 典夫、下田 和孝
獨協医科大学病院精神神経科
- 2-P30-2 **電気けいれん療法における同一コース中の刺激用量上昇に関与する因子の検討**
○大和田 環、古郡 規雄、北林 佳晃、佐藤 由英、横山 宜史、藤平 明広、菅原 典夫、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座
- 2-P30-3 **ECT における有効けいれん発作を包括的に評価する SQC を用いた LEBAB project について**
○青木 宣篤¹、嶽北 佳輝¹、西本 大樹¹、越川 陽介¹、川島 啓嗣²、諏訪 太郎^{1,2}、木下 利彦¹
¹関西医科大学総合医療センター精神神経科、²京都大学医学部附属病院
- 2-P30-4 **本邦における継続・維持 ECT のアンケート調査報告**
○青木 宣篤¹、嶽北 佳輝¹、川島 啓嗣²、諏訪 太郎²、木下 利彦¹、和田 健³
¹関西医科大学総合医療センター精神神経科、²京都大学医学部附属病院、³広島市立広島市民病院精神科
- 2-P30-5 **ECT における各背景因子が発作の質におよぼす影響について -SQC を用いた後方視研究-**
○青木 宣篤、西本 大樹、田中 優樹、嶽北 佳輝、木下 利彦
関西医科大学総合医療センター精神神経科

一般演題（ポスター）31

研修医・医学部生演題

- 2-P31-1 **水害後のメンタルヘルスでは被災格差が抑うつリスクとなる -常総市水害における GIS 空間データ分析-**
○岡本 雄太¹、太刀川 弘和²、翠川 晴彦³、螺良 美波⁴、田口 高也²、高橋 晶²、新井 哲明⁵
¹医療法人社団常仁会牛久愛和総合病院、²筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学、
³筑波大学人間総合科学研究科疾患制御医学専攻精神医学分野、⁴筑波大学医学群医学類、
⁵筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
- 2-P31-2 **リチウムにより腎機能障害を生じ、透析加療を要した双極性感情障害の一例**
○水野 公仁¹、倉持 泉¹、志賀浪 貴文¹、谷本 夏妃²、平田 吾一²、松岡 孝裕²、松尾 幸治²、
吉益 晴夫²
¹埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック、²埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
- 2-P31-3 **ヒトの社会認知に関する機能的神経画像研究**
○津田 彩也香、川崎 康弘、松岡 芽生、藤田 季来々、西藤 篤城、上原 隆、長澤 達也、
嶋田 貴充、片岡 譲
金沢医科大学精神神経科科学
- 2-P31-4 **レビー小体型認知症に併存する精神症状に対し、右片側配置超短パルス波電気けいれん療法を施行した1例**
○神田 慧一²、五十嵐 江美¹、佐熊 惇¹、飯塚 邦夫¹、富田 博秋¹
¹東北大学病院、²東北大学
- 2-P31-5 **患者のうつ病心理教育の実態および理解度と処方内容；抗精神病薬について**
○青山 修平¹、富田 哲¹、島 貴子¹、渡辺 俊¹、古郡 規雄²、工藤 周平³、菅原 典夫²、藤井 学⁴、
敦賀 光嗣⁵、佐藤 靖⁶、石岡 雅道⁷、中村 和彦¹
¹弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、²獨協医科大学精神神経医学講座、³八戸市立市民病院、
⁴つがる総合病院、⁵青森県立つくしが丘病院、⁶大館市立総合病院、⁷札幌トロイカ病院



9月30日(水) A会場

8:30～10:30

委員会シンポジウム 22 (性同一性障害に関する委員会)

トランスジェンダー、性別不合 gender incongruence/性別違和の就労問題

司会：太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
康 純 大阪医科大学附属病院

CS22-1

精神科外来で見聞するトランスジェンダーと職場の問題

○松本 洋輔
岡山大学病院ジェンダーセンター

CS22-2

トランスジェンダーの就労の法的問題(経済産業省事件)

○山下 敏雅
永野・山下法律事務所

CS22-3

野村ホールディングスのLGBTに対する取り組みについて

○北村 裕介
野村ホールディングス株式会社

CS22-4

トランスジェンダーの就職活動における課題

○薬師 実芳
認定特定非営利活動法人ReBit

CS22-5

〔指定発言〕

○及川 卓
及川心理臨床研究所

〈コーディネーター〉 松本 洋輔 岡山大学病院ジェンダーセンター
康 純 大阪医科大学附属病院

10:40～12:40

シンポジウム 79

精神科産業医養成プログラムの必須アイテムをめぐって

司会：工藤 喬 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター精神科
黒木 宣夫 勝田台メディカルクリニック

S79-1

精神科産業医に必要な労働関係法制度

○田中 克俊
北里大学大学院医療系研究科医学専攻産業精神保健学

S79-2

メンタルヘルス不調者の治療就労両立支援に必要な連携情報は何か？

○小山 文彦
東邦大学医療センター佐倉病院産業精神保健・職場復帰支援センター

S79-3

精神科産業医の業務遂行能力、関係構築能力に関して

○渡辺 洋一郎
医療法人メディカルメンタルケア横山・渡辺クリニック

S79-4

職場内・職場外との連携力をめぐって

○神山 昭男
医療法人社団桜メデイスン有楽町桜クリニック

S79-5

〔指定発言〕

○井上 幸紀
大阪市立大学医学部附属病院

S79-6

〔指定発言〕

○大野 裕
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈コーディネーター〉 工藤 喬 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター精神科
神山 昭男 桜メデイスン産業保健サポートセンター

13:10～15:10

シンポジウム 89

双極症（双極性障害）の薬物療法を安全に行うために

司会：鈴木 映二 東北医科薬科大学病院
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部付属病院

S89-1

双極症（双極性障害）治療薬の相互作用

○鈴木 映二
東北医科薬科大学医学部精神科学教室

S89-2

双極症治療薬の不適正使用と重篤な副作用

○山田 和男
東北医科薬科大学病院精神科

S89-3

救急医療施設に搬送される慢性リチウム中毒およびリチウム誘発性腎性尿崩症

○上條 吉人
埼玉医科大学病院救急科

S89-4

双極症治療薬の危険性を含めた情報を当事者とシェアするためには

○渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 鈴木 映二 東北医科薬科大学病院
山田 和男 東北医科薬科大学病院



9月30日(水) B会場

8:30~9:30

特別講演 5

同時通訳(E↔J)

司会：前田 正治 福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座

SL5

The Rewards and Risks of Disaster Psychiatry

○Craig L. Katz

Clinical Professor, Psychiatry, Medical Education, and System Design and Global Health, Icahn School of Medicine at Mount Sinai



11:50~12:50

教育講演 13

司会：内山 真 日本大学医学部精神医学

EL13

精神医学に睡眠学はいかに貢献するか

○三島 和夫^{1,2}

¹秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座、²WPI-IIS筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構



13:10~15:10

シンポジウム 90

光トポグラフィー (NIRS) 検査の有用性と問題点

司会：野田 隆政 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
宮内 哲 国立研究開発法人情報通信研究機構

S90-1

NIRS の臨床応用の実際

○河野 創一^{1,2}、菅野 和子²、青木 俊太郎³、藤原 達雄⁴、阿部 和道⁴、高橋 敦史⁴、一條 靖洋⁵、
義久 精臣⁵、三浦 至²、矢部 博興²

¹一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院精神科、²福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、

³福島県立医科大学医療人育成・支援センター、⁴福島県立医科大学医学部消化器内科学講座、

⁵福島県立医科大学医学部循環器内科学講座

S90-2

日常臨床における NIRS の活用

○野田 隆政^{1,2}

¹国立精神・神経医療研究センター病院精神科、

²国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター臨床脳画像研究部臨床光画像研究室

S90-3

光トポグラフィー検査による精神疾患診断(補助)の問題点

○宮内 哲

国立研究開発法人情報通信研究機構

〈コーディネーター〉 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

9月30日(水) C会場

8:30~10:30

シンポジウム 69

精神科医からみた口腔領域の身体症状 -難しく避けられがちな病態に立ち向かう-

司会：宮岡 等

北里大学医学部精神科学

S69-1

精神科医が口腔症状を診療する課題

○富永 敏行

京都府立医科大学大学院医学系研究科精神機能病態学

S69-2

歯科医師との連携

○宮地 英雄

北里大学健康管理センター

S69-3

口腔領域の慢性疼痛に対する精神科リエゾン

○木村 宏之

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

S69-4

口腔内の身体症状の病態および治療戦略を考える -精神科外来における身体症状症への薬物療法の立場から-

○名越 泰秀

京都第一赤十字病院精神科（心療内科）

〈コーディネーター〉

名越 泰秀

京都第一赤十字病院精神科（心療内科）

富永 敏行

京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

10:40~12:40

委員会シンポジウム 26（ガイドライン検討委員会）

統合失調症に合併する肥満・糖尿病ガイドをどのように臨床に応用するのか

司会：久住 一郎

北海道大学病院精神科神経科

古郡 規雄

獨協医科大学精神神経医学講座

CS26-1

多職種連携による統合失調症患者の肥満・メタボリックシンドロームへの対応

○鈴木 雄太郎^{1,2}¹新潟大学医歯学総合病院、²医療法人敬愛会末広橋病院

CS26-2

統合失調症に合併する肥満について、どのように対処するのか？

○菅原 典夫

獨協医科大学精神神経医学講座

CS26-3

統合失調症に合併する肥満・糖尿病ガイドをどのように臨床に応用するのか -内科の立場から-

○佐倉 宏

東京女子医科大学東医療センター

CS26-4

統合失調症に合併する肥満・糖尿病：実臨床での課題

○村井 俊哉

京都大学大学院医学研究科精神医学教室

CS26-5

【指定発言】

○佐久間 啓

社会医療法人あさかホスピタル

〈コーディネーター〉

古郡 規雄

獨協医科大学精神神経医学講座

久住 一郎

北海道大学病院精神科神経科



13:10～15:10

シンポジウム 91

明日から出来る摂食障害の外来治療～中堅医師からコツを伝授します～

司会：田村 奈穂 国立国際医療研究センター国府台病院
 竹林 淳和 浜松医科大学医学部附属病院精神神経科

S91-1

摂食障害外来患者の身体管理について

○田村 奈穂
国立国際医療研究センター国府台病院心療内科

S91-2

摂食障害の外来診療ガイド

○竹林 淳和
浜松医科大学医学部附属病院精神神経科

S91-3

摂食障害外来診療に応用可能な CBT-E の技法の大切な要素

○高倉 修
九州大学病院心療内科

S91-4

摂食障害治療における医療機関連携の現状について 精神科医の立場から

○山内 常生
大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

〈コーディネーター〉 井上 幸紀 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
 田村 奈穂 国立国際医療研究センター国府台病院

9月30日(水) D会場

8:30~10:30 **委員会シンポジウム 23** (男女共同参画推進委員会)
ともに働きやすい社会へ -女性精神科医のさらなる活躍をめざす

司会：加茂 登志子 若松町こころとひふのクリニック
榎戸 美佐子 谷野呉山病院

CS23-1 学術分野における女性の活躍および男女共同参画推進：2017年および2019年調査の比較から
○安藤 久美子
聖マリアンナ医科大学病院神経精神科学教室

CS23-2 <演題取り下げ>

CS23-3 <演題取り下げ>

CS23-4 <演題取り下げ>

CS23-5 【指定発言】
○穴水 幸子
慶応義塾大学医学部精神神経科学教室

CS23-6 【指定発言】
○早苗 麻子
医療法人社団萌クリニック

CS23-7 【指定発言】
○安川 節子
熊本ファミリーメンタルクリニック

CS23-8 【指定発言】
○布施 泰子
茨城大学保健管理センター

CS23-9 【指定発言】
○三原 伊保子
三原ダイケア+クリニックりぼん・りぼん

<コーディネーター> 安藤 久美子 聖マリアンナ医科大学病院神経精神科学教室
加茂 登志子 若松町こころとひふのクリニック



10:40~12:40

シンポジウム 80

患者の自動車運転に関するガイドライン再考 -患者にとって良いアドバイスとは-

司会：松尾 幸治 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
中林 哲夫 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

S80-1 患者の自動車運転に関する精神科医のためのガイドラインのポイント

○松尾 幸治
埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

S80-2 向精神薬を服薬する精神疾患患者の自動車運転 -証左に基づいて処方医が注意すべきこと

○岩本 邦弘
名古屋大学医学部附属病院精神科

S80-3 産業現場からみた精神疾患患者における自動車運転可否の判断の難しさ

○小西 勇輝
産業医科大学精神医学教室

S80-4 高齢ドライバの人間・運転特性データベース「DAHLIA」から考える運転支援のありかた

○青木 宏文
名古屋大学

〈コーディネーター〉 松尾 幸治 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

13:10~15:10

シンポジウム 92

ベンゾジアゼピン系睡眠薬代替療法の可能性

司会：栗山 健一 国立研究開発法人国立精神神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部
高江洲 義和 杏林大学医学部精神神経科学教室

S92-1 ベンゾジアゼピン系睡眠薬を取り巻く国際状況と代替療法の必要性

○栗山 健一、吉池 卓也
国立研究開発法人国立精神神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部

S92-2 ベンゾジアゼピン系睡眠薬の有用性と有害性の科学的評価

○吉池 卓也、栗山 健一
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S92-3 メラトニン受容体作動薬およびオレキシン受容体拮抗薬の有用性と対象病態

○鈴木 正泰
日本大学医学部精神医学系

S92-4 鎮静系抗うつ薬・抗精神病薬の有用性と対象病態

○小曾根 基裕
久留米大学神経精神医学講座

S92-5 認知行動療法とその他の非薬物療法の有用性と対象病態

○高江洲 義和
杏林大学精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 栗山 健一 国立研究開発法人国立精神神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部
高江洲 義和 杏林大学医学部精神神経科学教室
内山 真 日本大学医学部精神医学系精神医学分野

9月30日(水) E会場

シンポジウム 70
取り下げ10:40~12:40 シンポジウム 81
精神医学における精神療法の専門性(サブスペシャリティ)司会：木村 宏之 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野
岡田 暁宜 名古屋工業大学保健センター

S81-1 精神医療における精神療法の一般性と専門性について -精神科医と精神療法家-

○岡田 暁宜
名古屋工業大学保健センター

S81-2 精神科専門医にとっての精神療法とは -サブスペシャリティ以前の精神療法-

○池田 暁史
文教大学人間科学部臨床心理学科

S81-3 日本精神分析的な精神医学会の認定制度について

○皆川 英明¹、衣笠 隆幸²
¹広島市精神保健福祉センター、²広島精神分析医療クリニック

S81-4 精神科医の基本的技能から専門的スキル：認知行動療法の観点から

○中川 敦夫^{1,2}
¹慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教育研修部門、²慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S81-5 【指定発言】

○森 隆夫
あいせい紀年病院〈コーディネーター〉 木村 宏之 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野
岡田 暁宜 名古屋工業大学保健センター13:10~15:10 シンポジウム 93
多機能型精神科診療所における包括的地域ケアの実践司会：窪田 彰 医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック
原 敬造 原クリニック

S93-1 多機能精神科診療所における地域包括ケア

○原 敬造
医療法人社団原クリニック

S93-2 多機能型精神科診療所による就労支援(生活支援)

○大嶋 正浩
医療法人社団至空会メンタルクリニック・ダダ

S93-3 多機能型精神科診療所における触法事例へのアプローチ

○長谷川 直実
医療法人社団ほっとステーション大通公園メンタルクリニック



S93-4

多機能型診療所における多職種アウトリーチの実践～ひきこもる人への支援を中心に～

○三家 英明
三家クリニック

S93-5

〔指定発言〕

○福田 祐典
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈コーディネーター〉 窪田 彰 医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック
原 敬造 原クリニック

9月30日(水) F会場

8:30~10:30

シンポジウム 71

児童虐待を予防する -産婦人科医、小児科医、精神科医のコラボレーション-

司会：上野 千穂 京都市児童福祉センター診療科児童精神科
相原 加苗 東大阪市立障害児者支援センター

S71-1

虐待予防のために精神科医ができること～周産期メンタルケア外来の実践から～

○菊地 紗耶¹、小林 奈津子^{1,2}、本多 奈美³、富田 博秋³¹東北大学病院精神科、²東北大学大学院医学系研究科精神看護学分野、³東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

S71-2

産科における胎児・児童虐待予防に向けた両親の支援と引継ぎの重要性

○西郡 秀和

福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター発達環境医学分野

S71-3

胎児・児童虐待対策・予防に向けた家族支援における小児科医の役割

○本村 知華子

国立病院機構福岡病院

S71-4

小児総合病院における複数診療科、多職種連携による虐待予防 -安定した精神状態での子育てを支援すること-

○三宅 和佳子

大阪母子医療センター子どものこころの診療科

〈コーディネーター〉 上野 千穂 京都市児童福祉センター診療科児童精神科
山下 浩 さいたま市子ども家庭総合センター

10:40~12:40

シンポジウム 82

被災地でのアウトリーチを中心とした精神保健活動の現状と課題 **ここ・から・なごみの活動から**

司会：原 敬造 原クリニック/震災こころのケア・ネットワークみやぎ
渡部 裕一 原クリニック/心の架け橋いわて

S82-1

被災地石巻圏での精神保健活動

○原 敬造

医療法人社団原クリニック

S82-2

岩手県大槌町におけるアウトリーチ型被災地支援～心の架け橋いわての活動から

○長谷川 朝穂^{1,2}、鈴木 満¹¹認定NPO法人心の架け橋いわて、²社会医療法人公徳会若宮病院

S82-3

福島県相双地区の震災後の孤立化しやすい住民への働きかけと課題

○米倉 一磨

NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会相馬広域こころのケアセンターなごみ

〈コーディネーター〉 原 敬造 原クリニック



13:10～15:10 シンポジウム 94

仮想症例から学ぶアルコール依存症の新ガイドラインと治療ゴール -断酒と減酒の実践的治療を考える-

司会：宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座
齋藤 利和 北仁会幹メンタルクリニック

S94-1 アルコール依存症の新ガイドラインと治療ゴール

○湯本 洋介
国立病院機構久里浜医療センター精神科

S94-2 症例 1：断酒が必要だが、動機づけが不十分なケース

○澤山 透
相模ヶ丘病院

S94-3 症例 2：減酒が第一選択となるケース：減酒治療の心理社会的治療とは

○宮田 久嗣
東京慈恵会医科大学精神医学講座

S94-4 症例 3：うつ病を合併するケース：精神科合併症がある場合、治療ゴールを修正するのか

○齋藤 利和
医療法人北仁会幹メンタルクリニック

S94-5 【指定発言】

○山下 悠毅
ライフサポートクリニック

〈コーディネーター〉 宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座

9月30日(水) H会場

8:30~9:30 一般演題(口演) 29
統合失調症 5

司会: 小田 康彦 一般財団法人みやぎ静心会国見台病院

3-029-1 緊張病症状が10年以上持続した統合失調症に対し、修正型電気けいれん療法を施行した1例

○戸山 茜¹、甲斐 利弘¹、引地 克仁¹、岡本 洋昭¹、粥川 朋哉¹、春原 敦¹、矢野 雄大¹、
大川 雄太郎¹、宮本 沙緒里²、古塚 大介¹¹大阪市立総合医療センター精神神経科、²大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

3-029-2 治療設定を工夫した統合失調症の親子の症例

○板倉 征史、岩田 正明、兼子 幸一

鳥取大学医学部脳神経医学講座精神行動医学分野

3-029-3 当院の第二世代LAIの使用状況 -特にパリペリドンLAI自験症例について

○根本 豊實

磯ヶ谷病院精神科

3-029-4 統合失調症に伴う緊張病にメマンチンが有効であった1例

○福田 春樹、安藤 泰善、佐川 悠毅、加藤 嘉明、清水 優、高橋 宏彰、大西 征司、小倉 盛崇、
長谷川 聖、日比野 浩之、北川 年一、高屋 淳彦

福井記念病院診療部

9:40~10:40 一般演題(口演) 31
統合失調症 6

司会: 岸本 泰士郎 慶應義塾大学医学部精神・神経科学講座

3-031-1 統合失調症におけるGABAA受容体に対する自己抗体及び新規自己抗体の解析

○塩飽 裕紀¹、中野 悠里¹、竹林 裕直²、寺崎 太洋²、高橋 英彦¹¹東京医科歯科大学大学院精神行動医学分野、²医療法人社団正慶会栗田病院

3-031-2 統合失調症における顕著性ネットワークとドパミンD2受容体占有率の関係: rs-fMRIによる予備的研究

○小高 文聰¹、宮田 久嗣¹、松島 理士²、畠 正真³、野口 景司³、石井 洵平¹、繁田 雅弘¹¹東京慈恵会医科大学精神医学講座、²東京慈恵会医科大学放射線医学講座、³東京慈恵会医科大学附属病院放射線部

3-031-3 NDBオープンデータを活用した我が国における高齢者に対する抗精神病薬の使用実態

○菊地 信示郎、吉村 健佑、山岸 一貴

千葉大学医学部附属病院

3-031-4 統合失調症患者における麻痺性イレウスと向精神薬の関連

○稲熊 徳也¹、灘谷 聡昭²、池本 正平³、井藤 佳恵¹¹東京都立松沢病院精神科、²東京都立松沢病院薬剤科、³東京都立松沢病院内科

3-031-5 統合失調症急性期における持続性注射剤の使用状況

○平野 弘美¹、花岡 晋平²、阿部 貴之²、椎名 雄一¹¹千葉県精神科医療センター薬剤検査部、²千葉県精神科医療センター



10:50～11:50 **一般演題（口演）33**
地域精神医療・精神科救急 1

司会：大塚 耕太郎 岩手医科大学神経精神科学講座

3-033-1 **地域関連機関と精神科医療の協働による中学校のメンタルヘルス対策事業**

○河邊 憲太郎^{1,2}、堀内 史枝^{1,2}、仲地 究^{1,2}、細川 里瑛^{1,2}、芳野 歩美^{1,2}、上野 修一¹

¹愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学、²愛媛大学医学部附属病院子どものこころセンター

3-033-2 **<演題取り下げ>**

3-033-3 **<演題取り下げ>**

3-033-4 **千葉市における外国人措置入院患者の実態**

○中西 健太¹、花岡 晋平²、水野 和佳子³、阿部 貴之²、石川 敬子²、大塚 正毅⁴、佐藤 ひとみ⁵、
深見 悟郎²、林 偉明³

¹社会医療法人北斗会さわ病院、²千葉県精神科医療センター、³千葉県精神保健福祉センター、⁴千葉市保健所、
⁵千葉市保健福祉局

3-033-5 **精神科救急における“MOBILE PCU”によるプレホスピタルケアの新たな取り組み 精神科ドクターカーの導入**

○関口 秀文、三丸 剛人、原 秀之、中島 政美

医療法人高柳会赤城病院

12:00～13:00 **一般演題（口演）35**
地域精神医療・精神科救急 2・その他

司会：菅野 智行 一般財団法人新田目病院

3-035-1 **単科精神科病院における身体疾患罹患による転院と院内死亡の実態 -栃木県内 19 病院の調査-**

○安田 学、小林 聡幸、佐藤 謙伍、齋藤 暢是、須田 史朗

自治医科大学精神医学教室

3-035-2 **大学病院精神科病棟における「身体拘束ゼロ」に向けた多職種協働の取り組み**

○宮城 美奈子、中村 美和、松田 美智代、近藤 伸介、笠井 清登

東京大学医学部附属病院

3-035-3 **妊婦のメンタルヘルスと出産を支援する携帯メール介入の効果の国際比較～日本とタイにおける効果の比較～**

○児玉 豊彦¹、大林 陽子²、宮田 千春²、新小田 春美²、村端 真由美²、中谷 三佳³、谷村 晋²、
太田 義勝⁴、杉浦 徳宏⁵、畑下 博世⁶、西出 りつ子²、成田 有吾²、門脇 文子²、片岡 三佳²、
石本 恭子⁷、山田 奈央⁸、池田 智明⁹、ピアヌート ブート¹⁰

¹産業医科大学産業保健学部看護学科、²三重大学大学院医学系研究科看護学専攻、

³三重大学大学院医学系研究科看護学専攻研究生、⁴三重大学大学院工学研究科情報工学専攻、

⁵三重大学総合情報処理センター、⁶東京医療保健大学看護学部、⁷川崎医療福祉大学医療技術学部、

⁸岐阜大学医学部看護学科、⁹三重大学大学院医学系研究科医学専攻、¹⁰チエンマイ大学看護学部

3-035-4 **重度のソルピデム使用障害に対し森田療法的アプローチを試みた一例**

○逸見 竜次、江口 寛、佐藤 守、大島 勇人、小曾根 基裕、内村 直尚

久留米大学神経精神医学講座

13:10～14:10 **一般演題（口演）37**
ECT・ニューロモデレーション

司会：一瀬 邦弘 医療法人聖美会多摩中央病院

- 3-037-1 老年期に初発したうつ病に対する電気けいれん療法の安全性、有効性、長期予後および認知機能への影響の検討**
○森川 文淑、昔農 雄太、飯田 愛弓、田端 一基、猪俣 光孝、直江 寿一郎
医療法人社団旭川圭泉会病院精神科医局
- 3-037-2 ECT（電気痙攣療法）mirror image 調査（統合失調症）**
○田中 康平
地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院診療部
- 3-037-3 ECT（電気痙攣療法）mirror image 調査（双極性障害・うつ病）**
○田中 康平
地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院診療部
- 3-037-4 脳波リアルタイムモニタリングによる ECT の刺激タイミングの最適化の試み**
○栗本 直樹^{1,2}、尾池 祐輝¹、北野 雅史¹、山田 麻紀¹、栗本 藤基¹
¹医療法人藤樹会滋賀里病院精神科、²医療法人藤樹会滋賀里病院麻酔科
- 3-037-5 精神病症状およびうつ病を伴うパーキンソン病患者に対する ECT 治療について**
○宮軒 将、岡田 滋裕、杉田 大輔、石丸 綾子、荒賀 哲也、渡邊 史恵、森 美佳、元木 郁代
新生病院精神科



9月30日(水) I会場

8:30~9:30

一般演題(口演) 30

精神保健福祉

司会：上野 修一 愛媛大学大学院医学系研究科

3-030-1

携帯メールを利用した産後の母親の育児支援に向けた取り組み

○児玉 豊彦¹、大林 陽子²、宮田 千春²、新小田 春美²、村端 真由美²、中谷 三佳³、谷村 晋²、
太田 義勝⁴、杉浦 徳宏⁵、畑下 博世⁶、西出 りつ子²、成田 有吾²、門脇 文子²、片岡 三佳²、
石本 恭子⁷、山田 奈央⁸、池田 智明⁹、ピアヌート ブート¹⁰

¹産業医科大学産業保健学部看護学科、²三重大学大学院医学系研究科看護学専攻、

³三重大学大学院医学系研究科看護学専攻研究生、⁴三重大学大学院工学研究科情報工学専攻、

⁵三重大学総合情報処理センター、⁶東京医療保健大学看護学部、⁷川崎医療福祉大学医療技術学部、

⁸岐阜大学医学部看護学科、⁹三重大学大学院医学系研究科医学専攻、¹⁰チェンマイ大学看護学部

3-030-2

岐阜県ひきこもり地域支援センターにおける相談記録の分析

○西尾 彰泰¹、安田 照美²

¹岐阜大学保健管理センター、²岐阜県精神保健福祉センター

3-030-3

行政から虐待認定を受けたにも関わらず市長同意の医療保護入院が認められなかった一例

○後藤 大智、清水 芳郎

社会医療法人北斗会さわ病院

3-030-4

外来医療機関におけるケースマネジメントサービス提供量の多い患者の特性と支援のあり方について

○小池 純子¹、山口 創生¹、長谷川 直実²、佐々木 渉²、川副 泰成³、藤井 千代¹

¹国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部、

²医療法人社団ほっとステーション大通公園メンタルクリニック、³総合病院国保旭中央病院

3-030-5

地域在住高齢者の認知機能低下に関する身体的フレイルの関与

○橋本 学、本村 啓介、杠 岳文、八尾 博史

独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

9:40~10:40

一般演題(口演) 32

疫学

司会：数井 裕光 高知大学医学部神経精神科学講座

3-032-1

自殺率低下における地域自殺対策緊急強化基金の重要性評価

○加藤 遼、岡田 元宏

三重大学大学院精神神経科学

3-032-2

精神科入院環境における暴力等の粗暴行為および違反行為に関する臨床疫学的研究

○綾仁 信貴¹、大矢 希¹、北岡 力¹、松本 佳大¹、森本 剛²、作間 未織²、武内 治郎²、成木 迅¹

¹京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、²兵庫医科大学臨床疫学

3-032-3

全都道府県および千葉県における認知症の入院患者数の将来予想~2020、2025、2030年の認知症患者数の分析~

○高橋 由美子^{1,2}、花岡 晋平²、阿部 貴之²、澁谷 孝之²、深見 悟郎²

¹医療法人社団直樹会磯ヶ谷病院、²千葉県精神科医療センター

3-032-4

メンタル対策 20 年間でのアウトプットの検証

○山田 博規

株式会社オフィスOHCR

- 3-032-5 生活習慣改善は精神的不調の予防となりうるか -生活習慣・睡眠とストレス反応に関する縦断調査
○志村 哲祥^{1,2,3}、杉浦 航^{2,4,5}、井上 愛美^{2,6}、横井 克典^{2,7}、小嶋 麻美³、岬 昇平³、大野 浩太郎¹、
古井 祐司⁸、井上 猛¹
¹東京医科大学、²株式会社こどもみらい、³医療法人東京桜十字、⁴慶應義塾大学、⁵ヒューストン大学、
⁶滋賀医科大学、⁷国際医療福祉大学、⁸自治医科大学

10:50～11:50 一般演題（口演）34
精神療法・心理社会療法 1

司会：岩館 敏晴 一般財団法人みやぎ静心会 国見台病院

- 3-034-1 第四世代の認知行動療法としてのけやき療法：視聴覚刺激を加味した運動の補助的効果
○稲田 良宜、稲田 信子
駅前神経内科メンタルヘルス研究所
- 3-034-2 Jaspers, K の精神病観：Element から Dmon へ
○佐藤 晋爾^{1,2}
¹筑波大学医学医療系茨城県地域臨床教育センター精神科、²茨城県立中央病院
- 3-034-3 妊婦のメンタルヘルスと安全な出産のための携帯メールによる介入の効果～ランダム化比較試験～
○児玉 豊彦¹、大林 陽子²、宮田 千春²、新小田 春美²、村端 真由美²、中谷 三佳³、谷村 晋²、
太田 義勝⁴、杉浦 徳宏⁵、畑下 博世⁶、西出 りつ子²、成田 有吾²、門脇 文子²、片岡 三佳²、
石本 恭子⁷、山田 奈央⁸、池田 智明⁹、ピアヌート ブート¹⁰
¹産業医科大学産業保健学部看護学科、²三重大学大学院医学系研究科看護学専攻、
³三重大学大学院医学系研究科看護学専攻研究生、⁴三重大学大学院工学研究科情報工学専攻、
⁵三重大学総合情報処理センター、⁶東京医療保健大学看護学部、⁷川崎医療福祉大学医療技術学部、
⁸岐阜大学医学部看護学科、⁹三重大学大学院医学系研究科医学専攻、¹⁰チェンマイ大学看護学部
- 3-034-4 遺伝要因について話し合うことで良好な転帰が得られた 2 症例
○高田 和尚^{1,2}、手塚 裕之¹、鈴木 恵子¹、東海林 岳樹¹、神田 秀人¹
¹山形県立こころの医療センター、²日本海総合病院
- 3-034-5 問題行動の修正を可能とした「無限連鎖法」について
○宮本 洋
医療法人聖和会つくば病院

12:00～13:00 一般演題（口演）36
精神療法・心理社会療法 2

司会：神田 秀人 山形県立こころの医療センター

- 3-036-1 <演題取り下げ>
- 3-036-2 MRI 拡散テンソル画像解析による精神分析的精神療法治療効果判定
○齊藤 幸子¹、高瀬 勝教²、高野 悟史³、木下 利彦¹
¹関西医科大学精神神経科学講座、²医療法人桐葉会木島病院、³医療法人以和貴会金岡中央病院
- 3-036-3 スピリチュアルペインの精神療法 -治療者の観点から、患者の視点から
○大沼 俊¹、清水 徹男²
¹いおりクリニック、²秋田県精神保健福祉センター



3-036-4 精神科医療における犬を用いた動物介在活動の効果について

○浅原 久子、宮城 整、岩崎 愛、稲毛 礼子
医療法人社団碧水会長谷川病院

3-036-5 Frankl, VE の精神療法は実存分析なのかロゴセラピーなのか

○佐藤 晋爾^{1,2}
¹筑波大学医学医療系茨城県地域臨床教育センター精神科、²茨城県立中央病院精神科

13:10~14:10 一般演題（口演）38
社会精神医学・多文化精神医学

司会：後藤 大介 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

3-038-1 「精神障害者」から「サイコソマティック・マイノリティ（PSM）」へ

○小椋 哲
医療法人瑞枝会クリニック心療内科・精神科

3-038-2 上海での診療経験から考える、在外邦人診療の現在と今後の展望

○中野 心介¹、徳永 雄一郎¹、市来 真彦²、松下 満彦¹
¹医療法人社団新光会不知火病院精神科、²東京医科大学病院

3-038-3 言語的コミュニケーションが困難であり対応に苦慮した日系人女性の一例

○北林 佳晃、長谷川 千絵、下田 和孝
獨協医科大学病院精神神経科

3-038-4 呉秀三と軍隊

○金川 英雄^{1,2}、新井 潤¹、田中 規幹¹、大西 弘二³、遠藤 祐子¹
¹国立病院機構埼玉病院、²昭和大学病院附属東病院、³大塚製薬（株）

3-038-5 国公立病院と陸海軍病院

○加藤 高裕¹、金川 英雄^{2,3}、石田 浩純¹、坂井 俊之⁵、神田 良樹⁶
¹浜松町メンタルクリニック、²昭和大学精神科、³国立病院機構埼玉病院精神科、⁴中浦和メンタルクリニック、⁵坂井メンタルクリニック、⁶武蔵小金井南口心療内科クリニック

9月30日(水) J会場

8:30~10:30

シンポジウム 72

自閉スペクトラム症の感覚特性とは何なのか？

司会：今村 明
小坂 浩隆長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部
福井大学医学部病態制御医学講座精神医学領域/福井大学子どものこころの発達研究センター

S72-1

自閉スペクトラム症児の感覚刺激処理と養育者の精神的健康について

○辻井 正次¹、鈴木 香苗²¹中京大学現代社会学部、²浜松医科大学児童青年期精神医学講座

S72-2

自閉スペクトラム症の視機能の問題 -オプトメトリストによるビジョントレーニングの効果と実際-

○中村 尚広

尚時堂株式会社両眼視スキルアップ研究所

S72-3

自閉スペクトラム症者の嗅覚特性に着目する意義

○熊崎 博一

国立精神神経医療研究センター精神保健研究所児童予防精神医学研究部児童・青年期精神保健研究室

S72-4

自閉スペクトラム症の温冷覚、触覚特性の考察

今村 明¹、○山本 直毅^{1,2}¹長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部、²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経学

S72-5

ASD 者の感覚統合：作業療法士から見える世界

○岩永 竜一郎

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

S72-6

〔指定発言〕

○本田 秀夫

信州大学医学部子どものこころの発達医学教室

〈コーディネーター〉 今村 明

熊崎 博一

小坂 浩隆

長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部
児童・青年期精神保健研究室福井大学医学部病態制御医学講座精神医学領域/福井大学子どものこころの
発達研究センター

10:40~12:40

シンポジウム 83

オープンダイアログ実践における治療的要素

司会：斎藤 環
笹原 信一郎筑波大学医学医療系
筑波大学医学医療系

S83-1

統合失調症に対するオープンダイアログの治療的要因について

○斎藤 環

筑波大学医学医療系社会精神保健学

S83-2

リカバリーを促す、ネットワークの力 -個人療法から OD アプローチへスイッチした一事例からの考察

○大井 雄一¹、桂 明子²、斎藤 環³¹筑波大学産業精神医学・宇宙医学、²東京未来大学福祉保育専門学校、³筑波大学社会精神保健学



S83-3 家庭内暴力の事例に対するオープンダイアログの有効性

○森田 展彰
筑波大学医学医療系

S83-4 対話により生まれるスペースの意味と役割：家庭内暴力被害者ケースからの考察

○大谷 保和、斎藤 環
筑波大学医学医療系

S83-5 オープンダイアログ的アプローチが有効と考えられた事例 -治療チームの共通点と相違点に着目して-

○笹原 信一郎
筑波大学附属病院

S83-6 【指定発言】

○森川 すいめい
独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

〈コーディネーター〉 斎藤 環 筑波大学医学医療系
森田 展彰 筑波大学医学医療系

13:10～15:10 シンポジウム 95
精神科臨床における身体拘束と肺塞栓予防

司会：石田 琢人 東京都立墨東病院救命救急センター
西山 健治郎 二番町法律事務所

S95-1 精神科入院患者における静脈血栓塞栓症の有病率と血栓予防・血栓スクリーニングについて

○竹島 正浩
秋田大学医学部附属病院神経科精神科

S95-2 都立松沢病院における肺塞栓予防の歴史と残された課題

○今井 淳司
東京都立松沢病院精神科

S95-3 精神科における身体拘束及び肺血栓塞栓症（裁判例を中心に）

○島戸 圭輔
二番町法律事務所

S95-4 拘束患者に対する肺塞栓予防：単科精神科病院において実現可能な対策を考える

○石田 琢人
東京都立墨東病院救命救急センター

〈コーディネーター〉 石田 琢人 東京都立墨東病院救命救急センター

9月30日(水) K会場

8:30~10:30

シンポジウム 73

認知症の病態メカニズム〜グリア、炎症、タンパク伝播の観点から〜

司会：新井 哲明 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
橋岡 禎征 島根大学医学部精神医学講座

S73-1

活性化成人アストロサイトの神経毒性

○橋岡 禎征
島根大学医学部精神医学講座

S73-2

全身炎症によるミクログリア活性化とアルツハイマー病

○武 洲¹²
¹九州大学大学院歯学研究院口腔機能分子科学、²九州大学大学院歯学研究院OBT研究センター

S73-3

 α シヌクレイン病理伝播の動物モデル

○鈴掛 雅美、長谷川 成人
東京都医学総合研究所

S73-4

タウのプリオン様伝播モデルマウス

○細川 雅人、長谷川 成人
公益財団法人東京都医学総合研究所認知症プロジェクト

〈コーディネーター〉 新井 哲明 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
橋岡 禎征 島根大学医学部精神医学講座

10:40~12:40

シンポジウム 84

精神・一般救急医療連携〜地域における実践からその先を考える〜

司会：三宅 康史 帝京大学救急医学講座
藤田 潔 桶狭間病院藤田こころケアセンター

S84-1

全国消防本部対象の搬送困難事例調査から見える精神・一般救急医療連携の最適解とは

○橋本 聡¹、日野 耕介²、井上 幸代³、兼久 雅之⁴、五明 佐也香⁷、河嶌 譲⁵、北元 健⁶、
来住 由樹⁸、山下 建昭¹、杉山 直也⁹
¹独立行政法人国立病院機構熊本医療センター精神科、²横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター、
³沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、⁴大分大学医学部附属病院精神科、
⁵国立病院機構災害医療センター、⁶医療法人社団碧水会長谷川病院、⁷獨協医科大学埼玉医療センター、
⁸岡山県精神保健福祉センター、⁹公益財団法人復康会沼津中央病院

S84-2

精神科身体合併症専門病棟（CIU）の役割と地域の精神科医療機関との連携について

○井上 幸代
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

S84-3

精神科医師不在の地方救命救急センターにおける地域連携のあり方について

○長嶺 育弘¹、中村 仁彦¹、佐藤 由佳子²、頭師 佳世子³、工藤 裕子³、岩本 直安³、清 弥佳⁴、
渡邊 祥一郎⁴、三好 良英⁵、松尾 寿栄⁵、金丸 勝弘⁶、吉田 建世⁷、石田 康⁵、落合 秀信⁶
¹宮崎県立延岡病院救命救急センター・救命救急科、²宮崎県立延岡病院看護部、³宮崎県延岡保健所、
⁴宮崎県福祉保健課地域福祉保健・自殺対策担当、⁵宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野、
⁶宮崎大学医学部病態解析医学講座救急・災害医学分野、⁷延岡市医師会

S84-4

大阪における精神科・一般救急医療連携 ハブ&スポークモデルの紹介

○中森 靖
関西医科大学総合医療センター



S84-5

〔指定発言〕

○杉山 直也

公益財団法人復康会沼津中央病院

〈コーディネーター〉 橋本 聡

杉山 直也

藤田 潔

独立行政法人国立病院機構熊本医療センター精神科

公益財団法人復康会沼津中央病院

桶狭間病院藤田こころケアセンター

13:10～15:10

シンポジウム 96

福島県における震災後の子どもたちのこころの支援

司会：中村 和彦

弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

S96-1

県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」における東日本大震災後の子どもたちのこころの支援

○板垣 俊太郎

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

S96-2

福島県の東日本大震災後の心理教育的支援

○辻井 正次^{1,2}

¹中京大学現代社会学部、²浜松医科大学子どものこころの発達研究センター

S96-3

「東日本大震災後に誕生した子どもたちとその母親に対する追跡研究」について

○榎屋 二郎¹、八木 淳子²、福地 成³、松浦 直己⁴

¹東京医科大学精神医学分野、²岩手医科大学神経精神科学講座、³みやぎ心のケアセンター、⁴三重大学教育学部

S96-4

いわき市で区域外就学している中学生における東日本大震災による避難の影響

○増山 晃大^{1,2}

¹医療創生大学心理相談センター、²いわき市教育委員会

S96-5

福島県浜通りにおける被災地支援活動を振り返って

○中山 浩

川崎市こども家庭センター

〈コーディネーター〉 中村 和彦

弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

9月30日(水) L会場

8:30~10:30

シンポジウム 74

質の高い精神医療を担う多職種人材育成の最前線：課題解決型高度医療人材養成プログラム選定機関の試み

司会：笠井 清登 東京大学医学部附属病院精神神経科
村井 俊哉 京都大学医学部附属病院

S74-1

価値にもとづく支援者育成

○笠井 清登、熊倉 陽介、里村 嘉弘、太田 和佐、金原 明子、佐々木 理恵、森田 健太郎、
神出 誠一郎
東京大学医学部附属病院精神神経科

S74-2

精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成（PsySEPTA）の取り組み

○渡部 衣美¹、根本 清貴²、太刀川 弘和²、山川 百合子³、繁田 雅弘⁴、新井 哲明²
¹筑波大学附属病院、²筑波大学、³茨城県立医療センター、⁴東京慈恵会医科大学

S74-3

メンタル・サポート医療人とプロの連携養成

○清水 栄司
千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学・子どものこころの発達研究センター

S74-4

「発達症への介入による国民的健康課題の解決」(京都大学)における多職種人材育成の試み

○義村 さや香
京都大学医学研究科人間健康科学系専攻

S74-5

課題解決型高度医療人材養成プログラム採択事業「慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成」の展開

○小川 成
名古屋市立大学大学院人間文化研究科

S74-6

【指定発言】

○橋本 直樹
北海道大学病院精神科神経科

S74-7

【指定発言】

○福田 正人
群馬大学医学部附属病院

〈コーディネーター〉 笠井 清登 東京大学医学部附属病院精神神経科

10:40~12:40

シンポジウム 85

不安症治療ガイドラインをいかに臨床に活かすか

司会：松永 寿人 兵庫医科大学精神科精神科神経科講座
塩入 俊樹 岐阜大学医学部附属病院

S85-1

パニック症治療ガイドラインをいかに臨床に活かすか

○塩入 俊樹
岐阜大学医学部附属病院

S85-2

社交不安症診療ガイドラインをいかに臨床に活かすか

○朝倉 聡
北海道大学保健センター・大学院医学研究院精神医学教室



S85-3 全般不安症の診療ガイドラインをいかに臨床にいかすか？

○大坪 天平
東京女子医科大学東医療センター精神科

S85-4 ト라우マから PTSD へ；ガイドラインを踏まえた多段階的治療対応

○金 吉晴
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S85-5 強迫症（OCD）治療ガイドラインをいかに臨床に活かすか

○松永 寿人
兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

〈コーディネーター〉 松永 寿人 兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

13:10～15:10 シンポジウム 97
周産期メンタルヘルスの最前線

司会：竹内 崇 東京医科歯科大学医学部附属病院
菊地 紗耶 東北大学病院

S97-1 周産期メンタルヘルスコンセンサスガイドの概要と新たな課題

○渡邊 博幸^{1,2}
¹医療法人学而会木村病院、²千葉大学社会精神保健教育研究センター

S97-2 EPDS の正しい理解

○武藤 仁志
東京医科歯科大学医学部附属病院精神科

S97-3 SSRI・SNRI の胎児への影響 -形態的、機能的催奇形性-

○伊藤 賢伸
順天堂大学精神医学講座

S97-4 向精神薬と授乳 -国内外の動向-

○渡邊 央美
国立成育医療研究センター妊娠と薬情報センター

S97-5 産後うつ病の特徴と治療

○小林 奈津子^{1,2}、菊地 紗耶¹、本多 奈美³、富田 博秋^{1,3}
¹東北大学病院、²東北大学大学院医学系研究科精神看護学分野、³東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

〈コーディネーター〉 鈴木 利人 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院
岡野 慎治 三重大学

9月30日(水) M会場

8:30~10:30

シンポジウム 75

統合失調症薬物療法の様々な課題にどう対応するか

司会：竹内 賢
三浦 至公益財団法人星総合病院星ヶ丘病院
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

S75-1

統合失調症急性期の薬物療法

○三浦 至
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

S75-2

統合失調症維持期における抗精神病薬の減量

○竹内 啓善
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S75-3

統合失調症の緊張病

○伊賀 淳一、越智 紳一郎、上野 修一
愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

S75-4

統合失調症患者の身体リスクー代謝性副作用を中心にー

○須貝 拓朗
新潟大学医学部総合医学教育センター〈コーディネーター〉 渡部 康
三浦 至一般財団法人桜ヶ丘病院法人部・診療部
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座委員会シンポジウム 27
取り下げ

13:10~15:10

シンポジウム 98

過食と行動嗜癖：どこまで嗜癖として治療可能か

司会：宮岡 等
山下 達久北里大学医学部精神科学
からすま五条・やましたクリニック

S98-1

行動嗜癖の「ハマる」と行動分析学

○蒲生 裕司^{1,2}
¹こころのホスピタル町田医局、²北里大学病院精神神経科

S98-2

過食の嗜癖的側面からの治療的アプローチ

○野間 俊一
嵯峨さくら病院

S98-3

摂食障害における食行動異常と物質使用との交代性サイクルは嗜癖なのか？

○松本 俊彦
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

S98-4

摂食障害患者における万引きは嗜癖か？

○瀧井 正人
北九州医療刑務所



S98-5

自傷行為と摂食障害

○永田 利彦

壺燈会なんば・ながたメンタルクリニック

〈コーディネーター〉 永田 利彦
宮岡 等

壺燈会なんば・ながたメンタルクリニック
北里大学医学部精神科学

9月30日(水) N会場

8:30~10:30

シンポジウム 76

クロザピン TDM の有用性と今後の課題

司会：菊池 結花 秋田大学医学部附属病院精神科
稲田 健 東京女子医科大学病院

S76-1

クロザピン TDM の有用性

○赤嶺 由美子¹、菊池 結花²¹秋田大学医学部附属病院薬剤部、²秋田大学医学部神経運動器学講座精神科学分野

S76-2

クロザピンの母集団薬物動態解析と TDM の有用性

○猿渡 淳二¹、古郡 規雄²¹熊本大学大学院生命科学研究部薬物治療学分野、²獨協医科大学精神神経医学講座

S76-3

クロザピン治療薬物モニタリング (TDM) の本邦における新しい試み

○橋本 喜次郎¹、中原 辰雄¹、木田 直也⁴、村上 優¹⁰、白石 潤⁶、瀧本 良博⁸、村杉 謙次⁷、
前村 早紀⁵、町野 彰彦⁹、助川 鶴平³、大盛 航⁹、本田 和揮²、村田 昌彦⁵、上野 雄文¹¹独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター精神科、²独立行政法人国立病院機構菊池病院、³独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター、⁴独立行政法人国立病院機構琉球病院、⁵独立行政法人国立病院機構榊原病院、⁶独立行政法人国立病院機構北陸病院、⁷独立行政法人国立病院機構小諸高原病院、⁸やまと精神医療センター、⁹独立行政法人国立病院機構呉医療センター、¹⁰独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター

S76-4

クロザピン濃度測定 of 臨床および研究応用

○石川 修平

北海道大学病院精神科神経科

S76-5

【指定発言】

○古郡 規雄

獨協医科大学病院

S76-6

【指定発言】

○藤井 康男

地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院

〈コーディネーター〉 菊池 結花 秋田大学医学部附属病院精神科

シンポジウム 86

取り下げ

13:10~15:10

シンポジウム 99

大学病院における精神科診療の役割

司会：三村 將 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
村井 俊哉 京都大学医学部精神科

S99-1

サイコオンコロジーの魅力

○三村 將、藤澤 大介

慶應義塾大学精神神経科学教室



S99-2 神経認知障害群の診断・治療に必要とされる他科連携

○上田 敬太

京都大学大学院医学研究科脳病態生理学（精神医学）

S99-3 大学病院における精神科診療の役割：高自殺リスク患者への介入と診療教育

○河西 千秋

札幌医科大学医学部神経精神医学講座

S99-4 大学病院における精神科診療の役割：コンサルテーション・リエゾン精神医学の立場から

○西村 勝治、赤穂 理絵

東京女子医科大学医学部精神医学講座

S99-5 筑波大学附属病院における周産期メンタルヘルスシステムの構築

○新井 哲明¹、根本 清貴¹、渡部 衣美²

¹筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学、²筑波大学附属病院

〈コーディネーター〉 三村 将 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
村井 俊哉 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

9月30日(水) O会場

8:30~10:30

委員会シンポジウム 24 (精神医学研究推進委員会)**当事者・家族の望む精神医学研究とは：Patient and Public Involvement**

司会：尾崎 紀夫 名古屋大学医学部附属病院
久住 一郎 北海道大学病院精神科神経科

主旨説明

○尾崎 紀夫
名古屋大学医学部附属病院

CS24-1

臨床研究者の立場から

○橋本 亮太
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

CS24-2

精神医学研究に対する齧歯類を用いた基礎研究の貢献

○大隅 典子
東北大学大学院医学系研究科

CS24-3

当事者・家族が望む研究とは何か？

○夏莉 郁子
やきつべの径診療所

CS24-4

当事者・家族が精神医学の研究に望むこと：アンケート調査の結果から

○中村 由嘉子、尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

CS24-5

【指定発言】

○中神 由香子
京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座（精神医学教室）
京都大学環境安全保健機構健康管理部門/附属健康科学センター

CS24-6

【指定発言】

○久住 一郎
北海道大学病院精神科神経科

〈コーディネーター〉 尾崎 紀夫 名古屋大学医学部附属病院
橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

10:40~12:40

委員会シンポジウム 28 (災害支援委員会)**人為災害における精神保健医療上の課題：東京オリンピック・パラリンピックに向けて**

司会：高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学/茨城県立こころの医療センター/筑波メディカルセ
ンター
重村 淳 防衛医科大学校精神科学講座

CS28-1

放火事件と周辺地域住民への支援

○波床 将材
京都市こころの健康増進センター

CS28-2

学校での児童殺傷事件での子どもの心のケアとは～約 20 年を振り返って考察する～

○岩切 昌宏
大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター



CS28-3

メディアの災害報道がメンタルヘルスに与える影響

○重村 淳¹、高橋 晶^{2,3,4}、黒澤 美枝^{1,5}

¹防衛医科大学校精神科学講座、²筑波大学医学医療系災害・地域精神医学、³茨城県立こころの医療センター、⁴筑波メディカルセンター、⁵武蔵野大学しあわせ研究所

CS28-4

東京オリンピックを控えて、精神科に求められる事

○高橋 晶^{1,2}

¹筑波大学医学医療系災害・地域精神医学、²茨城県立こころの医療センター

〈コーディネーター〉 高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学/茨城県立こころの医療センター/筑波メディカルセンター
重村 淳 防衛医科大学校精神科学講座
福島 昇 新潟市こころの健康センター

13:10~15:10 シンポジウム 100 我が国の月経前不快気分障害（PMDD）の現状

司会：大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科
武田 卓 近畿大学東洋医学研究所

S100-1

PMS/PMDD 研究の動向と知見

○松本 珠希

四天王寺大学教育学部教育学科保健教育コース

S100-2

代替医療は有効か？～新規 PMS・PMDD 治療薬候補ピリドキサミンについて

○武田 卓

近畿大学東洋医学研究所

S100-3

産婦人科における PMDD 診療の実際

○小川 真里子、高松 潔

東京歯科大学市川総合病院産婦人科

S100-4

精神科からみた月経前不快気分障害（PMDD）

○大坪 天平

東京女子医科大学東医療センター精神科

〈コーディネーター〉 大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科
武田 卓 近畿大学東洋医学研究所

9月30日(水) P会場

8:30~10:30

シンポジウム 77

精神科入院治療再考 -「重度かつ慢性」患者への包括支援実践ガイドをもとに

司会：安西 信雄 帝京平成大学大学院臨床心理学研究科
田口 真源 医療法人静風会大垣病院

S77-1 統括調整班の立場から実践ガイドの根拠と病院としての取組の重要性

○安西 信雄
帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

S77-2 日本の好事例病院における統合失調症入院者への薬物療法の特徴

○宮田 量治¹、藤井 康男¹、三澤 史斉¹、武田 俊彦²、内田 裕之³
¹地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院精神科、²公益財団法人慈圭会慈圭病院、³慶應義塾大学病院

S77-3 クロザピン治療に関する好事例病院へのヒアリング調査と CPMS 登録の医療機関へのアンケート調査について

○木田 直也¹、村上 優²、宮田 量治³、大鶴 卓¹、矢田 勇慈⁴
¹国立病院機構琉球病院精神科、²独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター、
³地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院、⁴地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

S77-4 重度かつ慢性の精神障害者に対する包括的支援 -心理社会的治療の視点から

○岩田 和彦¹、井上 新平²、渡邊 治夫²、池淵 恵美³
¹地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター、²社会医療法人北斗会さわ病院、³帝京平成大学

S77-5 多職種チームによる地域ケアシステムの特徴

○吉川 隆博¹、野口 正行²、荻原 喜茂³、田村 綾子⁴、木戸 芳史⁵、三宅 美智⁶
¹東海大学、²メンタルセンター岡山、³NPO法人那須フロンティア、⁴聖学院大学、⁵浜松医科大学、⁶岩手医科大学

S77-6 【指定発言】

○櫻木 章司
医療法人桜樹会桜木病院

S77-7 【指定発言】

○栃本 真一
石川県立高松病院

〈コーディネーター〉 安西 信雄 帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

10:40~12:40

委員会シンポジウム 29 (アンチスティグマ委員会)

精神疾患を抱える人が利用する施設建設に対するスティグマ

司会：秋山 剛 NTT東日本関東病院
田中 増郎 公益財団法人慈圭会慈圭病院

CS29-1 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて

○吉野 智
厚生労働省障害福祉課障害福祉専門官

CS29-2 磐梯ダルク会津若松事業所設立に向けた現状と課題

○平塚 英樹
磐梯ダルク



CS29-3 精神障害を抱える人が地域で暮らすために：支援者の立場から

○浦田 裕美
福岡大学大学院人文科学研究科

CS29-4 「当事者の語り」が真の共生の鍵を握る～精神疾患の人に必要なのは“施設”なのか？」

○町 亜聖
フリーアナウンサー

CS29-5 地域住民との隔たり

○太田 実男
京都ダルク

CS29-6 【指定発言】

○堀井 宏和
北九州ダルク

CS29-7 【指定発言】

○出原 和宏
京都ダルク

CS29-8 【指定発言】

○水野 雅文
東邦大学医学部精神神経医学講座

〈コーディネーター〉 長 徹二 名古屋医専教務部
水野 雅文 東邦大学医学部精神神経医学講座
秋山 剛 NTT東日本関東病院

13:10～15:10 **シンポジウム 101**
血中濃度をもっと活かそう

司会：渡辺 雅子 新宿神経クリニック
菊池 結花 秋田大学医学部精神科学分野

S101-1 TDM をはじめるにあたっての基礎知識

○河崎 陽一、千堂 年昭
岡山大学病院薬剤部

S101-2 抗てんかん薬の血中濃度をどう理解するか？

○小出 泰道
小出内科神経科

S101-3 リチウムと血中濃度測定

○仁王 進太郎
東京都済生会中央病院精神科（心療科）

S101-4 クロザピン血中濃度測定（TDM）の実践～保険収載と全国普及を目指して～

○矢田 勇慈
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

〈コーディネーター〉 山田 了士 岡山大学大学院精神神経病態学教室
渡辺 雅子 新宿神経クリニック
高木 学 岡山大学大学院精神神経病態学教室

9月30日(水) Q会場

8:30~10:30 委員会シンポジウム 25 (法委員会)
旧優生保護法と精神科医療を検証する

司会：三野 進 みのクリニック
佐藤 真弓 ひまわり佐藤まゆみクリニック

CS25-1 旧優生保護法への精神科医の関与を検証するために

○岡崎 伸郎
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

CS25-2 旧優生保護法国家賠償請求訴訟について

○山田 いずみ
旧優生保護法弁護団

CS25-3 今はようやく「検証」の入り口に立ったところである

○早苗 麻子
医療法人社団萌クリニック

CS25-4 旧優生保護法国家賠償請求訴訟原告

〈コーディネーター〉 三野 進 みのクリニック
佐藤 真弓 ひまわり佐藤まゆみクリニック
早苗 麻子 医療法人社団萌クリニック

10:40~12:40 シンポジウム 87
地域に根差した精神保健医療早期相談・介入システムの構築 -MEICIS プロジェクト

司会：田中 邦明 医療法人財団厚生協会東京足立病院
辻野 尚久 東邦大学医学部精神神経医学講座/済生会横浜市東部病院

S87-1 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムと早期相談・介入 -MEICIS

○根本 隆洋
東邦大学医学部精神神経医学講座

S87-2 大都市部における精神保健医療早期相談・支援システム -若年者ワンストップ相談センター SODA の試み-

○内野 敬
医療法人財団厚生協会東京足立病院

S87-3 過疎と人口減少の進む秋田県サイトからの報告

○清水 徹男
秋田県精神保健福祉センター

S87-4 多職種アウトリーチチームによる早期介入

○藤井 千代
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部

S87-5 増加する在留外国人とその精神障害 -神奈川県横浜市鶴見区在住日系ブラジル人にみる支援の実態とニーズ

○山口 英理子
済生会横浜市東部病院精神科



S87-6

【指定発言】

○竹島 正

川崎市精神保健福祉センター

〈コーディネーター〉 根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座

13:10～15:10 **委員会シンポジウム 30（災害支援委員会）**
東日本大震災復興期の精神保健活動の展開と発展

司会：加藤 寛 兵庫県こころのケアセンター
松本 和紀 東北大学病院

CS30-1

宮城県における東日本大震災復興期の地域精神保健活動の展開

○小原 聡子

宮城県精神保健福祉センター

CS30-2

福島における被災者への精神保健活動を振り返って：現状と今後の課題

○前田 正治^{1,2}、桃井 真帆^{1,2}、後藤 紗織^{1,2}

¹福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座、²福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

CS30-3

東日本大震災後の子どもこころのケアの展開と被災地コホート調査結果から見える復興期の母子支援ニーズ

○八木 淳子

岩手医科大学医学部神経精神科学講座

〈コーディネーター〉 加藤 寛 兵庫県こころのケアセンター

9月30日(水) R会場

8:30~10:30 シンポジウム 78
不登校のまっとうな臨床をめぐる

司会：岡田 俊 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部
新谷 宏伸 本庄児玉病院/USPT研究会

S78-1 不登校の児童が目の前に現れたら～回復への先鞭をつけるために～

○稲垣 貴彦^{1,2}¹医療法人明和会琵琶湖病院思春期青年期治療部、²滋賀医科大学精神医学講座

S78-2 不登校という文脈の変遷 -ブリーフセラピーによるプラグマティックな支援-

○若島 孔文

東北大学大学院教育学研究科

S78-3 不登校児童・生徒の社会（教室）復帰には、なにが必要か？ 認知行動療法の立場から 2020

○西川 公平

CBTセンター

S78-4 スクールカウンセラーの不登校支援 -その機能と限界-

○上田 勝久

兵庫教育大学

S78-5 【指定発言】

○小澤 いぶき^{1,2}¹東京大学医学系研究科保健社会行動学分野、²東京都石神井学園

〈コーディネーター〉 新谷 宏伸 本庄児玉病院/USPT研究会
黒木 俊秀 九州大学大学院人間環境学研究院

10:40~12:40 シンポジウム 88
「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築・実践のため精神医療従事者のないうことはなにか

司会：伊藤 順一郎 メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ
渡邊 真里子 ちはやACTクリニック

S88-1 多職種アウトリーチをしている立場から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」に対しての問題提起

○伊藤 順一郎

メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ

S88-2 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築が目指すもの

○岩上 洋一

社会福祉法人じりつ

S88-3 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を踏まえて精神科医が行政と協力してできること

○西尾 雅明

東北福祉大学せんだんホスピタル

S88-4 「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」実現に、障害福祉サービスをどう利用していくのか考える

○田島 光浩^{1,2}¹ひかり診療所、²社会福祉法人南高愛隣会



S88-5

〔指定発言〕

○吉田 光爾

東洋大学大学院ライフデザイン学研究科

〈コーディネーター〉 伊藤 順一郎 メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ

13:10~15:10

シンポジウム 102

抗 ADHD 薬の依存・乱用のリスクと ADHD の鑑別・併存を含めた適切な使用のあり方について

司会：岡田 俊

飯田 順三

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

奈良県立医科大学医学部看護学科

S102-1

抗 ADHD 薬の misuse と abuse の現状について -日本と諸外国-

○岡田 俊

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

S102-2

抗 ADHD 薬の依存リスクと流通規制について

○宇佐美 政英

国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科

S102-3

ADHD の過剰診断と過少診断

○藤田 純一

横浜市立大学附属病院児童精神科

S102-4

ADHD の鑑別・併存と抗 ADHD 薬の適正使用について

○根来 秀樹

奈良教育大学教職開発講座障害児医学分野/特別支援教育研究センター

〈コーディネーター〉 岡田 俊

飯田 順三

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

奈良県立医科大学医学部看護学科

9月30日(水) ポスター会場

一般演題(ポスター) 32

統合失調症 6

- 3-P32-1 統合失調症における生活習慣病予防への意識づけ 一体重測定・生活習慣改善動機づけ啓蒙チャレンジ調査(BMCT) -
○岩崎 真三
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
- 3-P32-2 統合失調症患者における抗精神病薬と瞬時心拍数変動との予備的検討
○岡安 寛明^{1,3}、藤井 久彌子²、尾関 祐二²、岡安 美紀生³、下田 和孝¹
¹獨協医科大学精神神経医学講座、²滋賀医科大学精神医学講座、³医療法人藍生会不動ヶ丘病院
- 3-P32-3 ロールシャッハ・テストの特殊指標による児童青年期の自殺の可能性についての検討
○岸本 直子¹、山室 和彦¹、岡崎 康輔¹、池原 実伸¹、石岡 希望¹、佐々木 寛¹、濱野 泰光¹、
太田 豊作¹、飯田 順三²、岸本 年史¹
¹奈良県立医科大学精神医学教室、²奈良県立医科大学看護学科人間発達学
- 3-P32-4 <演題取り下げ>
- 3-P32-5 統合失調症における自閉スペクトラム症傾向とリカバリーとの関係における self-stigma と抑うつ
の媒介効果
○小松 浩、大野 高志、米田 芳則、藤田 亨、鈴木 由美子、菅原 惣治、角藤 芳久
宮城県立精神医療センター精神科

一般演題(ポスター) 33

統合失調症 7

- 3-P33-1 パリペリドン開始後に持続勃起症を呈した統合失調症の一例
○清水 真央、政岡 数紀、須田 顕、井出 恵子、石井 美緒、横田 花、勝瀬 大海
横浜市立大学附属病院精神科
- 3-P33-2 腸管型ベーチェット病を併発し複数の内服薬が奏効しなかった統合失調症患者に対し、LAI が奏効した一例
○関谷 樹、須田 雅史、福田 正人
群馬大学医学部附属病院
- 3-P33-3 異所性灰白質を伴い、自閉スペクトラム症に統合失調症が合併した一症例
○小野 信^{1,2}、松木 晴香¹、須田 寛子¹、小泉 暢大栄¹、細木 俊宏¹
¹新潟県立精神医療センター、²新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座
- 3-P33-4 ブレクスピプラゾールが著効した最遅発性統合失調症の一例
○稲山 靖弘、渡辺 浩年
渡辺病院医局
- 3-P33-5 入院中の屋内全面禁煙により病状が悪化した2症例
○清水 義雄、阿部 慶一、小林 建太郎
医療法人万成病院精神科



一般演題（ポスター）34

神経症性障害

3-P34-1

DV 相談窓口・DV シェルター利用者の PTSD 重症度比較

○大江 美佐里、小林 雄大、石田 哲也、千葉 比呂美、松岡 美智子、内村 直尚
久留米大学医学部精神神経科

3-P34-2

成人強迫症患者における ADHD の併存とその傾向の臨床像への影響について

○宮内 雅弘、向井 馨一郎、橋本 卓也、松永 寿人
兵庫医科大学病院兵庫医科大学精神科神経科学

3-P34-3

<演題取り下げ>

3-P34-4

強迫症患者の強迫症状と嗅覚特性について

○橋本 卓也¹、熊崎 博一²、松浦 直己³、向井 馨一郎¹、宮内 雅弘¹、山西 恭輔¹、松永 寿人¹
¹兵庫医科大学病院、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
³国立大学法人三重大学教育学部特別支援教育講座特別支援（医学）分野

3-P34-5

エスシタロプラムは高齢者の心因性頻尿に有効であった：4 症例の報告

○伊藤 隆伸、佐野 威和雄
長崎県対馬病院精神神経科

一般演題（ポスター）35

てんかん

3-P35-1

国際・国内レベルでの若手てんかん従事者ネットワーク：Young Epilepsy Section の取り組み

○曾根 大地¹、飯島 圭哉²、池谷 直樹³、北澤 悠⁴、倉持 泉⁵、黒田 直生人⁶、曾我 天馬⁷、
高山 裕太郎²、堀之内 徹⁸、松原 鉄平⁹

¹University College London Institute of Neurology、
²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター脳神経外科、³横浜市立大学付属病院脳神経外科、
⁴横浜市立大学付属病院脳神経内科、⁵埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科、⁶Department of Pediatrics and Neurology, Wayne State University、⁷総合南東北病院脳神経内科、⁸北海道大学病院精神科神経科、⁹Department of Radiology, Massachusetts General Hospital

3-P35-2

救急蘇生を必要とする呼吸停止をくり返したてんかん・心因性非てんかん発作合併例

○四宮 雅博、鈴木 聡彦
医療法人社団順真会しのみやクリニック

3-P35-3

<演題取り下げ>

3-P35-4

長期服用していたフェニトインからラコサミドへの置換を試みたてんかんの 3 症例

○横山 香、渡邊 さつき、村田 佳子、砂原 真理子、岡井 公志、高杉 綾香、松岡 孝裕、
松尾 幸治
埼玉医科大学病院神経精神科心療内科

3-P35-5

カルバマゼピンにより劇的な認知機能及び精神症状の改善を認めた非けいれん性てんかん重積の一例

○大嶋 悠太、鳩野 威明、菅原 裕子、竹林 実
熊本大学医学部附属病院神経精神科

一般演題（ポスター）36

睡眠障害

3-P36-1 睡眠薬内服後の異常行動に関する実態調査

○秋山 久¹、吉田 雄介²、三浦 元²、細川 嘉之²、本間 裕士²¹市立札幌病院精神医療センター、²独立行政法人国立病院機構帯広病院

3-P36-2 スマートフォンの使用、睡眠、心理的ストレス、注意機能の関連

○篠山 大明^{1,4}、竹森 由佳²、小田切 みのり²、樋田 優希代²、杉山 暢宏²、山口 昌樹³、
鷺塚 伸介¹、本田 秀夫⁴¹信州大学医学部精神医学教室、²信州大学医学部保健学科、³信州大学繊維学部機械・ロボット学科、
⁴信州大学医学部子どものこころの発達医学教室

3-P36-3 一般児童における睡眠と情緒・行動上の問題に関する調査報告

○細谷 倫子^{1,5}、神尾 陽子^{2,3}、北村 真吾²、高橋 秀俊⁴、竹島 正浩⁵、太田 英伸⁵、三島 和夫⁵¹秋田大学医学部付属病院精神科、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、³発達障害クリニック附属発達研究所、⁴高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学、⁵秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

3-P36-4 難治性うつ病患者における、終夜睡眠ポリグラフ検査所見の検討

○神田 優太、田中 彰人、高江洲 義和、渡邊 衡一郎

杏林大学精神神経学教室

一般演題（ポスター）37

摂食障害

3-P37-1 <演題取り下げ>

3-P37-2 摂食障害の体重回復前後でのミスマッチ陰性電位についての中間報告

○和田 知紘、板垣 俊太郎、松本 貴智、星野 大、刑部 有祐、菅野 和子、大西 真央、
高橋 雄一、野崎 途也、森 湧平、浅野 太志、横倉 俊也、佐藤 亜希子、伊瀬 陽子、
疋田 雅之、志賀 哲也、松岡 貴志、増子 博文、矢部 博興

福島県立医科大学神経精神医学講座

3-P37-3 身体急性期の摂食障害患者の臨床的特徴の検討～身体重症度と医療連携の必要性について～

○泉 竜太¹、國井 泰人^{1,2}、刑部 有祐¹、野崎 途也¹、森 湧平¹、板垣 俊太郎¹、三浦 至¹、矢部 博興¹¹福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、²福島県立医科大学会津医療センター附属病院

3-P37-4 大学病院外来の摂食障害治療における薬物療法実態調査

○今村 弥生¹、菅 さくら¹、西園・マーハ 文²、渡邊 衡一郎¹¹杏林大学医学部精神神経科学教室、²明治学院大学心理学部心理学科

3-P37-5 両側気胸を合併した神経性無食欲症の一例

○上村 永、下出 崇輝、村田 佳子、大島 史織、佐々木 剛、鈴木 美和、松尾 幸治

埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

一般演題（ポスター）38

その他

3-P38-1 山口大学医学部附属病院における入院患者の自殺についての後方視的研究

○水本 智大、松原 敏郎、樋口 文宏、中川 伸

山口大学附属病院精神科神経科



3-P38-2 岡山県美作市における社会的および職業的機能低下者の疫学調査：第1報

○本山 美久仁¹、山田 恒¹、目良 宣子²、松永 寿人¹

¹兵庫医科大学精神科神経科学講座、²山陽学園大学看護学部看護学科

3-P38-3 一般成人人口における抑うつ症状とメランコリー親和型性格の関連性の評価

○金子 宜之、今野 千聖、斎藤 かおり、横瀬 宏美、久保 英之、鈴木 正泰、内山 真
日本大学医学部精神医学系精神医学分野

3-P38-4 精神科外来患者における精神疾患と排便状態、便秘との関連性

○赤坂 邦、赤坂 史、赤坂 正、貞廣 莊太郎
あけぼのクリニック精神科

3-P38-5 プレガバリン依存を来した一例

○鈴木 二妙香、泉 竜太、板垣 俊太郎、三浦 至、矢部 博興
福島県立医科大学附属病院

一般演題（ポスター）39

地域精神医療

3-P39-1 <演題取り下げ>

3-P39-2 被養育体験が産婦の子へのボンディングに与える影響について

○茂木 崇治¹、福井 直樹¹、藤田 真貴¹、須貝 拓朗¹、江川 純¹、橋尻 洸陽¹、坪谷 隆介¹、
三留 節子²、荒木 理恵²、生野 寿史³、山口 雅幸⁴、西島 浩二⁵、高桑 好一⁵、榎本 隆之⁴、
染矢 俊幸¹

¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²新潟大学医歯学総合病院看護部、³新潟県立がんセンター、
⁴新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科学分野、⁵新潟大学医歯学総合病院総合周産期母子医療センター

3-P39-3 過疎地域におけるひきこもり者に対するアウトリーチ活動 転帰に影響をする精神医学的要因について

○山科 満¹、長岡 重之²、大塚 耕太郎³

¹中央大学文学部人文社会科学心理学専攻、²社団医療法人祐和会北リアス病院、
³岩手医科大学医学部神経精神科学講座

3-P39-4 地域における児童思春期病棟の役割について～院内学級に在籍する子どもを通して～

○富田 順子、佐藤 眞喜人、井村 進吾、岩寺 良太、佐藤 牧人
東北福祉大学せんだんホスピタル

3-P39-5 <演題取り下げ>

一般演題（ポスター）40

精神科救急

3-P40-1 昏迷状態が1か月以上遷延し、診断と治療に苦慮した一例

○山内 琢豊、出口 靖之
社会医療法人北斗会さわ病院

3-P40-2 福島県立医科大学における自殺企図患者の臨床的・社会的特徴の検討

○森 湧平、刑部 有祐、野崎 途也、浅野 太志、泉 竜太、後藤 大介、板垣 俊太郎、三浦 至、
矢部 博興
福島県立医科大学神経精神医学講座

3-P40-3 自殺報道と帝京大学附属病院救命救急センターでの自殺行動患者の受け入れと関連についての検討 (第二報)

○江村 康、金田 渉、松村 謙一、赤羽 晃寿、栃木 衛、林 直樹
帝京大学医学部附属病院メンタルヘルス科

3-P40-4 Moran の I 統計量を用いた市区町村・二次医療圏における自殺統計の地理的特性の検証

○香田 将英¹、高橋 聡²、篠崎 智大³、市川 学⁴、原田 奈穂子⁵、近藤 克則^{2,6}、石田 康¹
¹宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野、²国立研究開発法人国立長寿医療研究センター、
³東京理科大学工学部情報工学科、⁴芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科、
⁵宮崎大学医学部看護学科地域精神看護学講座精神看護学領域、⁶千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門

一般演題（ポスター）41 精神療法・心理社会療法

3-P41-1 気分障害が併存する慢性疼痛患者に対する集団行動活性化療法の試み

○横倉 俊也¹、青木 俊太郎^{1,2}、戸田 亘¹、松本 純弥¹、大谷 晃司^{2,3}、本谷 亮⁴、上田 由桂¹、
大西 真央¹、志賀 可奈子¹、川嶋 彩花¹、板垣 俊太郎¹、三浦 至¹、矢部 博興¹
¹福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、²福島県立医科大学医療人育成・支援センター、
³福島県立医科大学医学部整形外科科学講座、⁴北海道医療大学心理科学部

3-P41-2 <演題取り下げ>

3-P41-3 問題ギャンブラー向け LINE チャットボット介入の効果：オンラインランダム化比較試験（GAM-BOT STUDY）

○宋 龍平^{1,2}、古川 壽亮²、松下 幸生³、馬場 俊明⁴、松崎 尊信³、古野 悟志³、岡田 瞳⁴、樋口 進⁴
¹岡山県精神科医療センター、²京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻、
³独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター、⁴国立国際医療研究センター

3-P41-4 エビデンスからプロセスへ | 物質使用障害に対する心理的柔軟性に基づいた介入 | メタアナリシス

○伊井 俊貴
愛知医科大学病院

3-P41-5 患者のうつ病心理教育の実態および理解度と処方内容；抗うつ薬について

○富田 哲¹、古郡 規雄²、工藤 周平³、菅原 典夫²、藤井 学⁴、敦賀 光嗣⁵、佐藤 靖⁶、石岡 雅道⁷、
中村 和彦¹
¹弘前大学医学部附属病院神経科精神科、²獨協医科大学病院、³八戸市立市民病院、
⁴つがる西北五広域連合つがる総合病院、⁵青森県立つくしが丘病院、⁶大館市立総合病院、
⁷社会医療法人共栄会札幌トロイカ病院

一般演題（ポスター）42 動物モデル・基礎研究

3-P42-1 柴胡加竜骨牡蛎湯の投与に伴う、嗅球摘出ラットの行動および脳内モノアミン代謝産物の変化

○大串 祐馬¹、後藤 玲央¹、畑中 聡仁¹、川口 貴子¹、吉良 健太郎^{1,2}、川寄 弘詔¹
¹福岡大学医学部精神医学教室、²医療法人祥風会甘木病院

3-P42-2 アミロイド β 蛋白に対するデュアルオレキシン受容体拮抗剤の作用

○長谷川 進^{1,2}、後藤 玲央¹、尾籠 晃司^{1,3}、川寄 弘詔¹
¹福岡大学病院、²医療法人格心会晴明病院、³福岡国際医療福祉大学

3-P42-3 マカクザルにおける誤信念課題中の内側前頭前野の神経活動について

○林 剛丞^{1,2}、江川 純²、秋川 諒太³、川 圭祐⁴、長谷川 功¹、染矢 俊幸²
¹新潟県立精神医療センター精神科、²新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、³新潟大学工学部工学科、
⁴新潟大学医歯学総合研究科神経生理学分野



3-P42-4 Risperidone による Cocaine 誘発活動量増加の抑制効果について

○岡田 剛史、塩田 勝利、西島 康一、須田 史朗
自治医科大学附属病院精神科

3-P42-5 睡眠のモノアミン仮説から統合失調症の D-細胞仮説へ：リヨン睡眠学派の精神医学への貢献

○池本 桂子
いわき市医療センター精神科（リエゾン科）

一般演題（ポスター）43 産業精神医学

3-P43-1 <演題取り下げ>

3-P43-2 食事の不規則さは心身のストレス反応と睡眠の問題を介してプレゼンティズムを引き起こす

○林田 泰斗¹、志村 哲祥²、藤村 洋太¹、井上 猛²
¹東京医科大学八王子医療センター、²東京医科大学病院

3-P43-3 一般成人における主観的健康感に及ぼす、特性不安、小児期虐待、成人期ライフイベントの影響

○内田 由寛^{1,2}、東 晋二^{1,2}、片山 成仁^{2,3}、井上 猛²
¹東京医科大学茨城医療センターメンタルヘルス科、²東京医科大学精神医学分野、³医療法人社団成仁病院精神科

3-P43-4 オンライン産業医面接に関する意識調査

○種市 摂子¹、唐澤 崇²、高橋 雅彦²、福本 正勝³、山本 義春¹
¹東京大学大学院教育学研究科、²ドクタートラスト株式会社、³株式会社電通

3-P43-5 復興業務に従事する自治体職員のメンタルヘルス被害 -リスクを減らす因子の検討

○中塚 尚子
立教大学現代心理学部

一般演題（ポスター）44 社会精神医学・多文化精神医学 1

3-P44-1 日本・ブラジル精神科医療情報交換会の報告

○増田 将人^{1,2}、原田 信治³、マリ ジャイール⁴、サレット パウロ⁵、吉田 常孝⁶、関崎 亮⁷、
木下 利彦⁸、岸本 年史⁹、川崎 弘詔¹
¹福岡大学医学部附属病院精神医学教室、²医療法人社団新光会不知火病院、³在サンパウロ日本国総領事館、
⁴サンパウロ連邦大学精神科、⁵サンパウロ大学精神科、⁶外務省診療所、⁷学校法人桐丘学園、株式会社Welcome to talk、
⁸関西医科大学総合医療センター、⁹奈良県立医科大学精神医療センター

3-P44-2 在ブラジル日系移民病院の視察・情報交換会の報告

○増田 将人^{1,2}、原田 信治³、レオネール フェルナンデス⁴、天内 ヴァルテル⁵、吉田 常孝⁶、
関崎 亮⁷、木下 利彦⁸、岸本 年史⁹、川崎 弘詔¹
¹福岡大学医学部附属病院精神医学教室、²医療法人社団新光会不知火病院、³在サンパウロ日本国総領事館、
⁴サンタクルス病院、⁵日伯友好病院、⁶外務省診療所、⁷学校法人桐丘学園、株式会社Welcome to talk、
⁸関西医科大学総合医療センター、⁹奈良県立医科大学精神医療センター

3-P44-3 DV を理由とした離婚訴訟における精神的損害の認定について -裁判判例棄却判決の検討-

○森下 順子、須田 史朗
自治医科大学精神医学講座

3-P44-4 <演題取り下げ>

3-P44-5 <演題取り下げ>

一般演題（ポスター）45
気分障害 2

3-P45-1 <演題取り下げ>

3-P45-2 知覚されたストレスによるリスク回避傾向の変化とうつ症状との関連性の検討

○萩原 康輔、陳 冲、雷 慧潔、古庵 伊吹、中川 拓海、弘津 正子、山形 弘隆、松原 敏郎、
中川 伸
山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

3-P45-3 うつ病の当事者やその家族における治療意思決定の現状と希望を含めた質問紙調査の結果報告

○坪井 貴嗣、渡邊 衡一郎
杏林大学医学部付属病院精神神経科学教室

3-P45-4 ウェアラブルモニターを用いたうつ状態の心拍変動と活動量 -活動/睡眠時間帯別の検討-

○古賀 賀恵¹、小松 陽子²、木村 博士³、篠崎 亮³、秀瀬 真輔¹、清水 祐輔²、石丸 園子²、功刀 浩¹
¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病第三部、
²東洋紡株式会社総合研究所快適性工学センター、³ユニオンツール株式会社開発部

一般演題（ポスター）46
疫学 2・その他

3-P46-1 模擬患者を活用した公認心理師のコミュニケーション教育の実践報告

○小野 久江、竹谷 怜子、高橋 友子
関西学院大学文学部総合心理科学科

3-P46-2 重度の心理的苦痛を抱える人々のがん検診受診率の経時的変化 -国民生活基礎調査データの解析

○藤原 雅樹¹、樋口 裕二²、中谷 直樹³、藤森 麻衣子⁴、山田 裕士⁵、和田 里穂⁵、江藤 剛⁶、
掛田 恭子⁷、内富 庸介⁸、中山 富雄⁹、山田 了士⁵、稲垣 正俊¹⁰
¹岡山大学病院精神科神経科、²こころの医療たいようの丘ホスピタル、³埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科、
⁴国立がん研究センター社会と健康研究センター健康支援研究部心理学研究室/コホート連携研究部連携推進研究室、
⁵岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学、⁶島根大学医学部附属病院看護部、
⁷高知大学医学部神経精神科学教室、⁸国立がん研究センター中央病院支持療法開発センター、
⁹国立がん研究センター社会と健康研究センター検診研究部、¹⁰島根大学医学部精神医学講座

3-P46-3 重度の心理的苦痛を抱える人々の喫煙率の経時的変化 -国民生活基礎調査データの解析

○藤原 雅樹¹、樋口 裕二²、中谷 直樹³、藤森 麻衣子⁴、山田 裕士⁵、和田 里穂⁵、江藤 剛⁶、
掛田 恭子⁷、内富 庸介⁸、山田 了士⁵、稲垣 正俊⁹
¹岡山大学病院精神科神経科、²こころの医療たいようの丘ホスピタル、³埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科、
⁴国立がん研究センター社会と健康研究センター健康支援研究部心理学研究室/コホート連携研究部連携推進研究室、
⁵岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学、⁶島根大学医学部附属病院看護部、
⁷高知大学医学部神経精神科学教室、⁸国立がん研究センター中央病院支持療法開発センター、
⁹島根大学医学部精神医学講座

3-P46-4 <演題取り下げ>

3-P46-5 入学時健康診断を用いた大学生の入学後の修学と関係する因子の検討

○大島 紀人¹、渡辺 慶一郎¹、佐々木 司²、柳元 伸太郎³
¹東京大学相談支援研究開発センターメンタルヘルス部門、²東京大学教育学研究科、³東京大学保健健康推進本部



一般演題（ポスター）47 社会精神医学・多文化精神医学2

- 3-P47-1 WHODAS2.0による関西医科大学総合医療センター精神科病棟の後方視的観察 -DSM5における『V軸』の着地点-
○青木 宣篤、西田 圭一郎、越川 陽介、木下 利彦
関西医科大学総合医療センター精神神経科
- 3-P47-2 言語の障壁による社会的孤立のため精神症状が増悪した在留外国人の一例
○ベトリッジ クリストファー心、羽岡 健史、梶本 隆夫、成島 直紀、商 真哲、寺尾 敦、菊池 章
浦和神経サナトリウム医局
- 3-P47-3 特定機能病院精神科病棟における多職種連携 -看護管理者を対象とする横断研究より-
○野崎 章子¹、森内 加奈恵²、小原 泉³
¹千葉大学大学院看護学研究科、²千葉大学医学部附属病院、³自治医科大学看護学部
- 3-P47-4 大災害後のコミュニティ支援に何が必要なのか～みやぎ心のケアセンターの活動分析からみえること～
○福地 成¹、片柳 光昭^{1,2}、松本 和紀^{1,3}、小高 晃^{1,4}、白澤 英勝⁵
¹みやぎ心のケアセンター、²東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野、
³東北大学大学院医学系研究科精神神経学学分野、⁴医療法人松田会エバグリーン病院、⁵医療法人東北会東北会病院
- 3-P47-5 福島第一原子力発電所事故により強制避難となった精神科入院患者の死亡率について
○後藤 大介¹、國井 泰人^{1,2}、星野 大¹、各務 竹康³、福島 哲仁³、矢部 博興¹
¹公立大学法人福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、
²公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座、
³公立大学法人福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座

ワークショップのご案内

ワークショップ						
	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
1	映像で学ぶ初診面接 -社交不安症編- (精神療法委員会)	池田 暁史	9月28日 (月)	8:30~10:10	E 会場	-
2	取り下げ	-	-	-	-	-
3	取り下げ	-	-	-	-	-
4	ICD-11 を適切に使うための知識 (ICD-11 委員会)	丸田 敏雅 秋山 剛 松本 ちひろ	9月28日 (月)	8:30~10:10	Q 会場	-
5	様々な場所で働く女性精神科医の仕事を知ろう (男女共同参画推進委員会)	安川 節子 加茂 登志子 布施 泰子	9月28日 (月)	8:30~10:10	R 会場	-
6	小児精神医療入門：新シリーズ (3) 子どもが示す症 状の多様性：その意味と疾患との関連について (小児精神医療委員会)	松本 英夫	9月28日 (月)	13:30~15:10	G 会場	-
7	<脳波の基礎コース>精神科医が脳波を学ぶ意義と研 修方法	原 恵子 矢部 博興	9月29日 (火)	8:30~10:10	M 会場	-
8	精神神経誌に掲載される論文の書き方 (精神神経学雑誌編集委員会)	大森 哲郎 細田 眞司	9月29日 (火)	8:30~10:10	O 会場	-
9	不安の精神療法 -日常診療でどう進めるか	中村 敬	9月29日 (火)	8:30~10:10	Q 会場	-
10	<脳波の応用コース>脳波検査とその解釈 脳波検査 をどう臨床にいかしていくのか	太田 克也 矢部 博興	9月29日 (火)	10:40~12:20	C 会場	-
11	現役エディターによる論文の書き方指導の講義と論文 投稿の個別相談会 (PCN 編集委員会)	橋本 亮太	9月29日 (火)	10:20~12:00	M 会場	-
12	複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ (精神保健に関する委員会)	河西 千秋 大塚 耕太郎	9月29日 (火)	13:40~15:20	G 会場	-
13	取り下げ	-	-	-	-	-
14	日常診療に診療ガイドラインは役に立つのか？	上野 修一 橋本 亮太	9月29日 (火)	16:00~17:40	O 会場	-



コース内容紹介

1

映像で学ぶ初診面接－社交不安症編－ (精神療法委員会)

9月28日(月) 8:30～10:10 E会場

司 会	(群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学講座) (文教大学人間科学部臨床心理学科)	福田 正人 池田 暁史
講 演 者	(東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科) (個人開業) (原田メンタルクリニック) (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)	中村 敬 藤山 直樹 原田 誠一 菊地 俊暁
コーディネーター	(文教大学人間科学部臨床心理学科)	池田 暁史

表情、抑揚、間の取り方など、面接の技法は「手続き知 procedural knowledge」であり、文字を通しての習得には限度がある。そのため本委員会ではマスターセラピストが架空の症例を演ずる模擬患者と面接する場面を録画し、その映像をもとに面接法を講義するワークショップを継続的に開催してきた。今回は社交不安症の患者の初診例を想定し、オリエンテーションの異なる3人の委員の模擬面接を収録し、それを素材にディスカッションする。社交不安症は回避性パーソナリティ障害との近縁性が指摘され、かなり生得的な要因が強い病態であることが知られてきているが、一方で精神分析理論、学習理論、あるいは森田理論などのさまざまな理論による理解とアプローチが可能な障害でもある。こうした理論を自身の背景として持つ臨床医が、通常の外来の初診面接において社交不安症患者と出会った場合、どのような側面に焦点を当てて患者の話を聴き、どのような介入を行うのか。実際の模擬面接場面の映像を基にし、これらを比較検討してみることは、社交不安症の臨床に関する知見を深めることにつながり、これらの障害を有する患者に対する関わり方や支援法を学ぶ貴重な機会を提供しうると考えている。

2 取り下げ



3

取り下げ

4

ICD-11 を適切に使うための知識
(ICD-11 委員会)

9月28日(月) 8:30~10:10 Q 会場

司 会	(NTT 東日本関東病院) (聖徳大学保健センター)	秋山 剛 丸田 敏雅
講 演 者	(日本精神神経学会) (東京大学医学部附属病院) (肥前精神医療センター) (東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野)	松本 ちひろ 近藤 伸介 本村 啓介 有馬 秀晃
コーディネーター	(聖徳大学保健センター) (NTT 東日本関東病院) (日本精神神経学会)	丸田 敏雅 秋山 剛 松本 ちひろ

世界保健機関 (World Health Organization : WHO) による第 11 回国際疾病分類 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Conditions, Eleventh Revision : ICD-11 : ICD-11) は 2019 年 5 月頃に世界保健総会で承認され、2022 年頃から導入される見込みである。精神分野は ICD-11 の派生分類である診断ガイドライン (Diagnostic Guidelines : DG) も作成されており、これが精神科臨床では不可欠のツールになると思われる。本ワークショップは、「ICD-11 を適切に使うための知識」と題して、全体の構造とコーディングの仕方、統合失調症または他の一次性精神症群の診断、気分症群の診断、そして産業精神保健で問題となる状態の ICD-11 の適用を取り上げる。上記の DG からそれらの該当箇所を紹介し、実際の運用の仕方を演者らと当ワークショップ参加者双方が参加して行う予定である。当ワークショップ参加者の ICD-11 についての理解を深めて頂く予定であり、いち早く最新の ICD-11 の情報を得ることができる。尚、本ワークショップで用いている病名は日本神経学会の新病名を用いる。



5

様々な場所で働く女性精神科医の仕事を知ろう (男女共同参画推進委員会)

9月28日(月) 8:30~10:10 R 会場

司 会	(若松町こころとひふのクリニック) (熊本ファミリーメンタルクリニック)	加茂 登志子 安川 節子
講 演 者	(茨城大学保健管理センター) (仙台市精神保健福祉総合センター) (有限責任監査法人トーマツ) (横浜市児童相談所)	布施 泰子 林 みづ穂 内田 淳子 田崎 みどり
コーディネーター	(熊本ファミリーメンタルクリニック) (若松町こころとひふのクリニック) (茨城大学保健管理センター)	安川 節子 加茂 登志子 布施 泰子

精神科医は、病院・診療所以外にも様々な場所で働いています。例えば、精神保健福祉センター、児童相談所、行政、大学の保健管理センター、企業の産業医、各種教育機関などです。地域の精神保健、児童虐待、DV、いじめ、ひきこもり、働き盛りのうつ病など社会問題に前線に対応しています。保険診療を行う医療機関との間に給与格差が生じているところもあります。現在話題になっている専門医機構の専攻医のシーリング問題では、このような分野の必要医師数は配慮されていません。本学会においても、上記の仕事は社会や健康を支える貴重な仕事だと共通認識はされており、専門医機構にも申し入れされています。これらの施設には女性精神科医がたくさん働いていますが、かれらの声を聞く機会は多くはありません。その理由の一つは、本学会では多数派(病院や診療所で働く精神科医)向けの演題が応募されやすいことでしょう。もう一つのは、家庭をもった女性精神科医は、性別役割分業意識の影響で、学会などに足を運ぶ機会が少なくなる傾向があるためと考えられます。今回は日ごろ聞く機会が少ない領域での先達の仕事について、知識を深めるワークショップにしていきたいと思います。活気ある女性精神科医に登壇していただきます。性別に関わらず精神科医としての視野を広げたり、ライフ・ワーク・バランスやキャリアを幅広く見直したりするきっかけになると考えます。なお、本ワークショップは男女共同参画推進委員会主催のシンポジウムと一体をなす企画となっています。

6

小児精神医療入門：新シリーズ(3) 子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について
(小児精神医療委員会)

9月28日(月) 13:30~15:10 G 会場

司 会	(東海大学医学部専門診療学系精神科学) (高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学)	松本 英夫 高橋 秀俊
講 演 者	(長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部) (東京都立大塚病院児童精神科) (東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野) (ときわ病院・ときわこども発達センター)	今村 明 鈴木 俊介 本多 奈美 館農 勝
コーディネーター	(東海大学医学部専門診療学系精神科学)	松本 英夫

小児精神医療委員会は、本学会専門医試験を受験することを目指している精神科医や、そのための研修を支え指導する指導医、さらには子どもの精神科医療に関心のある会員を対象として、子どもの精神科医療に関連する諸問題に関する均衡のとれた基本情報を提供することを目的に活動している。2013年から2017年までの5回の総会で一区切りとなったために、2018年度の総会から新シリーズが開始された。新シリーズでは当初の目的どおり専門医を目指す精神科医を対象にするため、子どもの精神科医療について基本的な事柄を伝え確認することが基本になる。しかし再受講する会員にも内容が新鮮で興味を持ちやすいように、前シリーズとは異なる切り口やテーマを設けるなど、さまざまな工夫をしている。今回は新シリーズの3回目であるが、昨年度の「子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について」のテーマで扱った4つの症状、すなわち「愛着の問題」、「多動」、「不安・抑うつ」、「精神病症状」に続くものである。第1席は「不安・強迫」(講師：館農 勝委員)と題して、不安のなかでも特に強迫に焦点づけて子どもから青年期における特徴について、第2席は「摂食の異常」(講師：本多奈美委員)と題して、幼児期から青年期に広く認められる摂食の異常について、第3席は「感情・行動の制御」(講師：鈴木俊介委員)と題して、子どもの感情・行動の制御の問題について、第4席は「トラウマ関連症状」(講師：今村 明委員)と題して、心的トラウマに関連する症状やその病態について、それぞれ解説を行う。例年と同様、4席の講義の後に、参加者との質疑応答の形式で議論を行う予定である。



7 <脳波の基礎コース>精神科医が脳波を学ぶ意義と研修方法

9月29日(火) 8:30~10:10 M会場

司 会	(埼玉医科大学) (医療法人明柳会恩田第二病院)	山内 俊雄 太田 克也
講 演 者	(埼玉医科大学) (埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科) (原クリニック精神科) (医療法人明柳会恩田第二病院) (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医学)	山内 俊雄 渡邊 さつき 原 恵子 太田 克也 高木 俊輔
コーディネーター	(原クリニック精神科) (福島県立医科大学医学部神経精神医学講座)	原 恵子 矢部 博興

本企画の最大の趣旨は、精神科医の脳波判読に対する心理的ハードルを下げ、今後、より多くの精神科医が脳波判読を行うようになるきっかけを提供することである。かつて、てんかんは本邦においてはてんかん三大精神疾患の1つであり、多くの精神科医がてんかん診療に重要な検査である脳波の判読を日常診療において行ってきた。多くの医局において生理学・脳波を専門とする医師が在籍し、若い医師が研修の初期段階で脳波判読を学ぶ機会があった。しかし、近年の精神科の研修では、てんかんや脳波判読を専門とする精神科医が減少し、その指導を受ける場が減少している。また、精神科医にとって脳波判読が「とっつきにくい」ものであり、研修を行う心理的ハードルが高いとの意見も聞かれる。一方で脳波判読は、てんかん、非けいれん性てんかん重積、昏迷、解離性障害をはじめとする精神症状、軽度意識障害、認知症、せん妄等との鑑別において重要な検査であり、現在においても脳波は精神科医に必須の知識・技能であることと認識されている。

昨年までの本学会においても臨床脳波検査の基礎を学ぶワークショップを行い、多くの参加者があり、脳波検査の基礎を学ぶことに対する精神科医のニーズは高い。本セッションでは、各演者に精神科医が脳波を行う意義や利点を再認識し、脳波判読の研修方法、心理的ハードルを乗り越えるための脳波判読導入として脳波検査の基本的な考え方や、はじめに押さえておきたい脳波判読の基礎知識について概説する。

精神神経誌に掲載される論文の書き方 (精神神経学雑誌編集委員会)

9月29日(火) 8:30~10:10 O会場

司 会	(徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野) (こころの診療所細田クリニック)	大森 哲郎 細田 眞司
講 演 者	(東邦大学医学部精神神経医学講座) (帝京平成大学大学院臨床心理学研究科) (横浜市立大学精神医学教室) (徳島大学医学部大学院医学系研究科キャンパスライフ健康支援センター) (東京大学精神保健学分野)	根本 隆洋 池淵 恵美 山口 博行 住谷 さつき 熊倉 陽介
コーディネーター	(徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野) (こころの診療所細田クリニック)	大森 哲郎 細田 眞司

精神神経学雑誌に多くの会員諸先生にもっと論文を発表していただきたくて本ワークショップを企画いたしました。

精神神経学雑誌は、18,000 余名の精神神経学会会員すべてに届けられています。それだけでなく、2019 年度からは症例報告を除くほぼすべての記事が刊行 1 年後に無料 Web 公開されるようになり、精神科に関心を持つすべての関係者がアクセスできる媒体となっています。日本の精神医学や精神科臨床を論ずるのにこれ以上ない舞台です。

掲載される論文は、大別すると依頼論文と投稿論文に分かれ、投稿論文は原著、総説、資料、症例報告、討論などに分かれています。投稿論文のテーマは、最近の動向として臨床に密着したものが主となり、研究室からというよりは診療現場から直接届くような論文が多くなっています。独創性や先駆性のある研究成果は国際誌への発表が当たり前となり、特定領域をカバーする国内専門誌が各種刊行されている現在では、精神神経学会全会員に届けられる本誌におけるこのような動向は時代の流れに沿うものです。これからも多くの会員諸先生が臨床現場からの報告を届けてくださることを願っています。もちろん精神科医全般に向けた本格的な研究論文も大歓迎いたします。

しかし、実際のところ、投稿論文をそのまま受理するのは例外的であり、構成、記述、考察、倫理的配慮さらには誤字脱字などについてまで、いくつかの再考ないし改訂をお願いすることが多いのが現状です。審査者の熱意のあまりコメントが増え、投稿者には厳しい要求と感じられることがあるかもしれませんが、審査する立場からは受理できる形となって論文が戻ってくることを心から願ってのことです。Peer Review とはそういうもので、編集委員が著者あるいは共著者として本誌あるいは他誌への投稿側に回ると、そのときには厳正な審査に納得しつつ改訂作業に励んでいます。

本ワークショップでは、雑誌に掲載されるためには何をどのように書けばよいのか、審査する立場からだけでなく投稿する立場からもご経験を語っていただく予定です。今後論文を投稿される若手や中堅の会員と、その指導医となる会員を聴衆に想定しています。

ワークショップでは、まず研究の着眼と論文の書き方に関する全般的な事項を、社会精神医学や神経心理学を専門とする研究者であり編集委員でもある根本隆洋先生に概説していただきます。ついで精神神経学雑誌への投稿経験も多くかつ審査経験も豊富な池淵恵美先生に、審査する立場と投稿する立場からのご経験を交えて語っていただきます。その後、最近の投稿論文の著者に、論文執筆、投稿、改訂、受理、掲載までのご経験を語っていただきます。この役割を「統合失調症におけるカトニアと幻視の関連」を発表された横浜市立大学の山口博行先生と、「長期にわたり気分の変動と摂食障害の症状が連動した双極性障害の一例」を発表された徳島大学の住谷さつき先生にお引き受けいただきました。最後に精神神経学雑誌への投稿のさいの注意点などについて編集事務局長の熊倉陽介先生に説明していただきます。

ワークショップを通して、精神神経学雑誌への関心と理解が高まり、会員からの投稿が増え、多くの優れた論文がこれまで以上に紙面を飾り、ひいては日本の精神医学と医療の進歩に少しでも貢献することを編集委員会一同願っています。

なお、本ワークショップは論文の書き方に焦点を置くものであり、特定の倫理指針の対象となる研究には該当しませんが、言及される既報論文は倫理指針に則って行われています。



9 不安の精神療法 -日常診療でどう進めるか

9月29日(火) 8:30~10:10 Q会場

司 会	(森田療法研究所・北西クリニック) (東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・森田療法センター)	北西 憲二 中村 敬
講 演 者	(慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室) (九州大学病院精神科神経科) (顕メンタルクリニック)	菊地 俊暁 村山 桂太郎 岩木 久満子
コーディネーター	(東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・森田療法センター)	中村 敬

不安は抑うつと並んで、精神科を訪れる患者たちの苦悩の源泉である。不安の感情はそれを中核症状とする不安症はもとより、他の様々な病態の患者たちにも分有されている。それだけに患者の不安をどう理解し、どのように治療的に扱うかは精神科診療の根幹をなすものである。今日ほとんどの精神科医は、不安の軽減を図るため抗不安薬やSSRIを処方するだろう。たしかにこれらの薬物は、精神病圏の患者を除けば不安の軽減に一定の効力を有しており、薬物療法は不安の治療において重要な一翼を担っている。とはいえ薬の処方が続けていくうちに、患者から「いつまで薬を飲めばいいのか」という疑問や懸念を寄せられることも稀ではなかろう。実際、不安の薬物療法は導入よりも終結の方がはるかに困難である。薬を処方されるだけでは患者は受身の立場に留まり、薬という外的な手段に不安の解決を委ねることになるため、いざ服薬を終えようとするとき無力感が顕在化しやすいのである。それゆえ薬物療法を補い、患者自身の自己効力感を高めていけるような広義の精神療法的アプローチが必要とされるのである。だが多忙な日常診療においては、一人の患者に割ける時間は平均して10分間程度であろう。そのような時間的制約の中で不安に対する精神療法をどのように進めていけばよいのか、それが今回のワークショップの問題意識である。当日は、不安のコントロールを主眼とする認知行動療法、不安の受容を導く森田療法というように、バックグラウンドの異なる3名の演者が、不安に対するアプローチを提示する。さらに参加者を交えた意見交換を通して、不安の治療に有効なアプローチを共有することにしたい。

＜脳波の応用コース＞脳波検査とその解釈 脳波検査をどう臨床にいかしているのか

9月29日(火) 10:40~12:20 C会場

司 会	(埼玉医科大学) (医療法人明柳会恩田第二病院院長)	山内 俊雄 太田 克也
講 演 者	(医療法人明柳会恩田第二病院院長) (原クリニック) (埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科) (東京医科歯科大学医学部附属病院)	太田 克也 原 恵子 渡邊 さつき 高木 俊輔
コーディネーター	(医療法人明柳会恩田第二病院院長) (福島県立医科大学医学部神経精神医学講座)	太田 克也 矢部 博興

Hans Berger によって 1929 年に人の脳波が報告されてから今年で 90 年を迎える。その間に臨床脳波は、アナログ脳波計からデジタル脳波計、ビデオ脳波同時記録といった機器の進歩や、解析対象とする周波数帯域はより広く (wideband EEG) といった解析方法の進歩などめざましい発展をとげた。加えて、てんかんのみならず多くの疾患を対象に、膨大な臨床の知見が蓄積されてきた。MRI など画像診断が存在感を示す現在においても、脳波検査は、日常診療においてルーチンとして行われ、脳波検査が臨床の治療方針の決定に一定の役割を果たす場面も多い。しかし、脳波検査は患者・被験者により結果に個人差が大きく、臨床においてはその解釈に悩むことは多い。本セッションでは、脳波検査、非てんかん性の脳波異常所見の判読とその解釈、てんかん性の脳波異常、発作時ビデオ脳波検査、睡眠障害の生理学的検査について、いかに臨床に生かすのか、我々は何を知り、何を学ぶことが出来るのか、議論する。本学会の脳波におけるセッションでは、今までほぼ脳波について学ぶ機会がなかった精神科医がいる一方で、一定の判読力を持ち、より高度な知識や議論の場を求めて参加する精神科医もいることから、基礎コースと応用コースを設け、ニーズに対応したい。このセッションでは、応用コースとして、基本的な脳波に関する知識や経験を有する参加者を対象とする。



現役エディターによる論文の書き方指導の講義と論文投稿の個別相談会 (PCN 編集委員会)

9月29日(火) 10:20~12:00 M会場

司 会	(九州大学病院) (慶應義塾大学病院)	神庭 重信 三村 将
講 演 者	(富山大学附属病院) (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部) (慶應義塾大学病院) (順天堂大学) (京都大学医学部附属病院)	鈴木 道雄 橋本 亮太 内田 裕之 加藤 忠史 藤本 岳
コーディネーター	(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部)	橋本 亮太

PCN (Psychiatry and Clinical Neurosciences) は、日本精神神経学会の伝統のある英文雑誌である。本雑誌は、国内英文雑誌という位置づけから、たくさんの研究者に引用される国際的雑誌として確立されている。例えば、論文の被引用数の指標であるインパクトファクターが、2019年度には3.489まで上昇したことは、精神医学領域で注目を浴びている。

このPCNは国際的なプレゼンスを高めるだけでなく、日本の精神医学領域の発展に貢献するために、研究論文に関する教育活動を行ってきた。昨年度の本学会学術大会から、正式な教育プログラムのワークショップとして行った「現役エディターによる論文の書き方指導の講義と論文投稿の個別相談会」を本年度も引き続き行うことを提案する。本ワークショップを通じて、多数の老若男女の精神科医が臨床・研究を両立できるようになることに貢献していきたい。

最近の自殺問題の動向と自殺予防医療 (精神保健に関する委員会)

9月29日(火) 13:40~15:20 G会場

司 会	(札幌医科大学医学部神経精神医学講座)	河西 千秋
講演者	(筑波大学) (帝京大学医学部附属溝口病院) (岩手医科大学) (札幌医科大学医学部神経精神医学講座)	太刀川 弘和 張 賢徳 大塚 耕太郎 河西 千秋
コーディネーター	(札幌医科大学医学部神経精神医学講座) (岩手医科大学)	河西 千秋 大塚 耕太郎

精神医療従事者は、日々、自殺関連行動に向き合い対応しなければなりません。自殺予防への取り組みは、精神医療においてマストですが、かつ最も難度の高い領域です。

当ワークショップは、当初、グループワークにより、自殺関連行動を呈する複雑事例のアセスメントと初期介入、および自殺予防のためのプランニングをしていく予定でしたが、感染拡大によるプログラム改編により、双方向のセミナー方式で開催することとなりました。

内容は、4つのレクチャーから構成され、1) 最近の日本の自殺問題の動向を踏まえ、2) 自殺のリスク因子について振り返りの学習をしていただきます。そして、その上で、3) 事例を提示しながら、自殺予防のためのリスク・アセスメントとプランニングについて、講師らが開発した 10 Essentials という自殺予防のための臨床教育資材に依拠したかたちで学習をしていただきます。そして、最後に、4) 現状の自殺予防医療に関連した診療報酬制度や、医療安全、がん医療などにおいて動き出している自殺対策について解説をいたします。この機会に、自殺問題の課題から臨床における minimum requirements と自殺予防医療の情報まで、学会総会参加者の皆様の知識と技術の整理に、当ワークショップを役立てていただければと思います。



13 取り下げ

14 日常診療に診療ガイドラインは役に立つのか？

9月29日(火) 16:00~17:40 O会場

司 会	(愛媛大学医学部附属病院) (杏林大学医学部附属病院)	上野 修一 渡邊 衡一郎
講演者	(国立精神・神経医療研究センター) (福岡大学) (兵庫医科大学) (岩手医科大学)	橋本 亮太 飯田 仁志 山田 恒 福本 健太郎
コーディネーター	(愛媛大学医学部附属病院) (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター)	上野 修一 橋本 亮太

統合失調症薬物治療ガイドライン、うつ病治療ガイドライン、双極性障害治療ガイドラインなどが公開されているが、精神科診療に日常的に用いられているとは言えないのが現状である。その理由には、精神科医療にはガイドラインがなじみにくいこと、ガイドラインが使いにくいこと、ガイドラインが使えない症例も多数あることがあげられる。本ワークショップにおいては、スモールグループの症例ディスカッションにて、臨床経験に基づいたガイドラインの使いこなし方、その意義と限界、更にはガイドラインにはない判断の仕方を学ぶ。答えが一つとは限らない日常診療場面について、ディスカッションを通じてお互いに意識を共有していくことができる機会になるワークショップであり、昨年も行い好評であったため引き続き行いたい。

推薦学会 日本神経精神薬理学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本うつ病学会



日本精神神経学会学術総会 会長一覧

回数	開催年		開催地	会長（または主催者）名（所属 職名）
	西暦	和暦		
第1	1902	明35	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
2	1903	明36	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
3	1904	明37	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
4	1905	明38	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
5	1906	明39	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授）
6	1907	明40	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
7	1908	明41	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
8	1909	明42	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
9	1910	明43	大阪	今村 新吉（大阪医科大学 教授）
10	1911	明44	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
11	1912	明45	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
12	1913	大2	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
13	1914	大3	東京	三浦謹之助（東京医科大学 教授）
14	1915	大4	福岡	榊 保三郎（九州医科大学 教授）
15	1916	大5	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
16	1917	大6	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
17	1918	大7	東京	呉 秀三（東京医科大学 教授）
18	1919	大8	東京	呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
19	1920	大9	東京	呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
20	1921	大10	東京	呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
21	1922	大11	京都	今村 新吉（京都帝国大学 教授）
22	1923	大12	東京	呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
23	1924	大13	東京	呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
24	1925	大14	福岡	榊 保三郎（九州帝国大学 教授）

回数	開催年		開催地	会長（または主催者）名（所属 職名）
	西暦	和暦		
25	1926	大15	東京	呉 秀三（東京帝国大学 教授）
26	1927	昭2	京都	今村 新吉（京都帝国大学 教授）
27	1928	昭3	東京	呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
28	1929	昭4	仙台	丸井 清泰（東北帝国大学 教授）
29	1930	昭5	大阪	和田 豊種（大阪医科大学 教授）
30	1931	昭6	東京	呉 秀三・三浦謹之助・ 三宅 鑛一・島蘭順次郎（東京帝国大学 教授）
31	1932	昭7	名古屋	北林 貞道（名古屋医科大学 教授）
32	1933	昭8	京都	今村 新吉（京都帝国大学 教授）
33	1934	昭9	東京	三宅 鑛一（東京帝国大学 教授）
34	1935	昭10	新潟	中村 隆治（新潟医科大学 教授）
35	1936	昭11	東京	三宅 鑛一（東京帝国大学 教授）
36	1937	昭12	岡山	林 道倫（岡山医科大学 教授）
37	1938	昭13	京都	久保昱二郎（京都府立医科大学 教授）
38	1939	昭14	東京	植松七九郎（慶應義塾大学 教授）
39	1940	昭15	大阪	和田 豊種（大阪帝国大学 教授）
40	1941	昭16	熊本	黒沢 良臣（熊本医科大学 教授）
41	1942	昭17	東京	内村 祐之（東京帝国大学 教授）
42	1943	昭18	名古屋	杉田 直樹（名古屋帝国大学 教授）
43	1946	昭21	東京	内村 祐之（東京帝国大学 教授）
44	1947	昭22	大阪	堀見 太郎（大阪帝国大学 教授）
45	1948	昭23	金沢	秋元波留夫（金沢医科大学 教授）
46	1949	昭24	東京	植松七九郎（慶應義塾大学 教授）
47	1950	昭25	京都	三浦 百重（京都大学 教授）
48	1951	昭26	東京	高良 武久（東京慈恵会医科大学 教授）
49	1952	昭27	福岡	中 脩三（九州大学 教授）
50	1953	昭28	仙台	石橋 俊実（東北大学 教授）
51	1954	昭29	名古屋	村松 常雄（名古屋大学 教授）
52	1955	昭30	京都	三浦 百重（京都大学 教授）
53	1956	昭31	新潟	上村 忠雄（新潟大学 教授）
54	1957	昭32	札幌	諏訪 望（北海道大学 教授）
55	1958	昭33	千葉	荒木 直躬（千葉大学 教授）
56	1959	昭34	東京	三浦 岱栄（慶應義塾大学 教授）
57	1960	昭35	久留米	王丸 勇（久留米大学 教授）
58	1961	昭36	岡山	奥村 二吉（岡山大学 教授）
59	1962	昭37	松本	西丸 四方（信州大学 教授）



回数	開催年		開催地	会長（または主催者）名（所属 職名）
	西暦	和暦		
60	1963	昭38	大阪	金子 仁郎（大阪大学 教授）
61	1964	昭39	盛岡	三浦 信之（岩手医科大学 教授）
62	1965	昭40	広島	小沼十寸穂（広島大学 教授）
63	1966	昭41	東京	秋元波留夫（東京大学 教授）
64	1967	昭42	名古屋	堀 要（名古屋大学 教授）
65	1968	昭43	長崎	仁志川種雄（長崎大学 教授）
66	1969	昭44	金沢	島藺 安雄（東京医科歯科大学 教授）
67	1970	昭45	徳島	今泉恭二郎（徳島大学 教授）
68	1971	昭46	東京	加藤 正明（国立精神衛生研究所 所長）
69	1972	昭47	大阪	太田 幸雄（大阪赤十字病院精神神経科 科長）
70	1973	昭48	名古屋	井上 正吾（三重県立高茶屋病院 院長）
71	1974	昭49	東京	島藺 安雄（東京医科歯科大学 教授）
72	1975	昭50	東京	宮本 忠雄（自治医科大学 教授）
73	1977	昭52	東京	岡田 幸夫（近畿大学 教授）
74	1978	昭53	東京	長谷川和夫（聖マリアンナ医科大学 教授）
75	1979	昭54	広島	更井 啓介（広島大学 教授）
76	1980	昭55	浜松	大原健士郎（浜松医科大学 教授）
77	1981	昭56	名古屋	笠原 嘉（名古屋大学 教授）
78	1982	昭57	京都	加藤 伸勝（京都府立医科大学 教授）
79	1983	昭58	札幌	山下 格（北海道大学 教授）
80	1984	昭59	福岡	西園 昌久（福岡大学 教授）
81	1985	昭60	東京	野口 拓郎（埼玉医科大学 教授）
82	1986	昭61	盛岡	切替 辰哉（岩手医科大学 教授）
83	1987	昭62	東京	森 温理（東京慈恵会医科大学 教授）
84	1988	昭63	大阪	斎藤 正己（関西医科大学 教授）
85	1989	平元	金沢	山口 成良（金沢大学 教授）
86	1990	平2	鹿児島	松本 啓（鹿児島大学 教授）
87	1991	平3	東京	風祭 元（帝京大学 教授）
88	1992	平4	高槻	堺 俊明（大阪医科大学 教授）
89	1993	平5	東京	宮坂 松衛（獨協医科大学 教授）
90	1994	平6	松山	柿本 泰男（愛媛大学 教授）
91	1995	平7	長崎	中根 允文（長崎大学 教授）
92	1996	平8	札幌	高畑 直彦（札幌医科大学 教授）
93	1997	平9	東京	融 道男（東京医科歯科大学 教授）
94	1998	平10	宜野湾	小椋 力（琉球大学 教授）
95	1999	平11	東京	鈴木 二郎（東邦大学 教授）

回数	開催年		開催地	会長（または主催者）名（所属 職名）
	西暦	和暦		
96	2000	平12	仙台	佐藤 光源（東北大学 教授）
97	2001	平13	大阪	武田 雅俊（大阪大学 教授）
98	2002	平14	横浜	山崎 晃資（東海大学 教授）
99	2003	平15	東京	牛島 定信（東京慈恵会医科大学 教授）
100	2004	平16	札幌	小山 司（北海道大学 教授）
101	2005	平17	埼玉	山内 俊雄（埼玉医科大学 学長）
102	2006	平18	福岡	前田 久雄（久留米大学 教授）
103	2007	平19	高知	井上 新平（高知大学 副学長）
104	2008	平20	東京	鹿島 晴雄（慶應義塾大学 教授）
105	2009	平21	神戸	前田 潔（神戸大学 教授）
106	2010	平22	広島	山脇 成人（広島大学 教授）
107	2011	平23	東京	三國 雅彦（群馬大学 教授）
108	2012	平24	札幌	齋藤 利和（札幌医科大学 教授）
109	2013	平25	福岡	神庭 重信（九州大学 教授）
110	2014	平26	横浜	宮岡 等（北里大学 教授）
111	2015	平27	大阪	岸本 年史（奈良県立医科大学 教授）
112	2016	平28	千葉	中山 和彦（東京慈恵会医科大学 教授）
113	2017	平29	名古屋	尾崎 紀夫（名古屋大学 教授）
114	2018	平30	神戸	米田 博（大阪医科大学 教授）
115	2019	令和元	新潟	染矢 俊幸（新潟大学 教授）
116	2020	令和2	仙台	矢部 博興（福島県立医科大学 教授）



広告掲載企業（五十音順）

エーザイ株式会社

大塚製薬株式会社

科学評論社

株式会社三京房

塩野義製薬株式会社

株式会社スペクトラテック

大日本住友製薬株式会社

武田薬品工業株式会社

日本ケミファ株式会社

ファイザー株式会社

ヤンセンファーマ株式会社

ルンドベック・ジャパン株式会社

受講記録表

- 195 -

受講記録表

発表番号	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	M会場	N会場	O会場	P会場	Q会場	R会場	会場	
8:00																				
8:30	8:30～9:30 教育講演7 精神医学の発展 と臨床応用 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム13 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム32 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム33 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム34 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム35 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）		8:30～9:30 一般演説 （口演）15 統合失調症3 2-015-1～2-015-3 2-016-1～2-016-5	8:30～9:30 一般演説 （口演）16 統合失調症3 2-016-1～2-016-5	8:30～10:30 シンポジウム36 神経発達症と精 神医学の発展 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム37 急性精神科の診 断と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム38 不安症・強迫症 の診断と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 ワーキンググループ 不安症・強迫症 の診断と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム39 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 ワーキンググループ 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム40 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 ワーキンググループ 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）		8:00	
9:00	9:40～10:40 特別講演4 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム13 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム32 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム33 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム34 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム35 自閉スペクトラム 障害児の臨床 と研究 小林 隆夫 （精神科）		9:40～10:40 一般演説 （口演）17 統合失調症4 2-017-1～2-017-3 2-018-1～2-018-5	9:40～10:40 一般演説 （口演）18 統合失調症4 2-018-1～2-018-5	8:30～10:30 シンポジウム41 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム42 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム43 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム44 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム45 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム46 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム47 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム48 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	8:30～10:30 シンポジウム49 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	9:00	
9:30																			9:30	
10:00																			10:00	
10:30																			10:30	
11:00	11:10～12:10 受賞報告会	10:40～12:40 シンポジウム42 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム43 少年法適用年齢 引き下げにつ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム44 少年法適用年齢 引き下げにつ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム45 少年法適用年齢 引き下げにつ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム46 少年法適用年齢 引き下げにつ いて考える 小林 隆夫 （精神科）		10:50～11:50 一般演説 （口演）19 児童・若年性 発達障害3・その他 2-019-1～2-019-3 2-020-1～2-020-5	10:50～11:50 一般演説 （口演）20 児童・若年性 発達障害3・その他 2-020-1～2-020-5	10:40～12:40 シンポジウム47 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム48 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム49 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム50 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム51 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム52 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム53 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム54 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	10:40～12:40 シンポジウム55 児童精神科に精 神科医が活躍 する 小林 隆夫 （精神科）	11:00	
11:30																			11:30	
12:00																			12:00	
12:30	12:30～13:30 先遣に臨く 精神科医Hans Beggsの来日 先遣に臨く																		12:30	
13:00																			13:00	
13:30																			13:30	
14:00	13:40～15:40 シンポジウム50 主治医・産業医 と患者の協働 小林 隆夫 （精神科）	13:40～14:40 教育講演9 認知症高齢者の 意思決定支援 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム51 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム52 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム53 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム54 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム55 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	13:40～14:40 一般演説 （口演）21 依存・行動強 迫3 2-021-1～2-021-5 2-022-1～2-022-5	13:40～14:40 一般演説 （口演）22 依存・行動強 迫3 2-022-1～	13:40～15:40 シンポジウム56 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム57 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム58 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム59 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム60 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム61 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム62 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム63 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	13:40～15:40 シンポジウム64 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:00	
14:30	14:30～15:30 シンポジウム50 主治医・産業医 と患者の協働 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 教育講演10 認知症高齢者の 意思決定支援 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム51 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム52 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム53 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム54 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム55 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム56 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム57 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム58 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム59 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム60 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム61 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム62 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム63 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム64 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:50～15:50 シンポジウム65 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	14:30		
15:00																			15:00	
15:30																			15:30	
16:00	16:00～18:00 シンポジウム50 主治医・産業医 と患者の協働 小林 隆夫 （精神科）	16:00～17:00 教育講演11 認知症高齢者の 意思決定支援 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム51 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム52 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム53 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム54 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム55 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～17:00 一般演説 （口演）23 依存・行動強 迫3 2-023-1～2-023-3 2-024-1～2-024-4 2-025-1～2-025-5	16:00～17:00 一般演説 （口演）24 依存・行動強 迫3 2-024-1～2-024-4 2-025-1～2-025-5	16:00～18:00 シンポジウム56 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム57 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム58 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム59 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム60 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム61 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム62 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム63 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム64 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム65 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00
16:30	16:00～18:00 シンポジウム50 主治医・産業医 と患者の協働 小林 隆夫 （精神科）	16:00～17:00 教育講演11 認知症高齢者の 意思決定支援 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム51 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム52 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム53 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム54 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム55 精神医学は心 わが国における 大規模調査から わが国の精神科 医療の現状につ いて考える 小林 隆夫 （精神科）	16:00～17:00 一般演説 （口演）25 依存・行動強 迫3 2-025-1～2-025-3 2-026-1～2-026-5	16:00～17:00 一般演説 （口演）26 依存・行動強 迫3 2-026-1～2-026-5	16:00～18:00 シンポジウム56 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム57 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム58 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム59 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム60 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム61 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム62 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム63 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム64 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:00～18:00 シンポジウム65 認知症の診断 と治療 小林 隆夫 （精神科）	16:30
17:00																			17:00	
17:30																			17:30	
18:00																			18:00	
18:30																			18:30	
19:00																			19:00	
19:30																			19:30	

一般演題（ポスター）座長一覧

セッション 番号	担当カテゴリ	座長名前	座長所属
一般演題 （ポスター）	1 統合失調症 1	大井 一高	岐阜大学医学部附属病院精神科
	2 統合失調症 2	中込 和幸	国立精神・神経医療研究センター
	3 統合失調症 3	富田 哲	弘前大学医学部附属病院神経科精神科
	4 気分障害 1	加藤 忠史	順天堂大学医学部附属病院精神医学教室
	5 疫学 1・その他	板垣 俊太郎	福島県立医科大学医学部 神経精神医学講座
	6 認知症 1	繁田 雅弘	東京慈恵会医科大学精神医学講座
	7 認知症 2	川勝 忍	福島県立医科大学 会津医療センター
	8 脳器質性・症状性精神障害 1	吉村 匡史	関西医科大学 精神神経科学教室
	9 脳器質性・症状性精神障害 2	中村 雅之	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野
	10 脳器質性・症状性精神障害 3	鈴木 昭仁	山形大学医学部精神医学講座
	11 児童・思春期・発達障害 1・その他	八木 淳子	岩手医科大学 医学部神経精神科学講
	12 児童・思春期・発達障害 2	桐野 衛二	順天堂大学医学部付属静岡病院メンタルクリニック
	13 薬物療法 1	鈴木 雄太郎	医療法人敬愛会 末広橋病院 精神科
	14 薬物療法 2	伊賀 淳一	愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座
	15 神経画像	大久保 善朗	日本医科大学大学院 精神行動医学
	16 統合失調症 4	坪井 貴嗣	杏林大学医学部精神神経科学教室
	17 統合失調症 5	伊豫 雅臣	千葉大学大学院医学研究院 精神医学
	18 気分障害 3	山田 和男	東北医科薬科大学病院 精神科
	19 気分障害 4	中川 伸	山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座
	20 神経生理学・神経科学	鬼塚 俊明	九州大学大学院医学研究院精神病態医学
	21 依存・行動嗜癖 1	菱本 明豊	横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門
	22 依存・行動嗜癖 2	志賀 哲也	福島県立医科大学医学部 神経精神医学講座
	23 児童・思春期・発達障害 3	飯田 順三	奈良県立医科大学医学部看護学科 人間発達学
	24 児童・思春期・発達障害 4	斉藤 まなぶ	弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座
	25 児童・思春期・発達障害 5	本間 博彰	星総合病院精神科
	26 コンサルテーション・リエゾン 1	竹内 崇	東京医科歯科大学医学部附属病院 精神科
	27 コンサルテーション・リエゾン 2	明智 龍男	名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野
	28 コンサルテーション・リエゾン 3	石原 武士	川崎医科大学精神科学
	29 ECT・ニューロモデュレーション 1	嶽北 佳輝	関西医科大学 精神神経科学講座
	30 ECT・ニューロモデュレーション 2	鬼頭 伸輔	国立精神・神経医療研究センター病院、 東京慈恵会医科大学 精神医学講座
	31 研修医・医学部生演題	國井 泰人	福島県立医科大学会津医療センター 精神医学講座
	32 統合失調症 6	金沢 徹文	大阪医科大学 神経精神科
	33 統合失調症 7	須貝 拓朗	新潟大学医学部総合医学教育センター
	34 神経症性障害	林 博史	山形大学医学部 精神医学講座
	35 てんかん	千葉 茂	旭川医科大学医学部 精神医学講座
	36 睡眠障害	中島 亨	杏林大学保健学部臨床心理学科
	37 摂食障害	山田 恒	兵庫医科大学 精神科神経科学講座
	38 その他	三浦 至	福島県立医科大学医学部 神経精神医学講座
	39 地域精神医療	田崎 博一	一般財団法人愛成会 弘前愛成会病院
	40 精神科救急	福本 健太郎	岩手医科大学神経精神科学講座
	41 精神療法・心理社会療法	浅田 護	医療法人あさだ会 浅田心療クリニック
	42 動物モデル・基礎研究	牧之段 学	奈良県立医科大学精神医学講座
	43 産業精神医学	堀 輝	産業医科大学医学部精神医学教室
	44 社会精神医学・多文化精神医学 1	須田 史朗	自治医科大学 精神医学講座
	45 気分障害 2	加藤 正樹	関西医科大学 精神神経科
	46 疫学 2・その他	増子 博文	福島県発達障がい者支援センター
	47 社会精神医学・多文化精神医学 2	本多 奈美	東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野